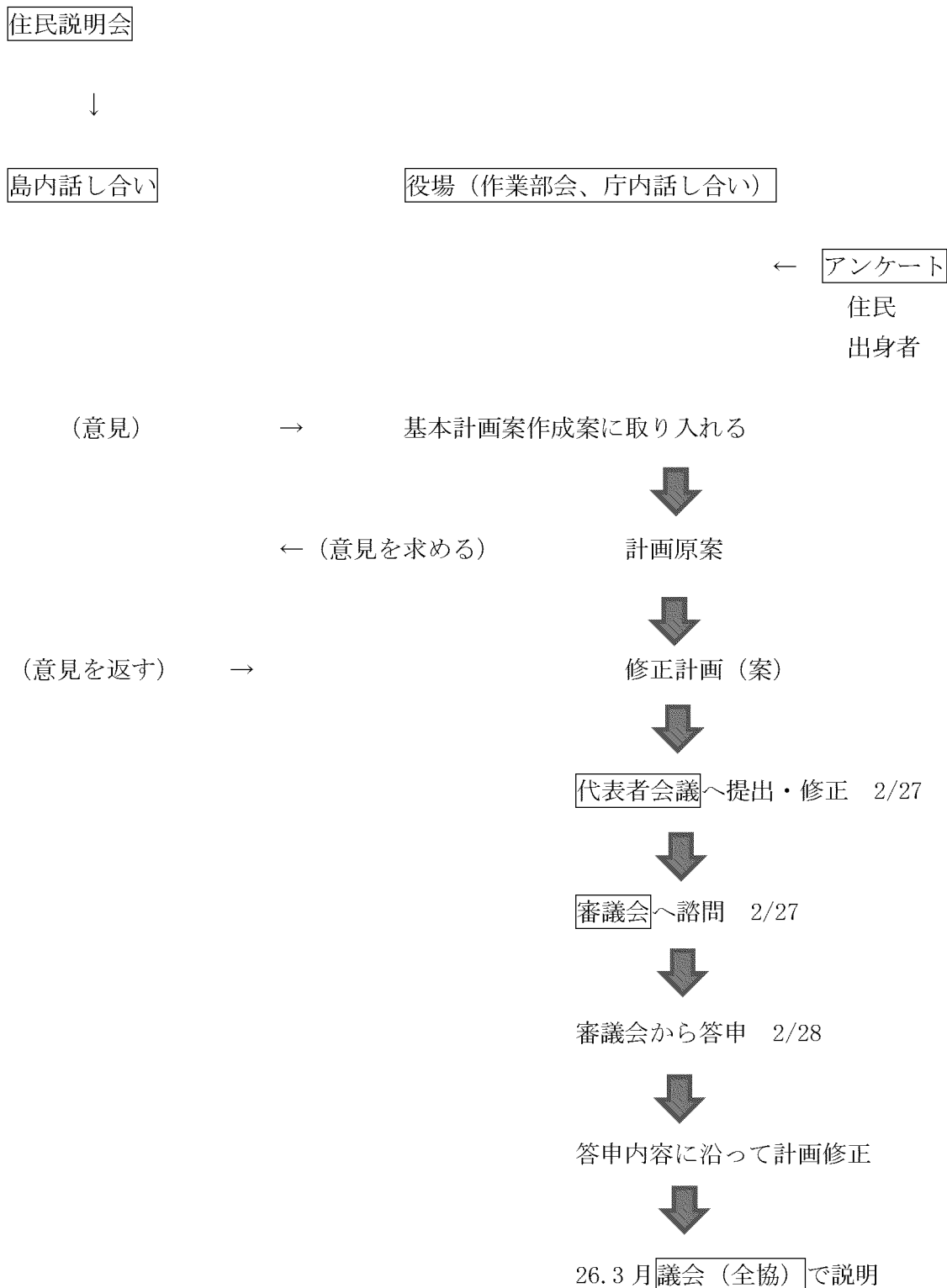


《参考資料》

- ① 第5次十島村総合振興計画策定の経過
- ② アンケート調査報告書
 - ・住民アンケート
 - ・出身者アンケート
- ③ 各島検討会意見
- ④ 振興計画策定に関する提言
- ⑤ 十島村総合振興計画審議会 審議委員名簿
- ⑥ 十島村総合振興計画 作業部会委員名簿

第5次十島村総合振興計画策定の経過

1 策定のフローチャート



2 策定経過

平成 25 年 6 月下旬	座談会にて担当者から説明（悪）
6 月下旬～7 月上旬	職員による説明会を全島で実施。各島検討会の発足
7 月中旬	第 1 回検討会（本庁、各島）
7 月下旬	座談会にて担当者から説明（口・中・平・諏・小・宝）
8 月上旬～12 月	各島にて検討会の実施
8 月 9 日～9 月 20 日	住民アンケートの実施
9 月 11 日～9 月 30 日	出身者アンケートの実施
12 月 10 日	審議会委員の委嘱依頼（18 名）
1 月 27 日	基本計画（案）を地域への照会
2 月 27 日	代表者会議、第 1 回審議会（諮問）
2 月 28 日	第 2 回審議会（答申）
3 月 14 日	基本計画の実実施計画の取りまとめ
3 月 18 日	3 月定例村議会協議会において報告

3 島内での話し合い活動

口之島	2 回開催	（10 月中旬、11 月上旬）
中之島	2 回開催	（8 月上旬、9 月上旬）
平島	4 回開催	（7 月下旬、8 月上旬、9 月上旬に 2 回）
諏訪之瀬島	1 回開催	（12 月中旬）
悪石島	1 回開催	（10 月上旬）
小宝島	2 回開催	（10 月上旬、12 月上旬）
宝島	3 回開催	（9 月上旬、9 月中旬、9 月下旬）

4 庁内（作業部会等）での取組み状況

作業部会	計 6 回実施（6/20、7/5、8/8、9/19、2/20、2/21）
庁内話し合い	計 6 回実施（10/17、10/22、11/7、11/14、11/21、12/5）

5 アンケート調査

(1) 村内アンケート

8月9日～9月20日にかけて実施、546件に対し、364件の回答

地区名	配布数	回収数	回収率
口之島	111	84	75.67%
中之島	126	42	34.12%
平島	57	42	73.68%
諏訪之瀬島	53	51	96.22%
悪石島	52	42	78.84%
小宝島	41	19	46.34%
宝島	106	84	79.24%
無回答	—	0	—
合計	546	364	66.67%

(2) 出身者アンケート

ふるさと会等出身者へ配布 配布数 196件、回答数 88件（回収率 44.9%）

6 基本構想及び基本計画

基本構想および基本計画については、基本計画などを元に庁内で案を作成。代表者会議を経て、2月27、28日に開催された審議会に諮問、答申がなされ、審議会の承認が得られた。

基本構想は、理想とする地域像を掲げ、その取組み方の基本となる考え方・基本理念は第4次総合振興計画の理念を引き継ぎ、取り組むべき大きな分野を大綱として掲げ、その大綱にさらに26に細分化した分野別の基本計画を掲げています。

7 実施計画について

実施計画は、具体的には過疎計画（平成22年度から27年度、次期計画）に置き換えるとしておりますが、基本計画を踏まえて今後10年間での大まかな事業を取りまとめております。

アンケート調査報告書

1. 調査の概要

平成 26 年度から新たにスタートする「第 5 次十島村総合振興計画」の策定に当たり、住民の意向やニーズを幅広く把握し、基本方針や重点施策等の検討に反映させるため、以下の要領でアンケート調査を実施した。

(1)実施期間

平成 25 年 8 月 9 日～平成 25 年 9 月 20 日

(2)調査対象者

十島村に住民登録されている 15 歳以上の方

(3)調査票の配布・回収の方法及び回収結果

調査票の配布・回収は、出張所にて全 546 部配布し、出張員において回収した。その結果、有効回収数は 364 件、有効回収率は 66.7%。

◆地区別配布数及び回収数

地区名	配布数	回収数	回収率
口之島	111	84	75.7%
中之島	126	42	34.1%
平島	57	42	73.7%
諏訪之瀬島	53	51	96.2%
悪石島	52	42	78.8%
小宝島	41	19	46.3%
宝島	106	84	79.2%
無回答	—	0	—
合計	546	364	66.7%

(4)調査項目

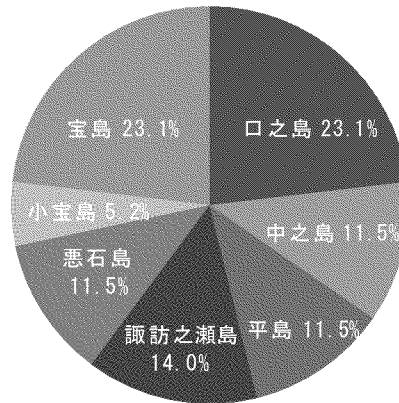
1. 十島村の全体的なイメージの変化（対 10 年前）
2. 十島村の魅力
3. 十島村の住みやすさ
4. 定住意向と定住促進策
5. 十島村が取り組むうえで最も重要な課題と各分野別の重要施策
6. 村営住宅について
7. インターネットの利用状況
8. 村からのお知らせについて
9. 村営船の運営について
10. 地域活動への参加意向
11. 高齢者の地域活動への参加
12. 行政への村民参加・村政座談会について
13. 役場の所在地・機能と移転の考え方について

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

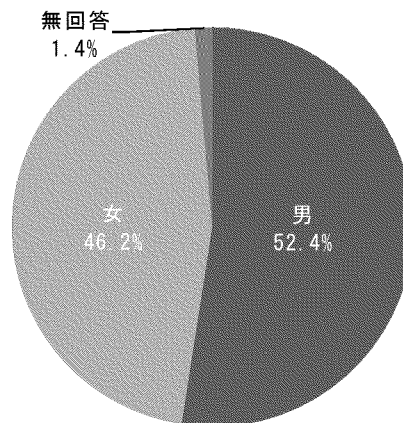
問1 居住地

【居住地(n=364)】



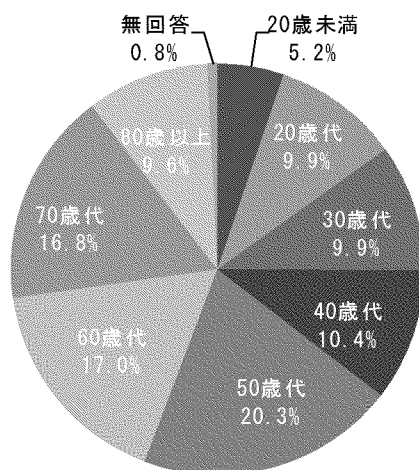
問2 性別

【性別(n=364)】



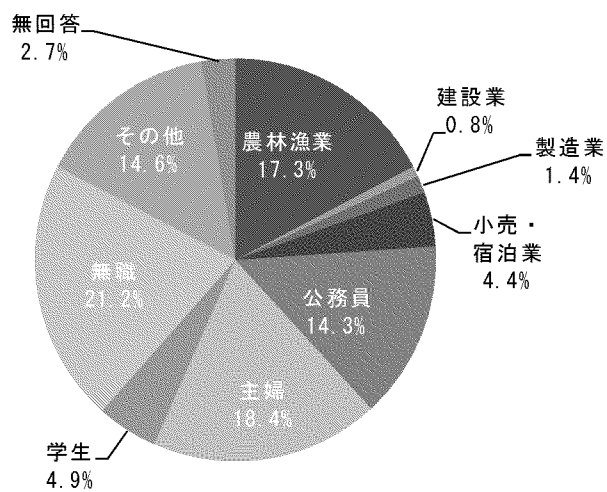
問3 年齢

【年齢(n=364)】

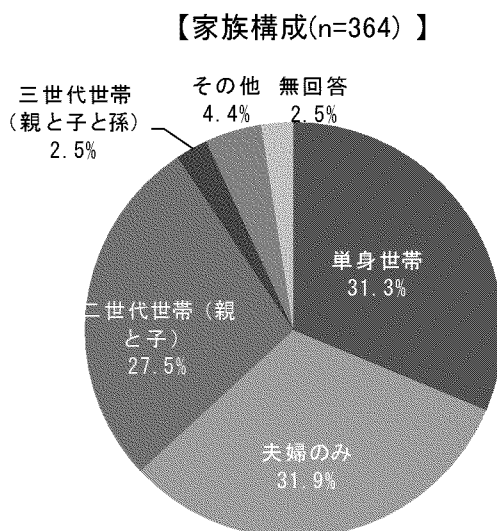


問4 職業

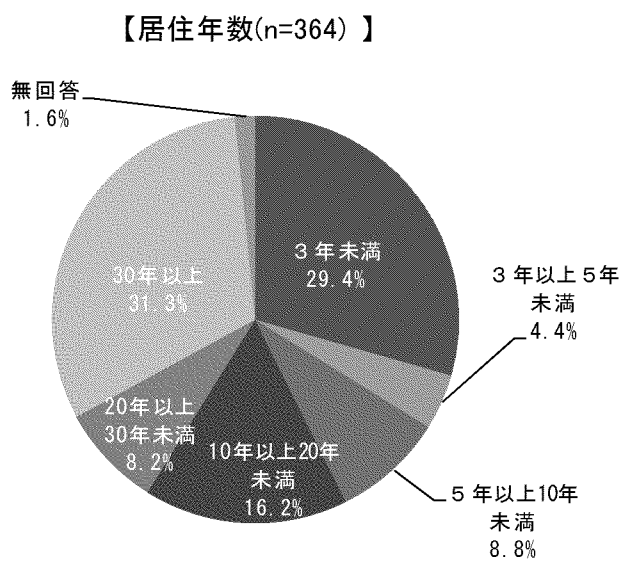
【職業(n=364)】



問 5 家族構成

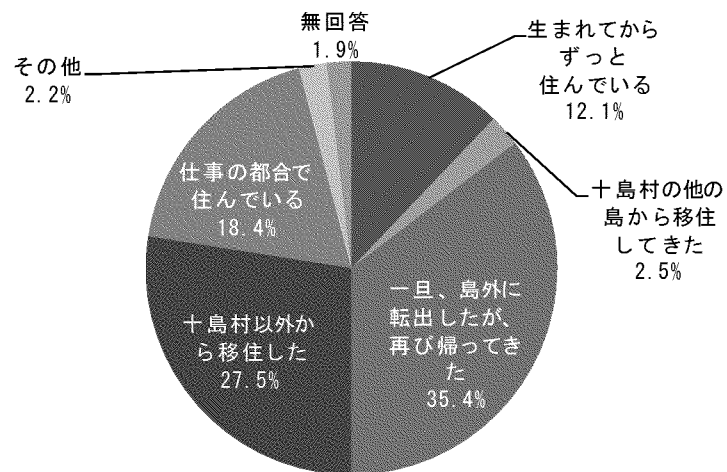


問 6 十島村の居住年数



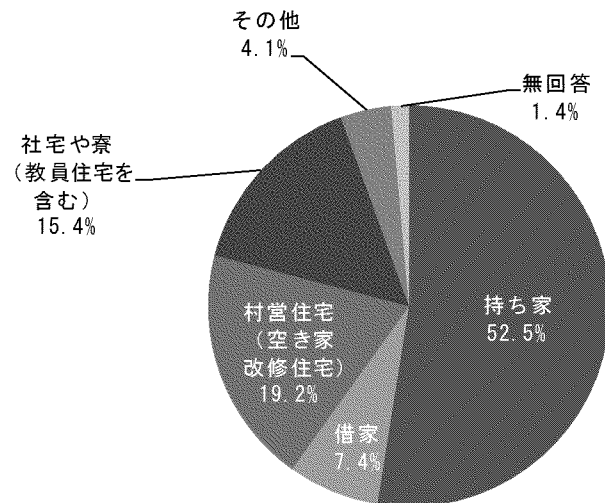
問7 十島村との関係

【十島村との関係 (n=364)】



問8 住宅の種類

【住宅の種類(n=364)】



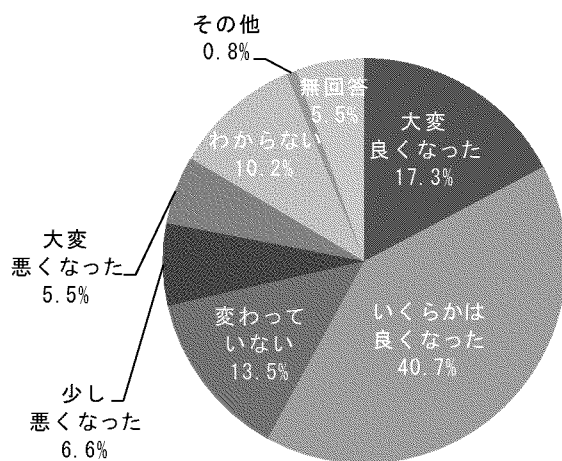
(2)個別設問

問9 十島村の全体的なイメージ(10年前に比べて)

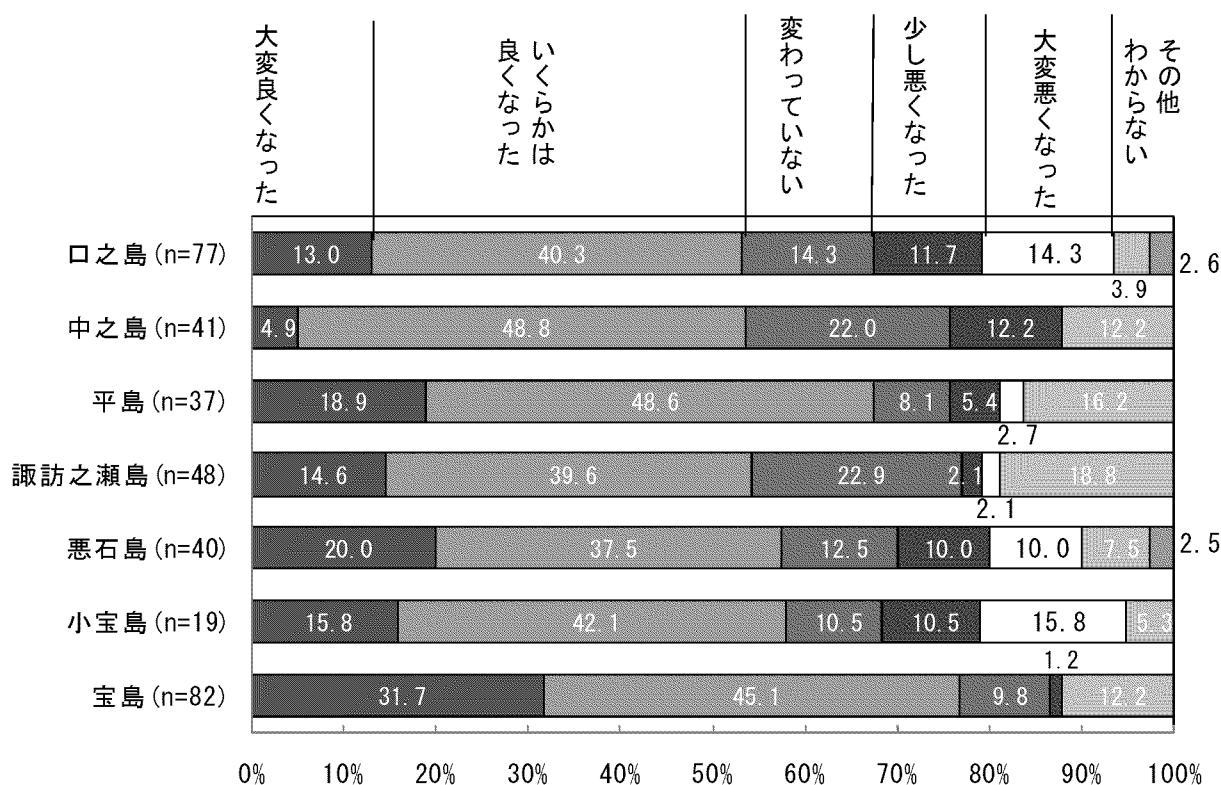
～ 全体的には「良くなった」が58.0%、「悪くなった」が12.1%

- 10年前に比べ、十島村のイメージが「大変良くなった」は17.3%、「いくらかは良くなった」は40.7%で、これらを合わせた「良くなった」は58.0%。一方、「大変悪くなった」は5.5%、「少し悪くなった」は6.6%で、これらを合わせた「悪くなった」は12.1%。
- 島別には、「良くなった」は口之島が53.3%、中之島が53.7%、平島が67.5%、諏訪之瀬島が54.2%、悪石島が57.5%、小宝島が57.9%、宝島が76.8%。一方、「悪くなった」は、口之島が26.0%、中之島が12.2%、平島が8.1%、諏訪之瀬島が4.2%、悪石島が20.0%、小宝島が26.3%、宝島が11.0%。
- 年齢別には、若い世代で「良くなった」の割合が他の年代に比べて低く、全体としては年齢が上がるにつれて「良くなった」の割合は高まっている。

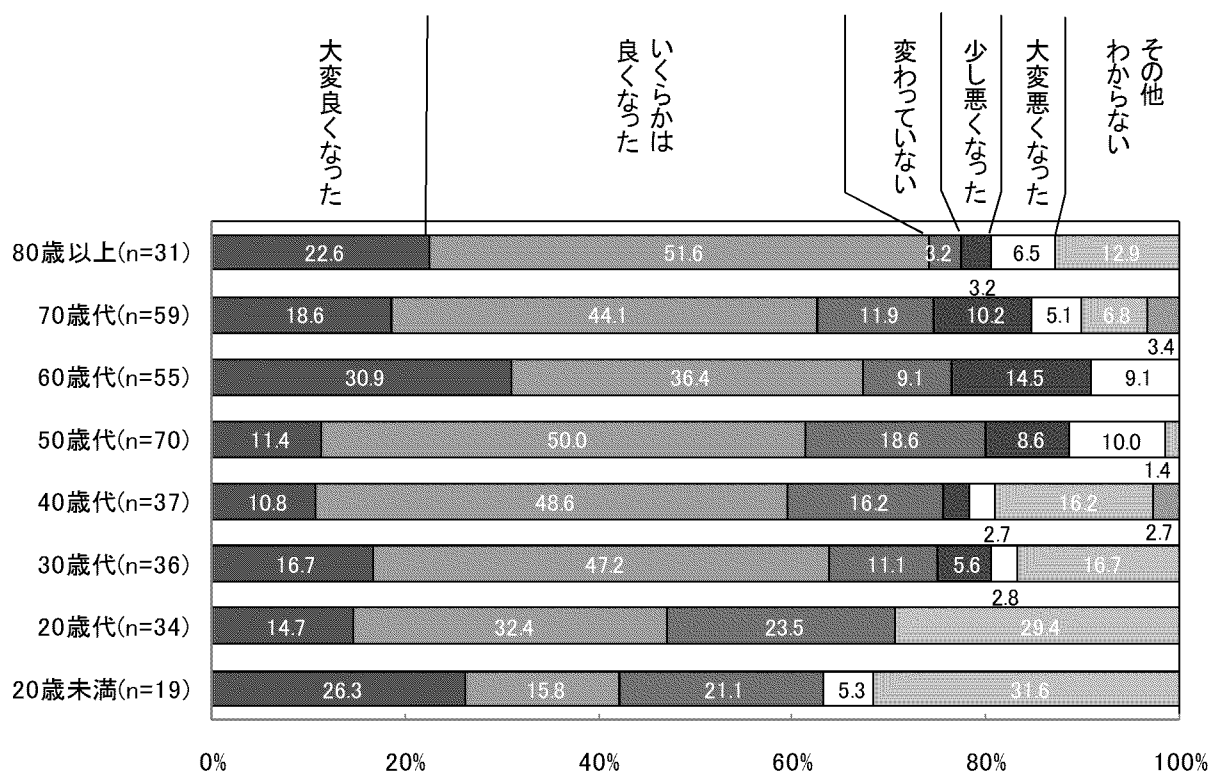
【十島村のイメージ(n=364)】



【十島村のイメージ】



【十島村のイメージ】

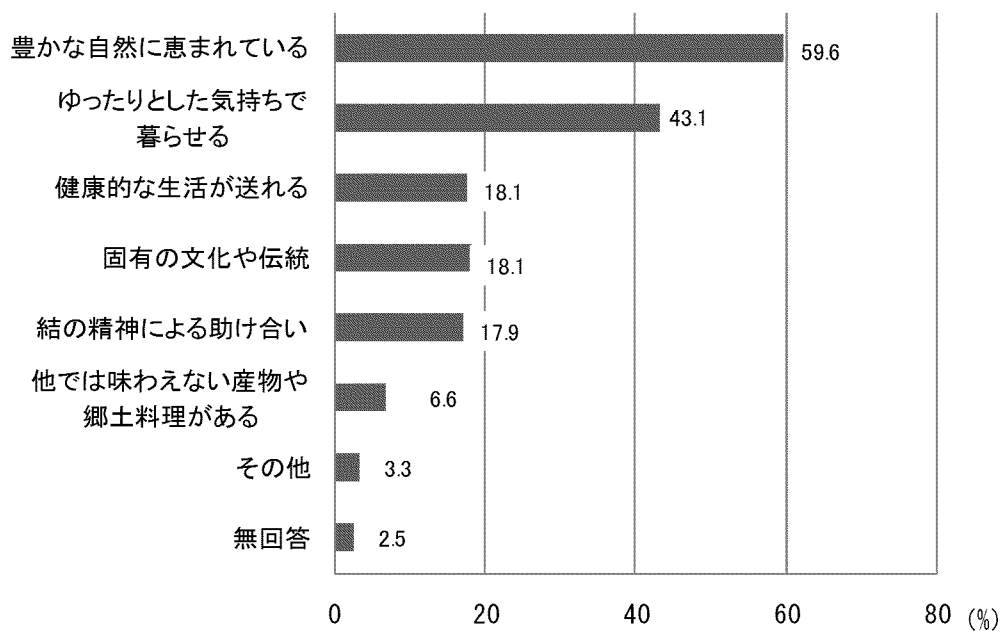


問 10 十島村の魅力(複数回答:2つまで)

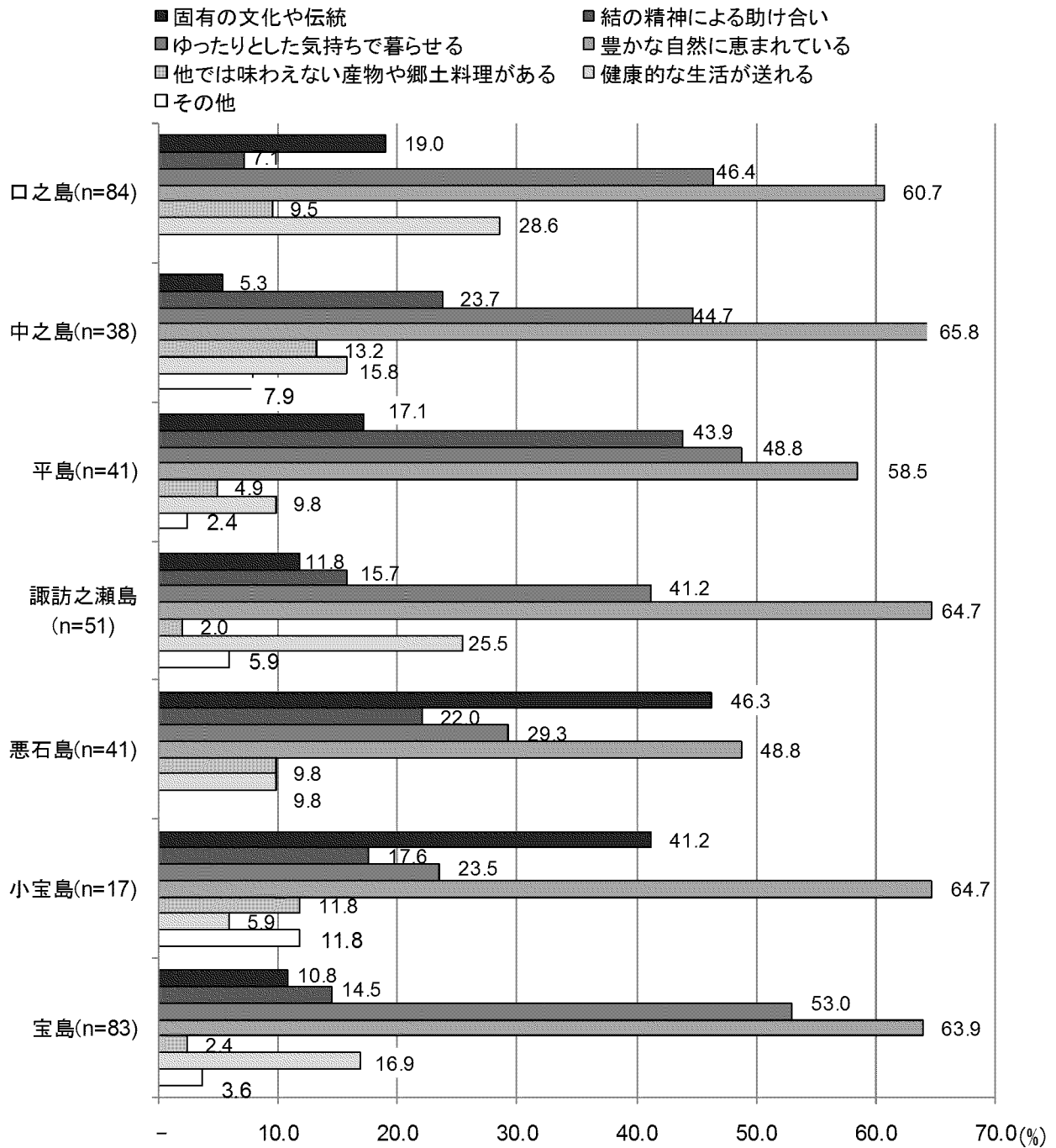
～ 十島村の魅力は「豊かな自然に恵まれている」、「ゆったりとした気持ちで暮らせる

- 十島村の魅力は、「豊かな自然に恵まれている」が 59.6%で最も多く、次いで「ゆったりとした気持ちで暮らせる」が 43.1%、「健康的な生活が送れる」と「固有の文化や伝統」がいずれも 18.1%、「結の精神による助け合い」 17.9%となった。
- 地区別にみると、「豊かな自然に恵まれている」では中之島 (65.8%)、「ゆったりとした気持ちで暮らせる」では宝島 (53.0%)、「固有の文化や伝統」では悪石島 (46.3%)、「健康的な生活が送れる」では口之島 (28.6%) がいずれも最も多い。

【十島村の魅力(n=364)】



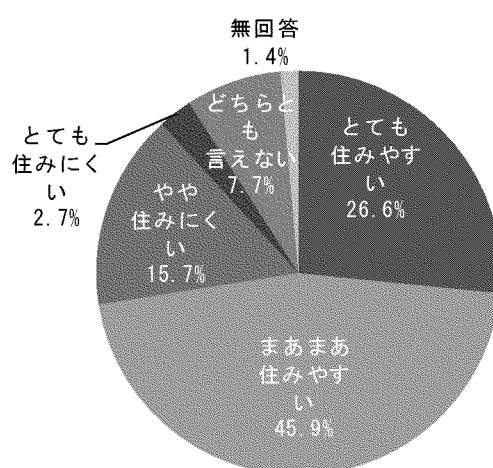
【十島村の魅力(地区別)】



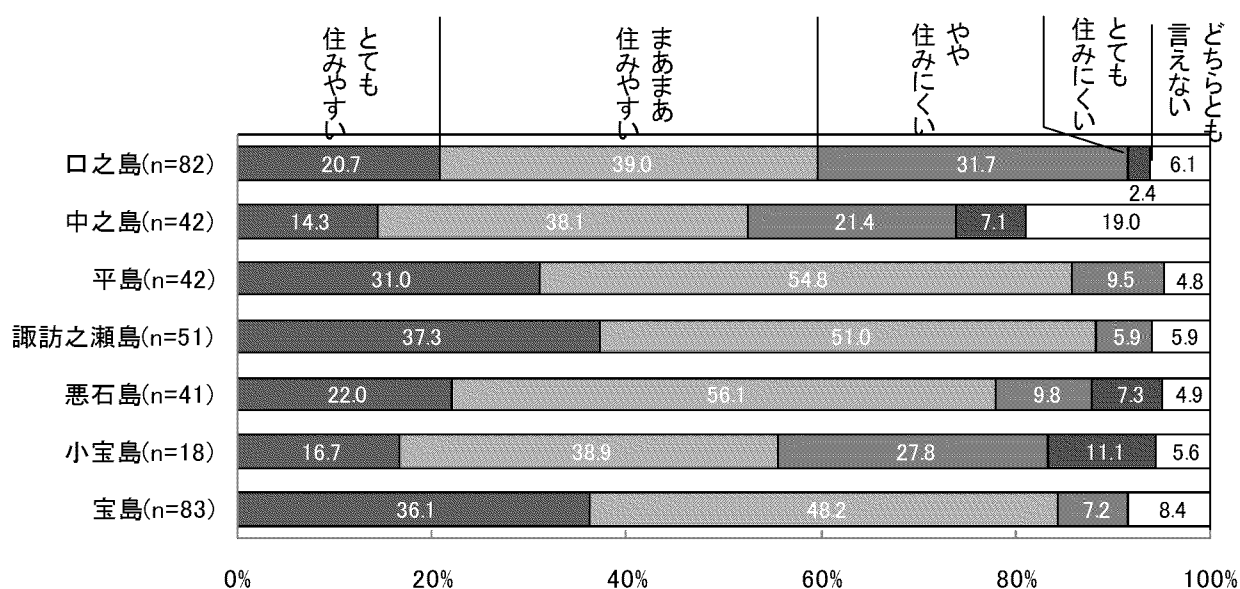
問 11 十島村の住みやすさ ～ 十島村は「住みやすい」が 72.5%

- 「とても住みやすい」が 26.6%、「まあまあ住みやすい」が 45.9%、「やや住みにくい」が 15.7%、「とても住みにくい」が 2.7%、「どちらとも言えない」が 7.7%となった。
- 「とても住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせた「住みやすい」は 72.5%。一方、「やや住みにくい」と「とても住みにくい」を合わせた「住みにくい」は 18.4%。
- 「住みやすい」を島別にみると、口之島が 59.7%、中之島が 52.4%、平島が 85.8%、諏訪之瀬島が 88.3%、悪石島が 78.1%、小宝島が 55.6%、宝島が 84.3%となっている。一方、「住みにくい」は、口之島が 34.1%、中之島が 28.5%、平島が 9.5%、諏訪之瀬島が 5.9%、悪石島が 17.1%、小宝島が 38.9%、宝島が 7.2%。

【十島村の住みやすさ(n=364)】



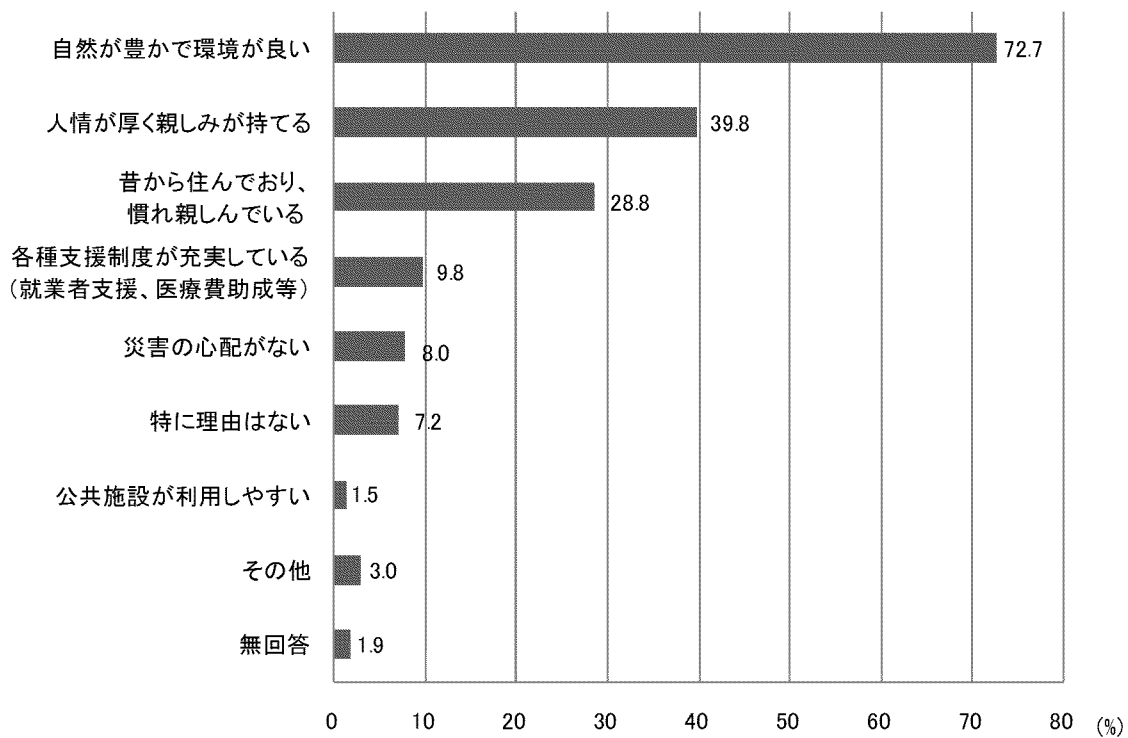
【十島村の住みやすさ】



問 12 「住みやすい」と思う理由(複数回答:2つまで)
 ~ 第1位は「自然が豊かで環境が良い」(72.7%)

- 「住みやすい」と回答した方にその理由を聞いたところ、「自然が豊かで環境が良い」が72.7%で最も多く、次いで「人情が厚く親しみが持てる」39.8%、「昔から住んでおり、慣れ親しんでいる」28.8%、「各種支援制度が充実している」9.8%。

【住みやすいと思う理由(n=264)】



<その他の主なコメント>

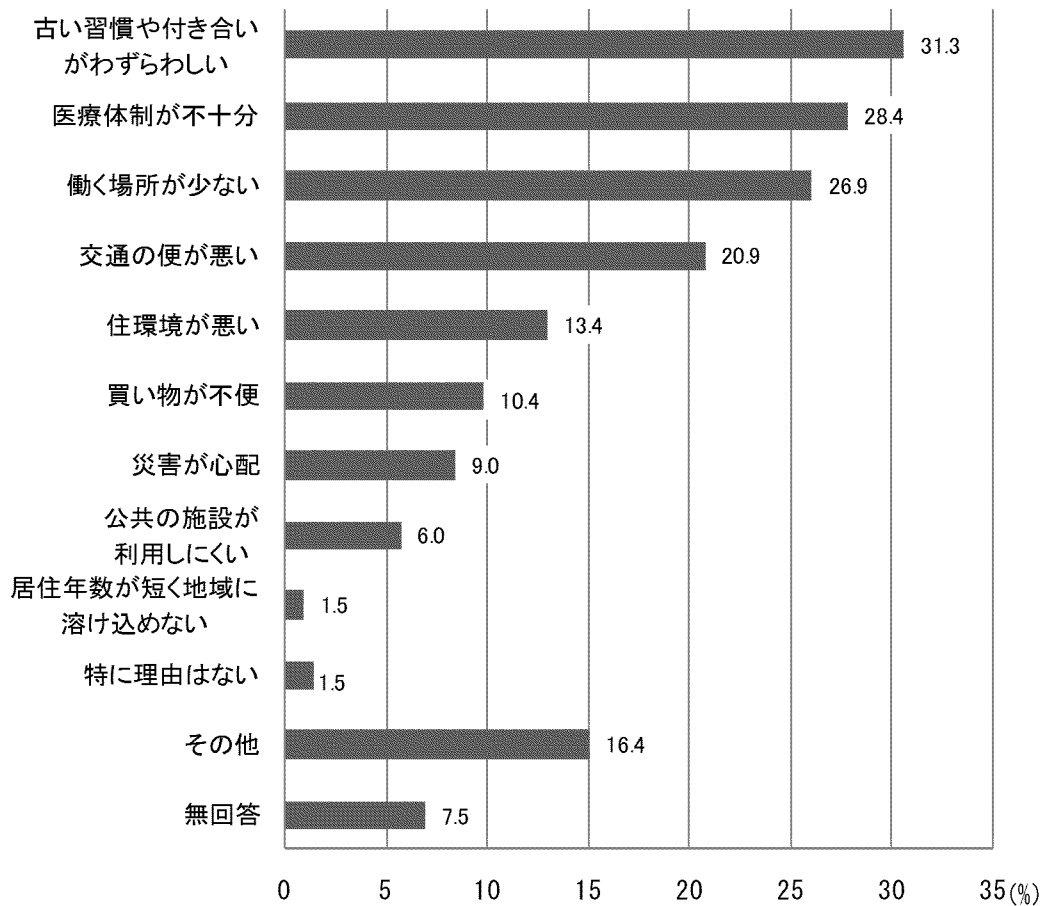
- ・社会がシンプルで、うるさい社会的拘束が少ない
- ・昔よりかなり便利になったから
- ・必要最低限のもので生活ができる
- ・子育て(しやすい)
- ・犯罪のない環境(平和)

問 13 「住みにくい」と思う理由(複数回答:2つまで)

～ 第1位は「古い習慣や付き合いがわずらわしい」(31.3%)

- 「住みにくい」と回答した方にその理由を聞いたところ、「古い習慣や付き合いがわずらわしい」が31.3%で最も多く、次いで「医療体制が不十分である」が28.4%、「働く場所が少ない」が26.9%、「交通の便が悪い」が20.9%、「住環境が悪い」が13.4%となっている。

【住みにくいと思う理由(n=67)】



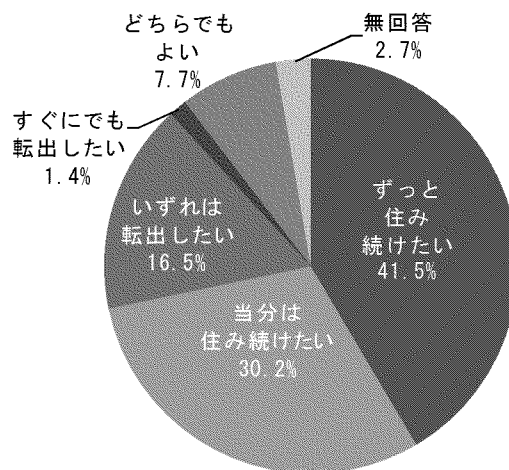
<その他の主なコメント>

- ・ 人間関係 (5件)
- ・ Iターン者への対応
- ・ 役場情報の公平さ

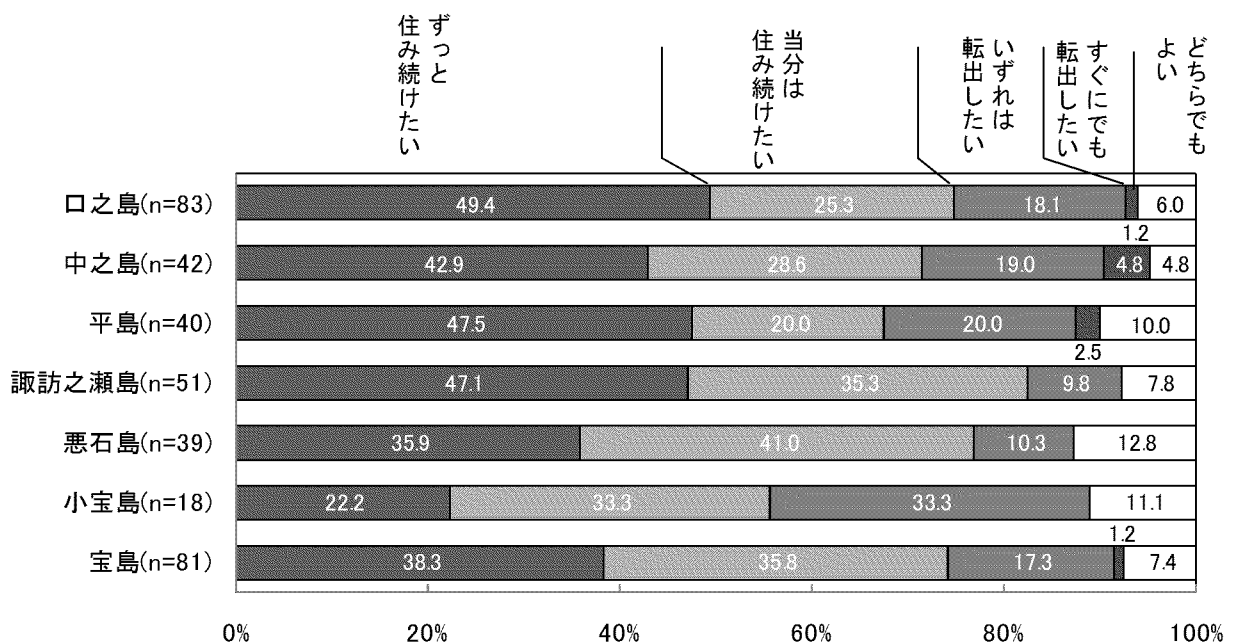
問 14 今後も十島村に住み続けたいか
～「住み続けたい」が 71.7%

- 「ずっと住み続けたい」が 41.5%、「当分は住み続けたい」が 30.2%、「いずれは転出したい」が 16.5%、「すぐにでも転出したい」が 1.4%、「どちらでもよい」が 7.7%となっている。
- 「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた「住み続けたい」は 71.7%。一方、「いずれは転出したい」と「すぐにでも転出したい」を合わせた「転出したい」は 17.9%。
- 「住み続けたい」を島別にみると、口之島が 74.7%、中之島が 71.5%、平島が 67.5%、諏訪之瀬島が 82.4%、悪石島が 76.9%、小宝島が 55.5%、宝島が 74.1%となっている。一方、「転出したい」は、口之島が 19.3%、中之島が 23.8%、平島が 22.5%、諏訪之瀬島が 9.8%、悪石島が 10.3%、小宝島が 33.3%、宝島が 18.5%となっている。

【今後も住み続けたいか(n=364)】



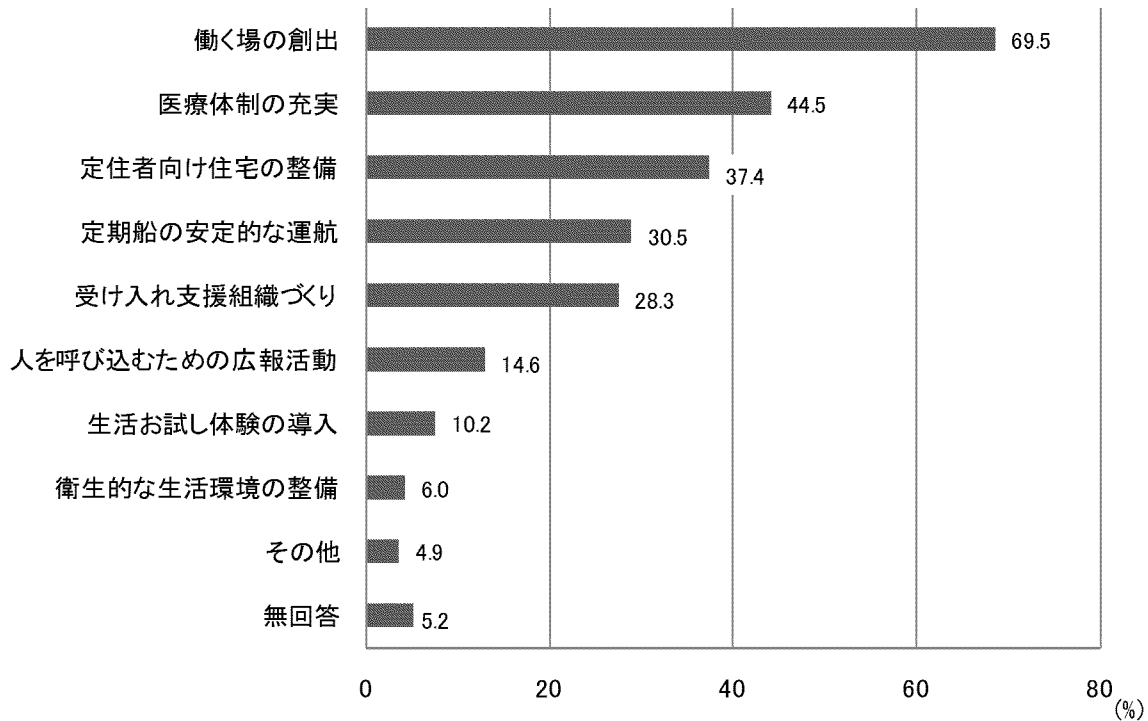
【今後も住み続けたいか】



問 15 十島村への定住促進について重要と考えられる施策(複数回答:3つまで)
 ~ 第1位は「働く場の創出」(69.5%)

- 「定住促進の施策」として、「働く場の創出」が 69.5%で最も多く、次いで「医療体制の充実」が 44.5%、「定住者向け住宅の整備」が 37.4%、「定期船の安定的な運航」が 30.5%、「受け入れ支援組織づくり」が 28.3%となっている。

【定住促進の施策(n=364)】



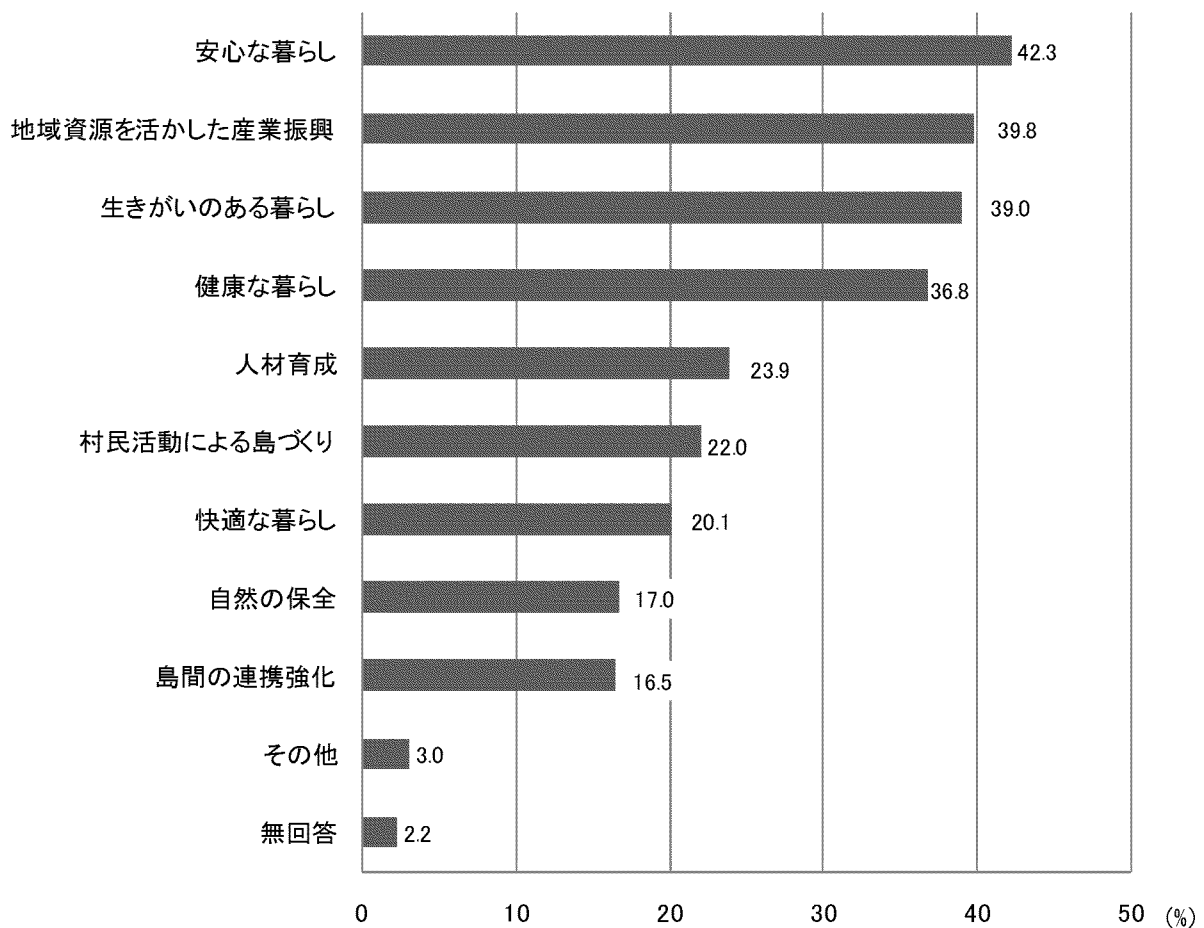
<その他の主なコメント>

- ・子育て環境の整備 (医療・保育等)
- ・個々の生きがいをサポートする施策
- ・ブータンのような観光地化
- ・受け入れる住民の意識改革
- ・村営住宅の簡易宿所営業許可
- ・定住者は自分の目標を持つべき。村がすべて援助するのはおかしい。
- ・厳しい審査と、住民・役場との確実な契約づくり
- ・乳幼児をもつ家庭への支援。保育園整等の整備
- ・高校設立 (出ていくばかりなので)
- ・村民によるPR活動
- ・婚活
- ・定住促進は不要

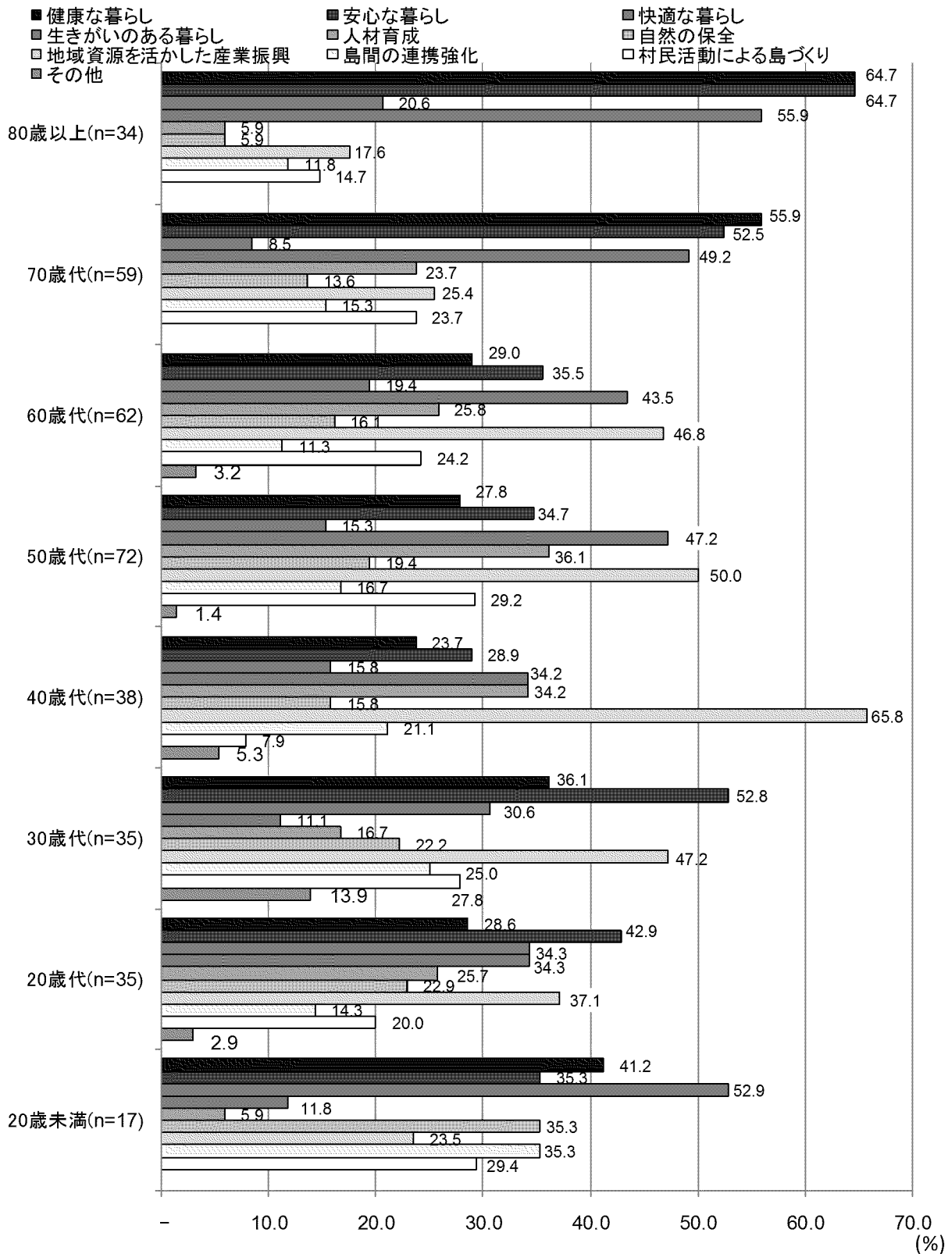
問 16 十島村が取り組むうえで最も重要と考えるテーマ(複数回答:3つまで)
 ~ 第1位は「安心な暮らし」(42.3%)

- 「重要と考えるテーマ」として、「安心な暮らし」が 42.3%で最も多く、次いで「地域資源を活かした産業振興」が 39.8%、「生きがいのある暮らし」が 39.0%、「健康な暮らし」が 36.8%となっている。
- 年齢別にみると、「健康な暮らし」、「安心な暮らし」、「生きがいのある暮らし」では、「70歳代」「80歳以上」が他の年代に比べ割合が高い。「地域資源を活かした産業振興」では、「40歳代」「50歳代」が他の年代に比べ割合が高い。

【重要と考えるテーマ(n=364)】



【重要と考えるテーマ(年齢別)】



<その他の主なコメント>

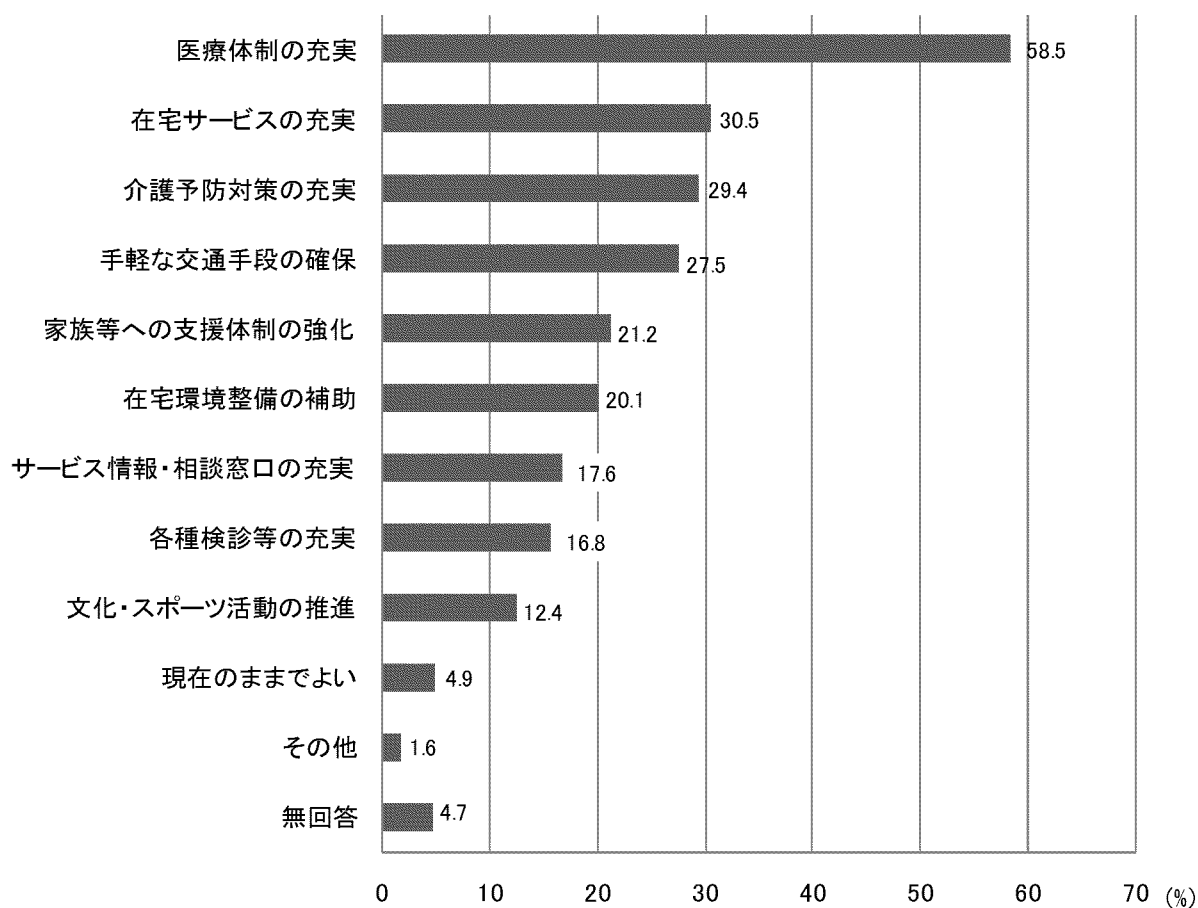
- ・島を担う子供たちの未来
- ・リサイクル率日本一の島を目指す
- ・十島村が現在及び未来の日本社会にとってどのような重要な役割を担うべきかをテーマの中心に捉えるべきである。
- ・島民の団結・連携強化
- ・若い人材の受け入れ支援

問 17 最も重要な保健・福祉の施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「医療体制の充実」(58.5%)

- 最も重要な保健・福祉の施策として、「医療体制の充実」が 58.5%で最も多く、次いで「在宅サービスの充実」が 30.5%、「介護予防対策の充実」が 29.4%、「手軽な交通手段の確保」が 27.5%、「家族等への支援体制の強化」が 21.2%となっている。

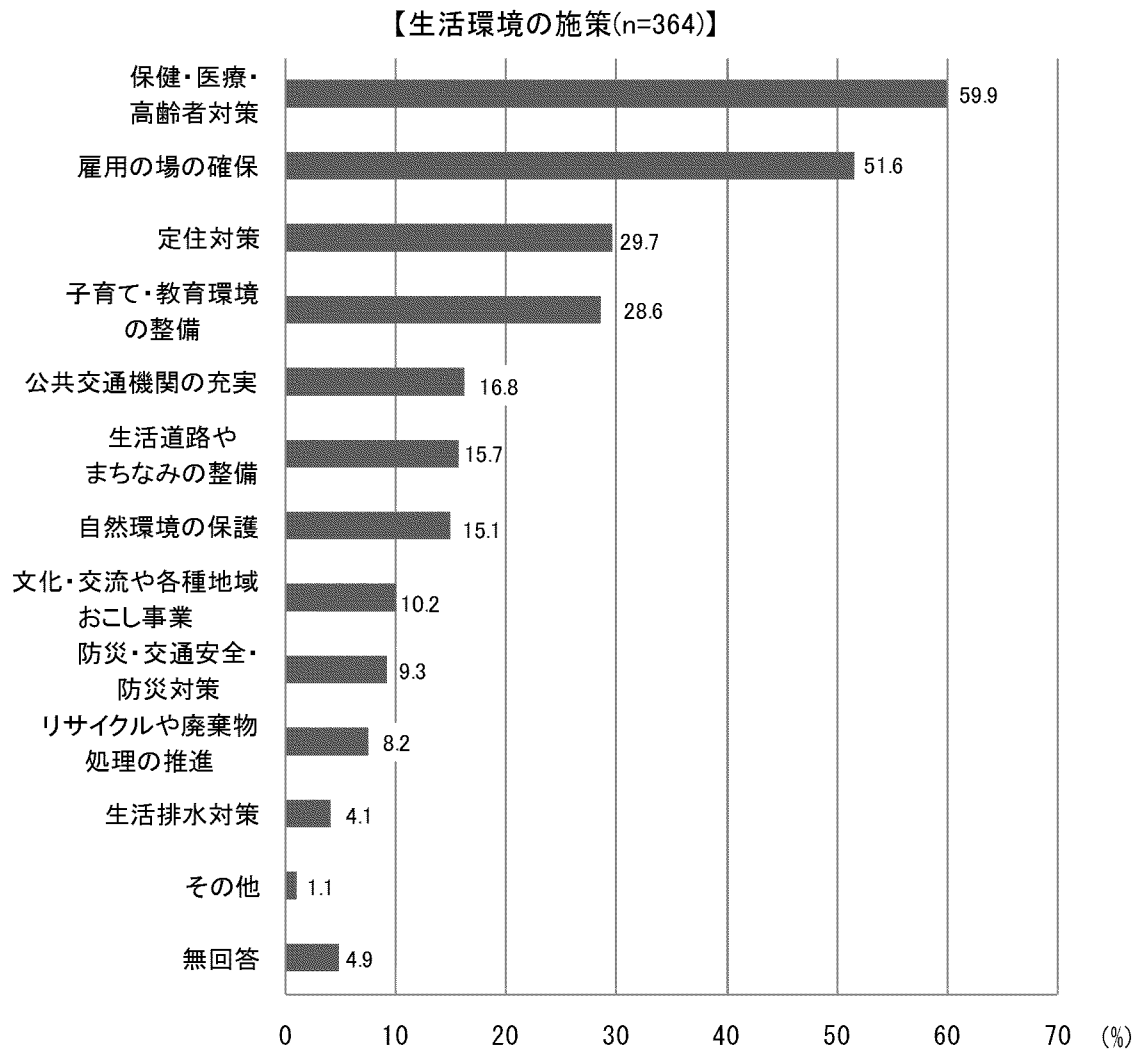
【保険・福祉の施策(n=364)】



問 18 最も重要な生活環境の施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「健康・医療・高齢者対策」(59.9%)

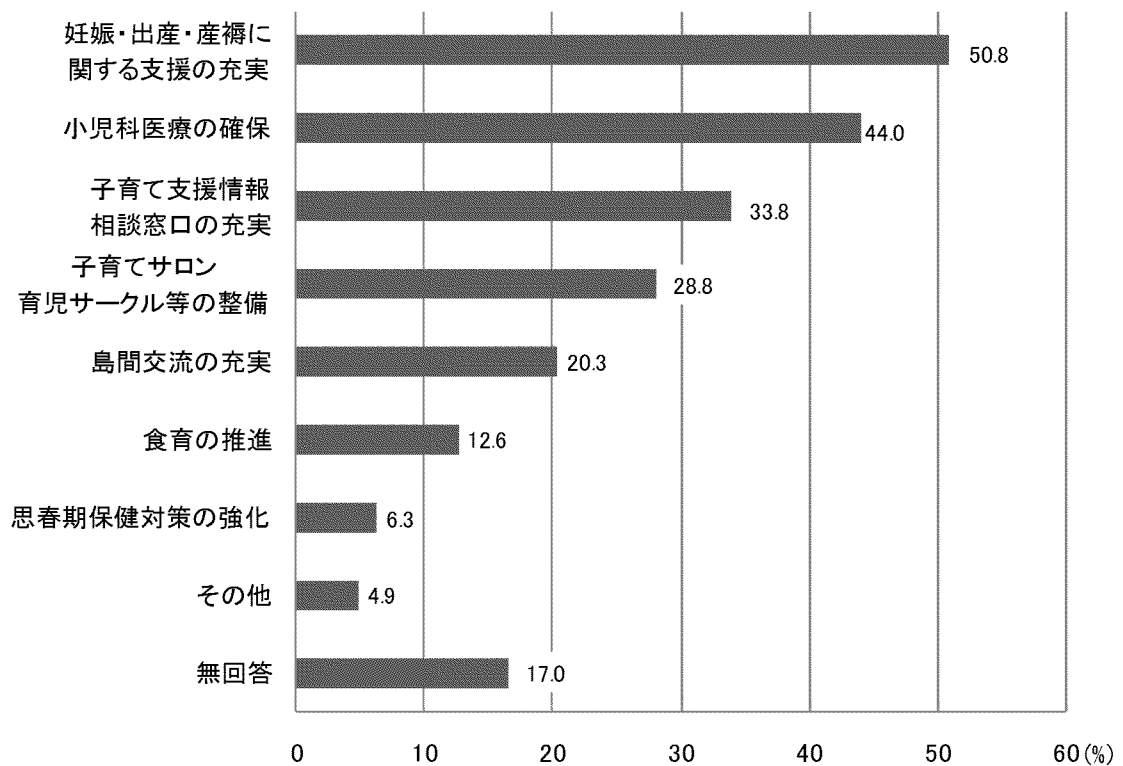
- 最も重要な生活環境の施策として、「保健・医療・高齢者対策」が 59.9%で最も多く、次いで「雇用の場の確保」が 51.6%、「定住対策」が 29.7%、「子育て・教育環境の整備」が 28.6%、「公共交通機関の充実」が 16.8%となっている。



問 19 最も重要な子育て支援の施策(複数回答:3つまで)
～ 第1位は「妊娠・出産・産褥に関する支援の充実」(50.8%)

- 最も重要な子育て支援の施策として、「妊娠・出産・産褥に関する支援の充実」が 50.8% で最も多く、次いで「小児科医療の確保」が 44.0%、「子育て支援情報・相談窓口の充実」が 33.8%、「子育てサロン・育児サークル等の整備」が 28.8%、「島間交流の充実」が 20.3% となっている。

【子育て支援の施策(n=364)】

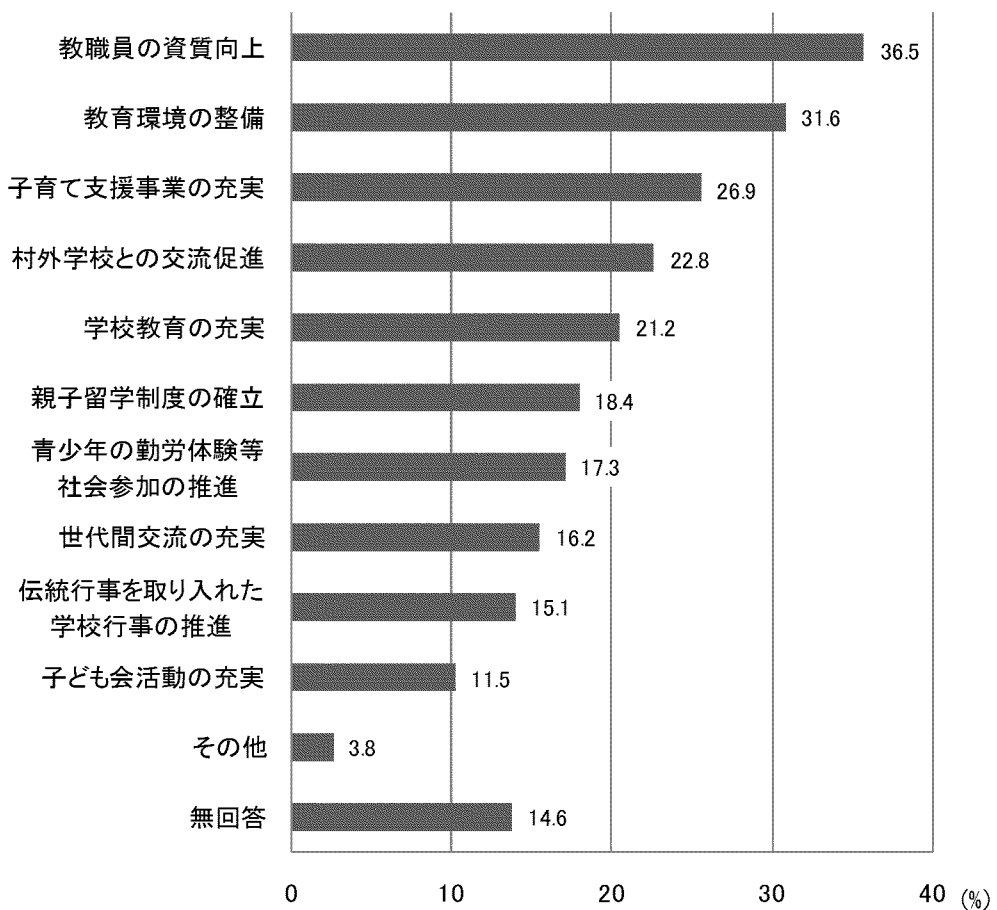


問 20 青少年健全育成における重要な施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「教職員の資質向上」(59.9%)

- 青少年健全育成における重要な施策として、「教職員の資質向上」が 36.5%で最も多く、次いで「教育環境の整備」が 31.6%、「子育て支援事業の充実」が 26.9%、「村外学校との交流促進」が 22.8%、「学校教育の充実」が 21.2%、「親子留学制度の確立」が 18.4%となっている。

【青少年健全育成の施策(n=364)】

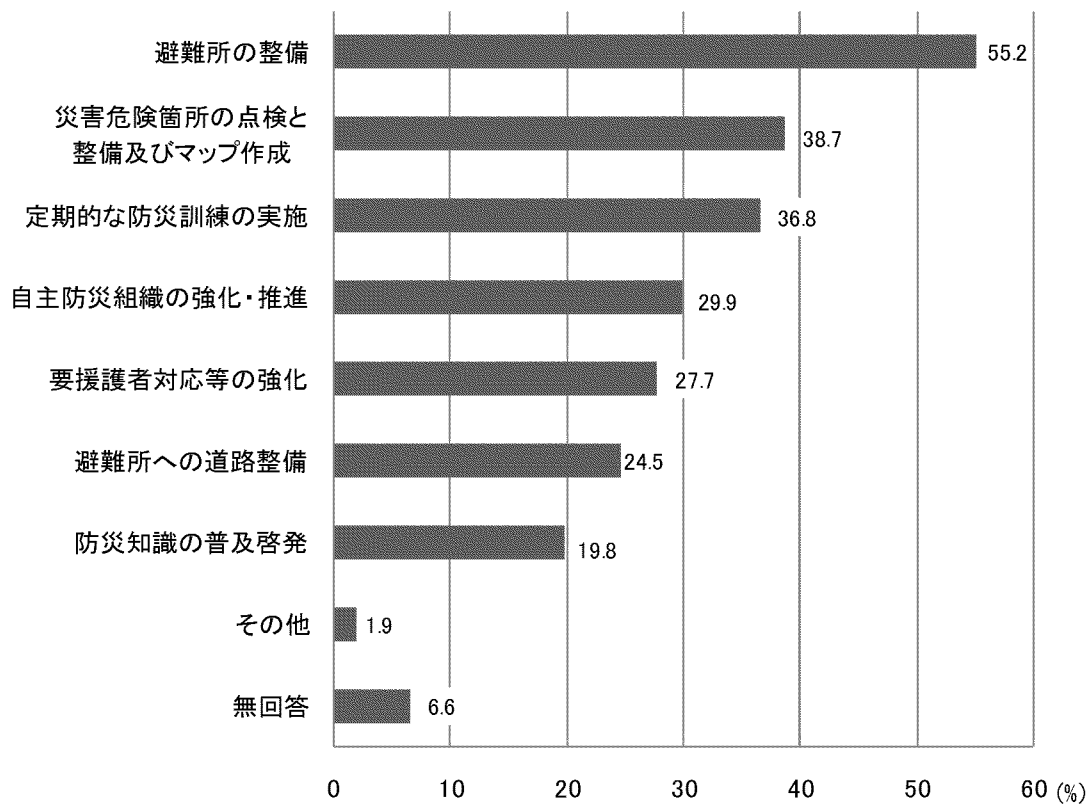


問 21 災害に強い村を築くための重要な施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「避難所の整備」(55.2%)

- 災害に強い村を築くための重要な施策として、「避難所の整備」が 55.2%で最も多く、次いで「災害危険箇所の点検と整備及びマップ作成」が 38.7%、「定期的な防災訓練の実施」が 36.8%、「自主防災組織の強化・推進」が 29.9%、「要援護者対応等の強化」が 27.7%、「避難所への道路整備」が 24.5%となっている。

【災害に強い村を築くための施策(n=364)】

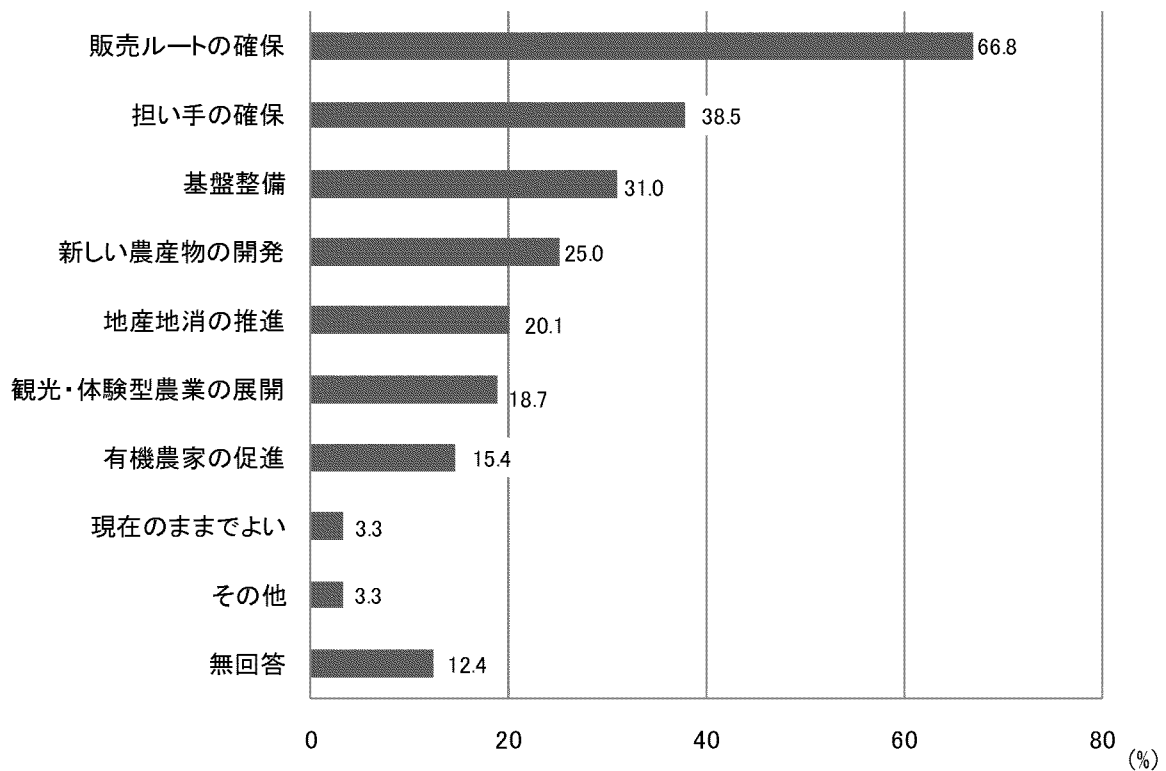


問 22 農業振興のための重要な施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「販売ルートの確保」(66.8%)

- 農業振興のための重要な施策として、「販売ルートの確保」が 66.8%で最も多く、次いで「担い手の確保」が 38.5%、「基盤整備」が 31.0%、「新しい農産物の開発」が 25.0%、「地産地消の推進」が 20.1%、「観光・体験型農業の展開」18.7%、「有機農家の促進」が 15.4%となっている。

【農業振興の施策(n=364)】

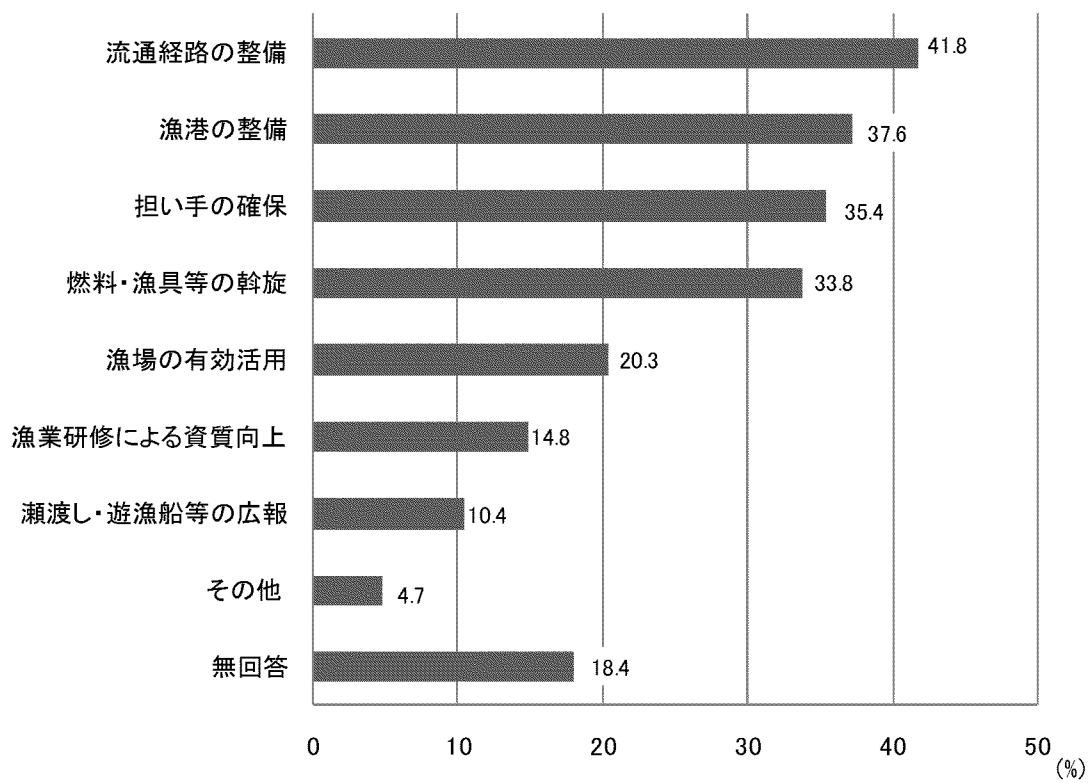


問 23 漁業振興のための重要な施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「流通経路の整備」(41.8%)

- 漁業振興のための重要な施策として、「流通経路の整備」が41.8%で最も多く、次いで「漁港の整備」が37.6%、「担い手の確保」が35.4%、「燃料・漁具等の斡旋」が33.8%、「魚場の有効活用」が20.3%、「漁業研修による資質向上」が14.8%となっている。

【漁業振興の施策(n=364)】

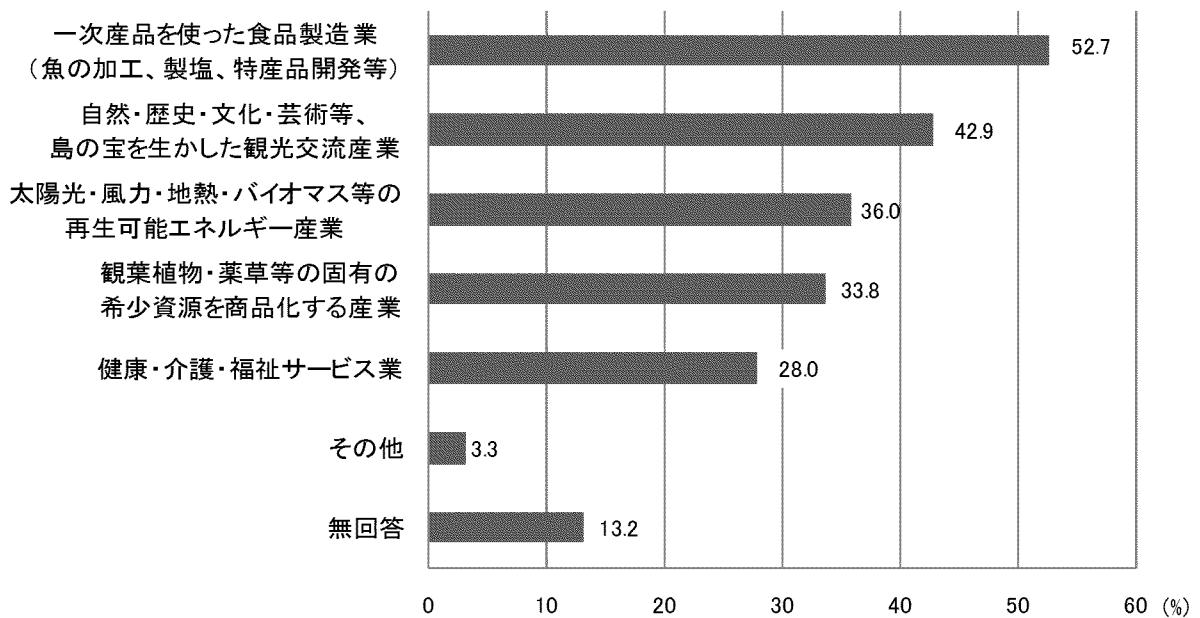


問 24 農業、漁業以外の産業振興分野(複数回答:3つまで)

～ 最も回答が多かったのは「一次産品を使った食品製造業」(52.7%)

- 「一次産品を使った食品製造業」が 52.7%で最も多く、次いで「自然・歴史・文化・芸術等、島の宝を生かした観光交流産業」が 42.9%、「太陽光・風力・地熱・バイオマス等の再生可能エネルギー産業」が 36.0%、「観葉植物・薬草等の固有の希少資源を商品化する産業」が 33.8%、「健康・介護・福祉サービス業」が 28.0%となっている。

【農業・漁業以外の産業振興分野 (n=364)】

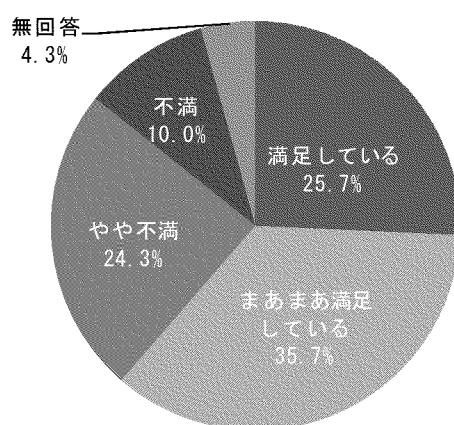


問 25 村営住宅居住者の住宅に関する意向

- 住宅の種類で「村営住宅」と回答した70先の現在の村営住宅に対する満足度は、「満足している」が25.7%、「まあまあ満足している」が35.7%で、これらを合わせた「満足している」は61.4%。一方、「やや不満」が24.3%、「不満」が10.0%で、これらを合わせた「不満」は34.3%。
- 「不満」の理由としては、「狭い」が45.8%、「造りや備品が古い」が29.2%となっている。
- 「土地が確保できれば、自身で家を建てることを考えるか」については、「考えている」が17.1%、「考えられない」が50.0%。
- 「家を建てることを考えられない」理由として、「資金の目途が立たないから」が37.1%、「現在の家賃が安いから」が14.3%。
- 現在の村営住宅を売却するとした場合の購入する意思については、「購入したい」が31.4%、「購入はしない」が58.6%。また、購入する場合の購入金額帯は、「0～99万円」が31.8%、「100～199万円」が22.7%、「200～299万円」が0%、「300～399万円」が9.1%、「400～499万円」が4.5%、「500万円以上」が18.2%となっている。

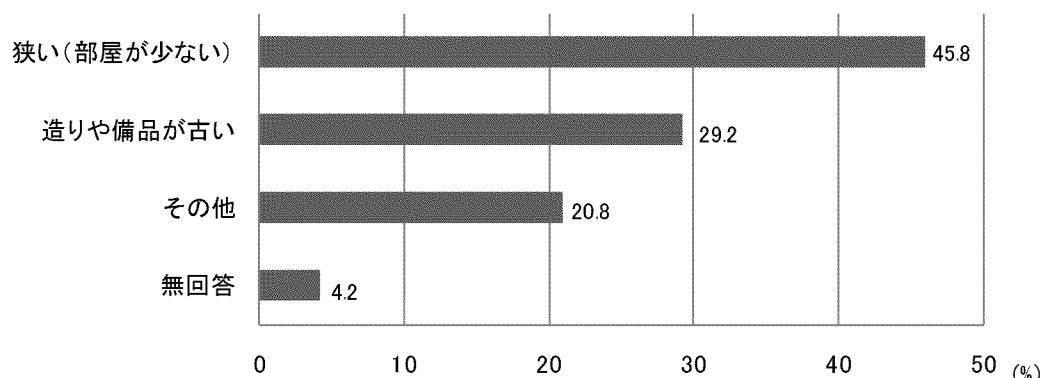
(1) 現在の村営住宅に満足しているか

【村営住宅に満足しているか(n=70)】



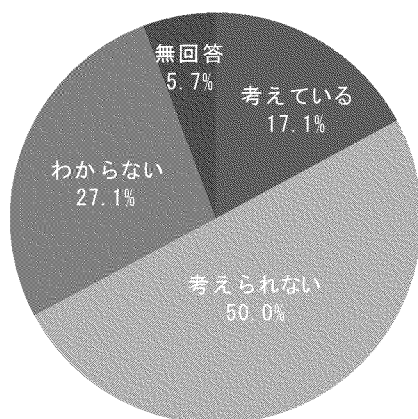
(2) 不満の理由

【不満の理由(n=24)】



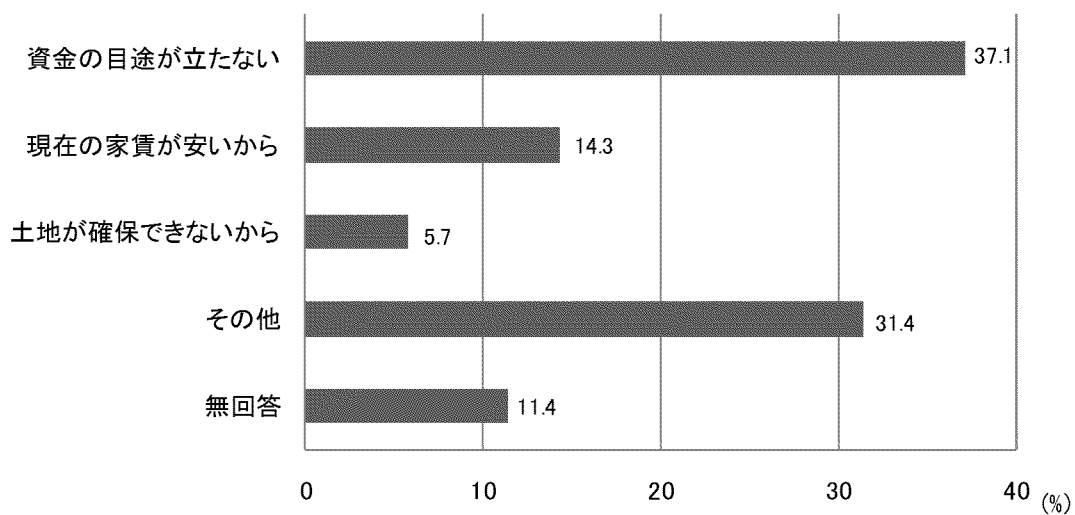
(3) 土地が確保できれば、自身で家を建てることを考えるか

【自身で家を建てることを考えるか(n=70)】



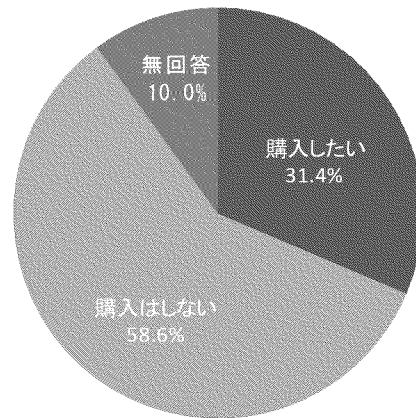
(4) 家を建てることを考えられない理由

【家を建てることを考えられない理由(n=35)】



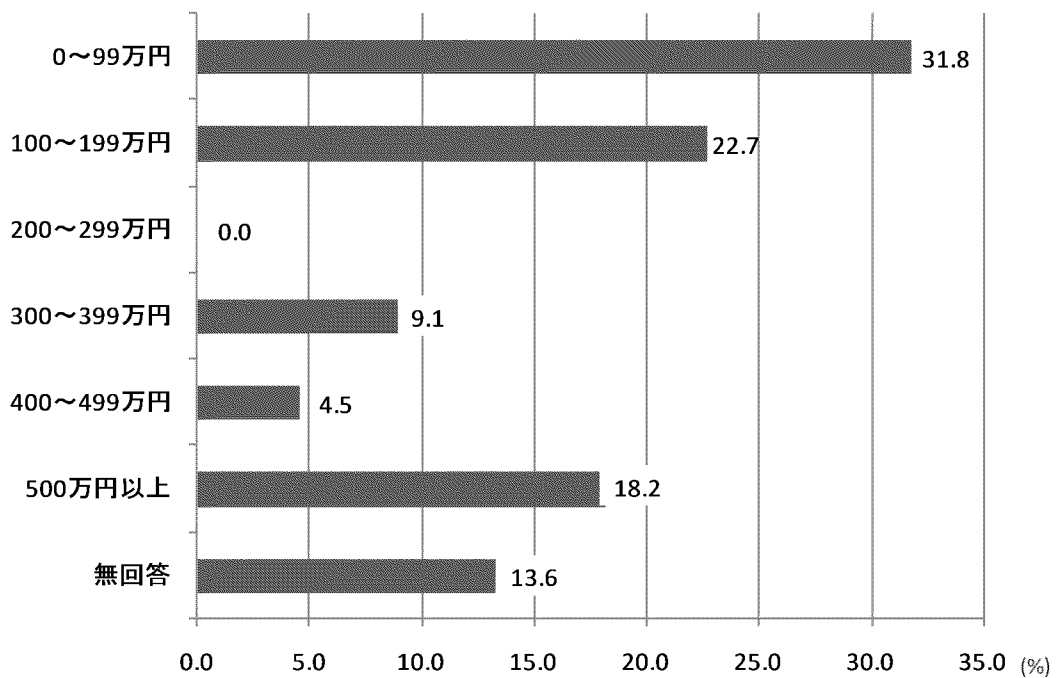
(5)現在の村営住宅を村が売却するとした場合、購入する意思是

【村営住宅売却の場合購入する意思是(n=70)】



(6)いくらぐらいであれば購入を考えるか(具体的な金額)

【購入希望金額(n=22)】

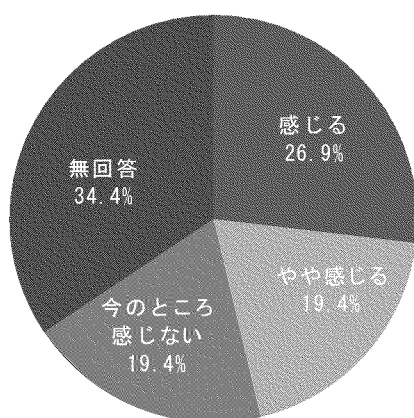


問 26 村営住宅(空き家改修住宅)以外に居住する住民の住宅に関する意向

- 回答のあった 294 件のなかで、住宅の維持管理に「不安を感じる」が 26.9%、「やや感じる」が 19.4%、「今のところ感じない」が 19.4%、「無回答」34.4%。
- 住宅の維持管理に不安を感じる点としては、「老朽化」が 40.5%、「改築費用の確保」が 8.0%、「空き家になった場合の維持管理費」が 6.3%となっている。
- 住宅の新築、増改築については、「考えている」が 11.2%、「当分考えていない」が 44.9%、「無回答」が 43.9%となっている。
- 住宅の新築、増改築を考える場合の一番の課題は、「新築、増改築資金の確保」が 38.8%、「土地の確保」が 3.4%、「その他」が 1.4%、「無回答」が 56.4%となった。

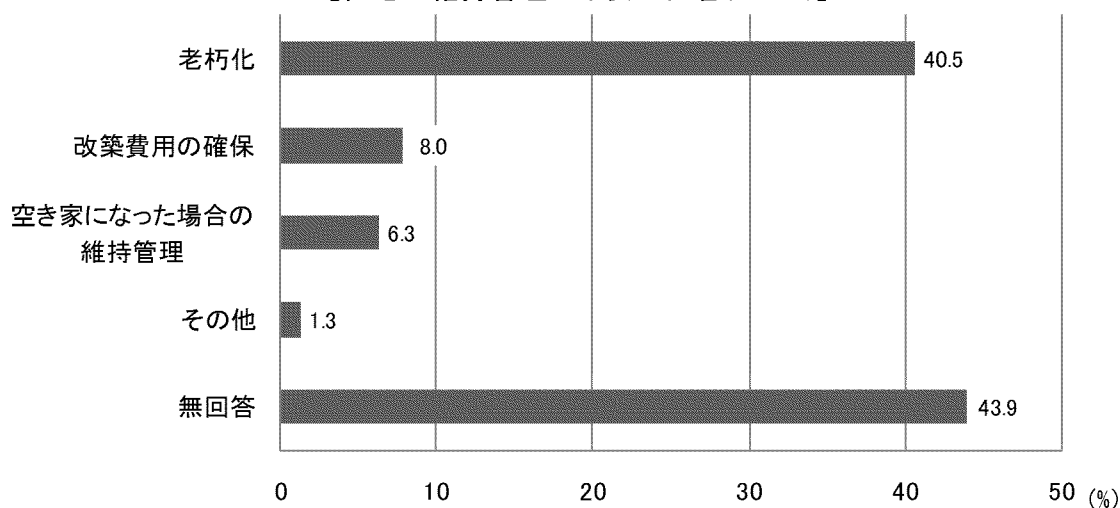
(1) 現在の住宅の維持管理に不安を感じるか

【住宅の維持管理に不安を感じるか(n=294)】



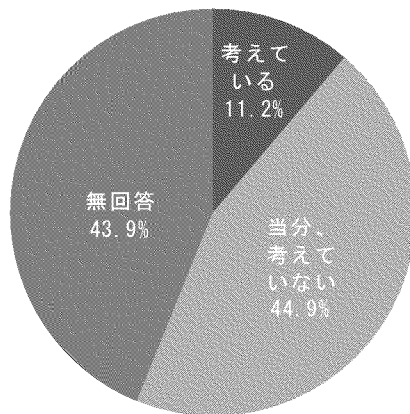
(2) 住宅の維持管理に不安を感じる点

【住宅の維持管理の不安の内容(n=237)】



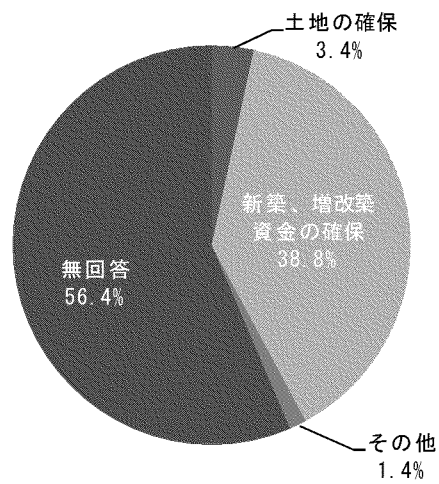
(3)住宅の新築、増改築を考えているか

【新築、増改築を考えているか(n=294)】



(4)住宅の新築、増改築の場合の一番の課題

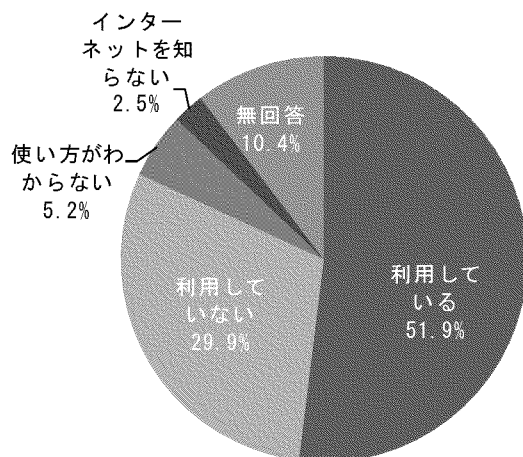
【新築、増改築の課題(n=294)】



問 27 家庭でインターネットの利用
 ～ 「利用している」は 51.9%

- 家庭でのインターネットについては、「利用している」が 51.9%、「利用していない」が 29.9%、「使い方がわからない」が 5.2%、「インターネットを知らない」が 2.5%となっている。

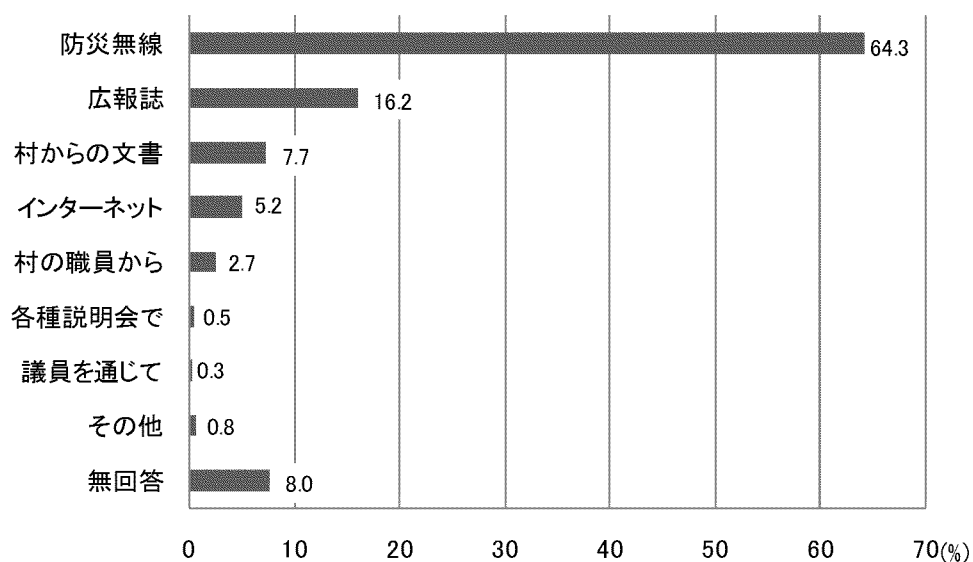
【インターネットについて(n=364)】



問 28 村からのお知らせの取得方法
 ～ 最も多いのは「防災無線」(64.3%)

- 村からのお知らせについて、「防災無線」から知る住民が 64.3%で最も多く、次いで「広報誌」が 16.2%、「村からの文書」が 7.7%、「インターネット」が 5.2%、「村の職員から」が 2.7%となっている。

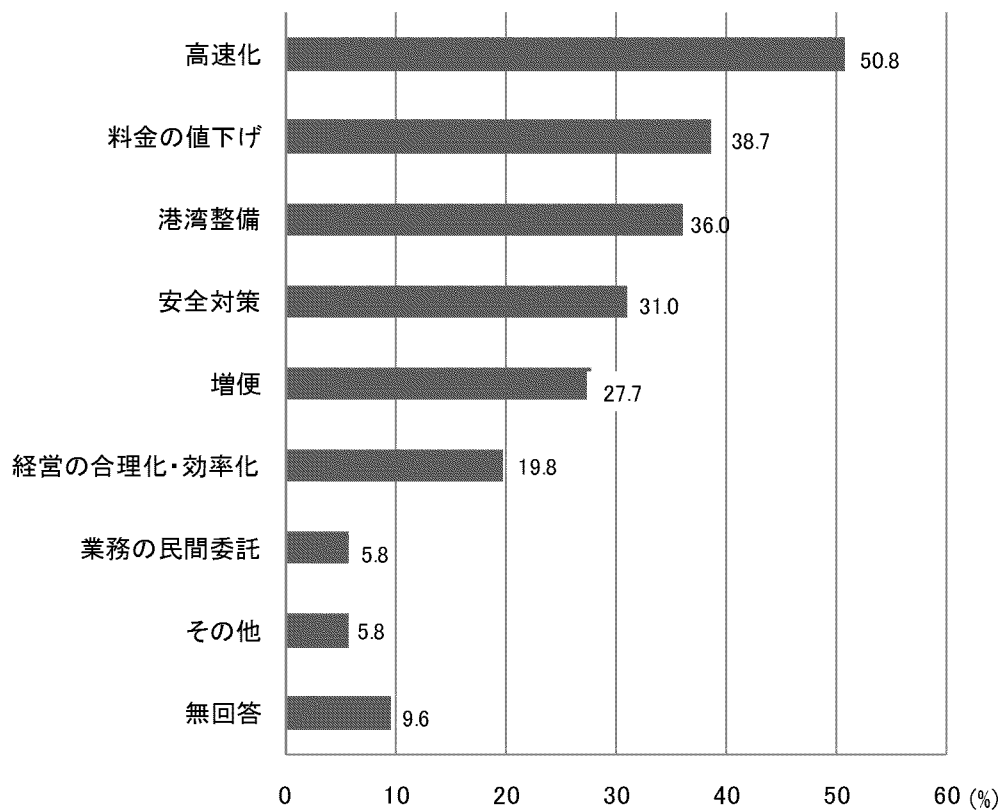
【村からのお知らせの取得方法(n=364)】



問 29 村営船の運航について重要な施策
～ 最も回答が多かったのは「高速化」(50.8%)

- 村営船の運営については、「高速化」が 50.8%で最も多く、次いで「料金の値下げ」が 38.7%、「港湾整備」が 36.0%、「安全対策」が 31.0%、「増便」が 27.7%となっている。

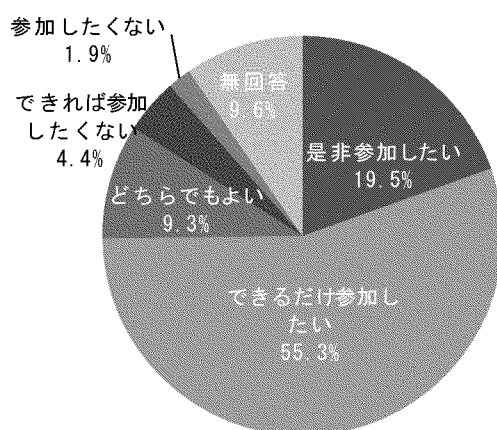
【村営船の運航についての施策(n=364)】



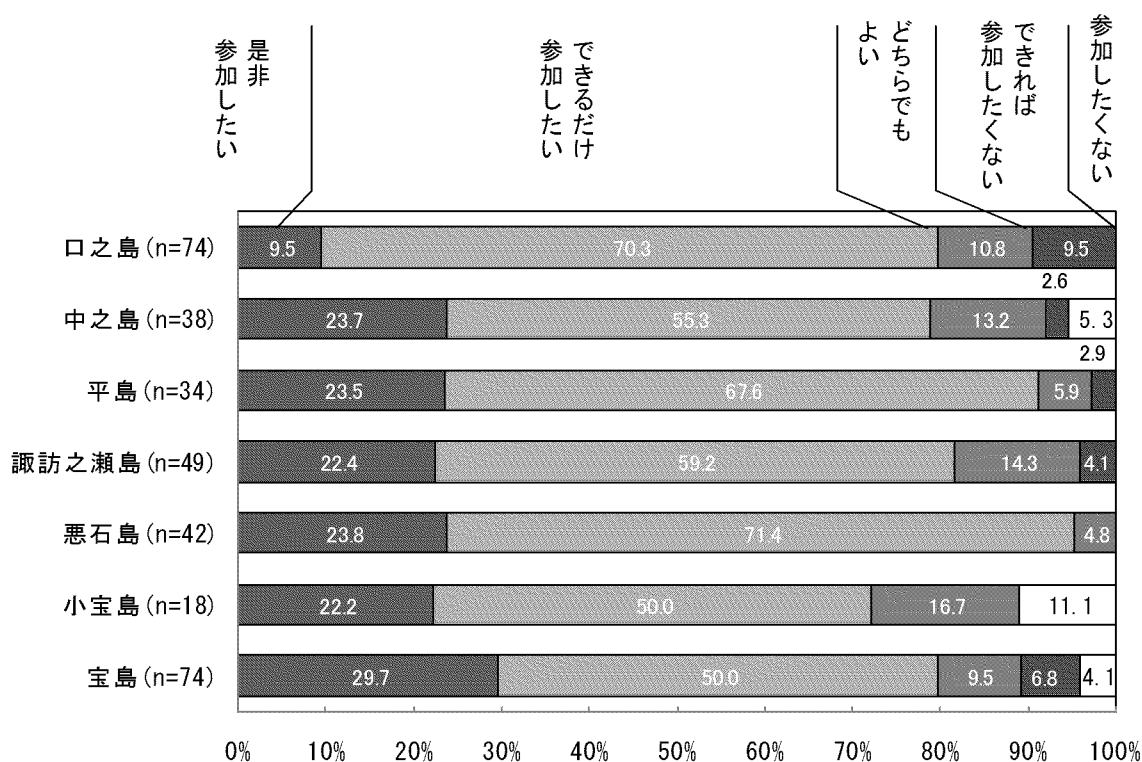
問 30 地域活動への参加意向
 ～「参加したい」は 74.7%

- 地域活動の参加については、「是非参加したい」が 19.5%、「できるだけ参加したい」が 55.3%で、これらを合わせた「参加したい」は 74.8%となっている。また、「どちらでもよい」は 9.3%、「できれば参加したくない」は 4.4%、「参加したくない」は 1.9%となっている。
- 「参加したい」を島別にみると、口之島が 79.8%、中之島が 79.0%、平島が 91.1%、諏訪之瀬島が 81.6%、悪石島が 95.2%、小宝島が 72.2%、宝島が 79.7%。一方、「参加したくない」は、口之島が 9.5%、中之島が 7.9%、平島が 8.8%、諏訪之瀬島が 18.4%、悪石島が 4.8%、小宝島が 27.8%、宝島が 10.9%

【地域活動への参加意向(n=364)】



【地域活動の参加について】

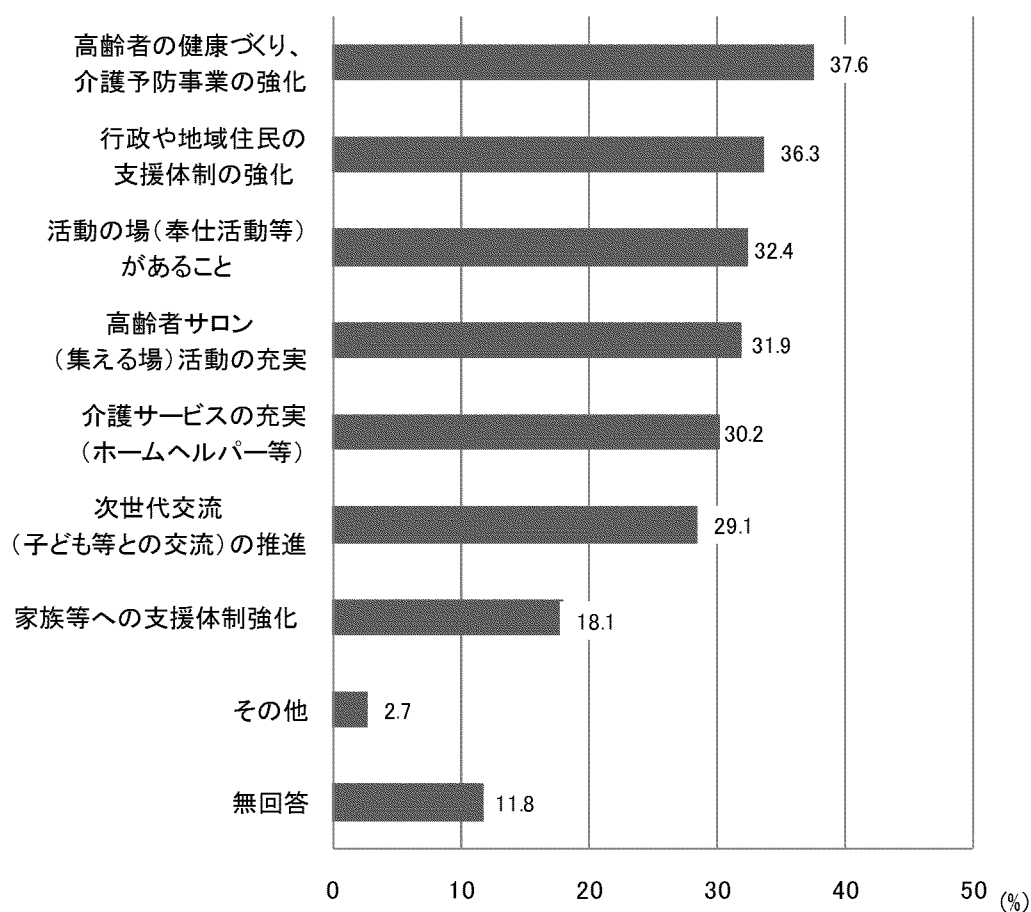


問 31 高齢者が積極的に地域活動に参加するための施策(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「高齢者の健康づくり、介護予防事業の強化」(37.6%)

- 高齢者が積極的に地域活動に参加するための施策については、「高齢者の健康づくり、介護予防事業の強化」が37.6%で最も多く、次いで「行政や地域住民の支援体制の強化」が36.3%、「活動の場(奉仕活動等)があること」が32.4%、「高齢者サロン(集える場)活動の充実」が31.9%、「介護サービスの充実(ホームヘルパー等)」が30.2%、「次世代交流(子ども等との交流)の推進」が29.1%となっている。

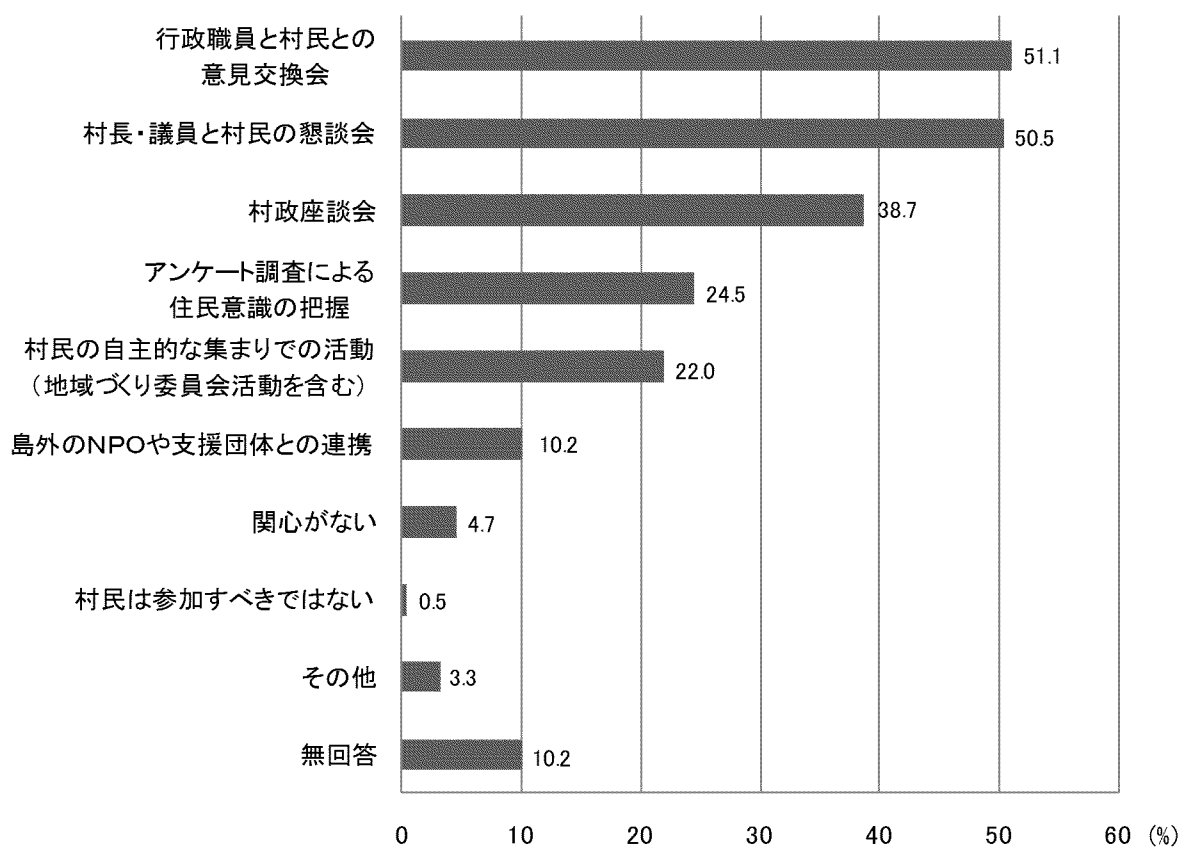
【高齢者が地域活動へ参加するための施策(n=364)】



問 32 行政への村民参加の方法(複数回答:3つまで)
～ 第1位は「行政職員と村民との意見交換」(51.1%)

- 行政への村民参加の方法については、「行政職員と村民との意見交換」が51.1%で最も多く、次いで「村長・議員と村民の懇談会」が50.5%、「村政座談会」が38.7%、「アンケート調査による住民意識の把握」が24.5%、「村民の自主的な集まりでの活動」が22.0%、「島外のNPOや支援団体との連携」が10.2%となっている。

【村民の行政への参加の方法(n=364)】

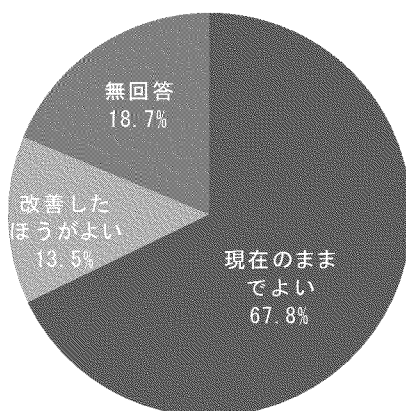


問 33 村政座談会の運営

～ 「改善したほうがよい」は 13.5%

- 村政座談会について、「現在のままでよい」が 67.8%、「改善したほうが良い」が 13.5%、「無回答」が 18.7%となっている。

【村政座談会の運営(n=364)】



<「改善したほうが良い」と回答した住民の「改善してほしい」と思うこと(自由意見)>

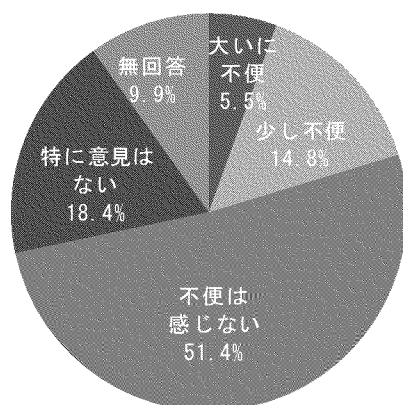
項目	内容
時期・回数	<ul style="list-style-type: none"> ● 島民が多い時に実施すべき（夏季休業中は避ける）。 ● 村民も少ないのに、島での村政座談会は意味がない。村民がみんないる時にちゃんと調整してきてほしい。 ● 回数を増やす。
時間配分	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料説明の時間が長い（時間をほとんど使っている）。 ● 住民との意見交換時間が短すぎる。 ● 座談時間を増す。 ● 役場からの説明よりも島民の意見を先にした方がよい。
運営・内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 一週間ほどじっくり島に滞在して、住民としっかりと向き合ったらどうか。 ● 消防、婦人会、いきいき教室、高齢者等小さな集まりごとに聞く。 ● 資料の事前配布（簡単な説明と質問に当てる） ● 島民の意見はあまり入っていない。一部の人の意見が反映。 ● 年輩の方や力のある人が中心になり、保身のための会合になっている。 ● 若い人々の意見に注目してほしい。 ● 内容の一部に不快感を感じる事があり、十分に島民の意見を聞いての計画か机上の行政施策ではないか。 ● 住民が直接対話ができるような形。 ● 参加しにくい。お互い構えてしまって、何でも言える雰囲気ではない。 ● Iターン、若い方の発言の場（発言しやすい雰囲気）があればもっとよいアイデアが出てくるのではないか。 ● 高齢者にもわかりやすく。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 要望事項等全島民のアンケート調査を前もって実施すべきである。 ● 現在の各団体からだけで片寄った傾向があるのではないか。 ● 村民自身も意識向上を図り、未来思考の意見交換の場になればよいと思う。 ● 各部（課）をグループ位に分散して全体座談会の他に、毎1回程度所管部門の細部について行政からの説明と住民からの意見要望をヒアリングする場を作ってもらいたい。 ● 自治会長のみが知っていて、住民は知らないことが多すぎる。 ● 自治会総会も年に一度で、どのような事が役場に上っているのか分からない。 ● 行政報告をすべし（現行何も知らない人と島一周する大名行列はいらない）。 ● 議員は島の為に現在は働いていないように見える。 ● 一人くらい「村の為に尽くしたい」という議員はいないのか。

問 34 役場(本庁舎)が鹿児島市にあることの不便さ

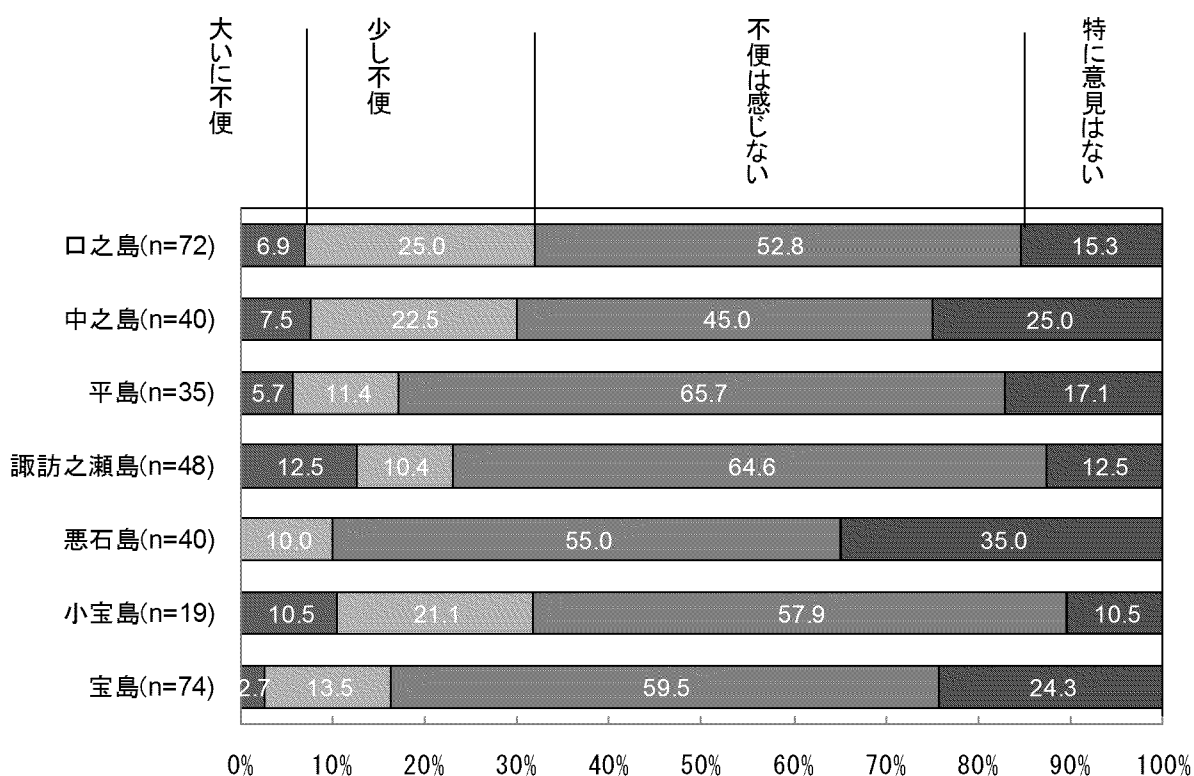
～ 「不便」は 20.3%

- 役場（本庁舎）が鹿児島市にあることについて、「大いに不便」が 5.5%、「少し不便」が 14.8%で、これらを合わせた「不便」は 20.3%。一方、「不便は感じない」は 51.4%、「特に意見はない」は 18.4%、「無回答」9.9%となっている。
- 「不便」を島別にみると、口之島が 31.9%、中之島が 30.0%、平島が 17.1%、諏訪之瀬島が 22.9%、悪石島が 10.0%、小宝島が 31.6%、宝島が 16.2%となっている。

【本庁舎が鹿児島市にあることの不便さ(n=364)】



【本庁舎が鹿児島市にあることの不便さ(地区別)】



<「多いに不便」「少し不便」と答えた住民の「不便と感じるとき」(自由意見)>

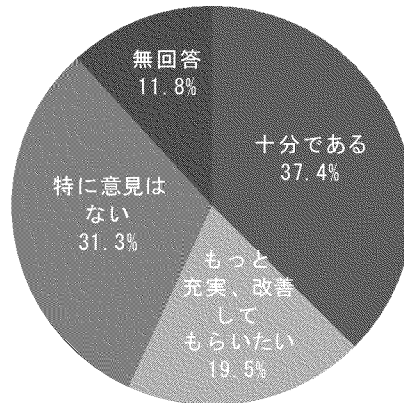
項目	内容
対応の緊急性	<ul style="list-style-type: none"> ● 困った時にすぐ行けない。 ● 急な時の書類への対応。 ● 急を要する対応の即答が出来ない。 ● 対応が遅い。 ● 役場職員がいないと対応できないことが多く、すべてにスピーディさに欠ける。
連絡・相談への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金申告等、専門的な話をしたい時、電話ではなかなか話しが出来ない。 ● 電話でも良いが、なるべく直接担当者の方と話が出来れば良い。 ● 意図する事が伝えにくい ● 連絡の取り合い。イベント前など実際の物を見せられない。 ● 職員との直接打ち合わせや、要望が行い難い。 ● 役場職員は島にいないので、話をしても分からない部分がある。出張員も人間だから、必ずしも公平な目で見ない時もあると思う。 ● 役場職員が現場のことを理解してない。 ● 島の中身をもっと見てほしい(直接足を運ぶ機会を増やして現状を把握して欲しい) ● 役場の人と島民が身近に感じない(島内で生活している人の不便さが理解しづらい部分があるのではないか)。 ● 現地出張所が機能しないケース
費用・時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 費用を要する。 ● 宿泊、船便と無駄な時間がある。 ● Uターンした時に、住民登録をわざわざ島で手続きしなければならなかった。二重の経済負担がある。役場が村内にあれば出張費も安くてすむ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政区内に役所はあるべき。 ● 本庁が鹿児島市にある必要性が理解できない。 ● 行政のやっている事、目標など全く分からない。地域との距離感を感じる(島民のことをおきざりにして行政が執り行われているように見える)。

問 35 出張所の機能について

～「もっと充実、改善してもらいたい」は 19.5%

- 出張所機能について、「十分である」が 37.4%、「もっと充実、改善してもらいたい」が 19.5%、「特に意見はない」が 31.3%、「無回答」が 11.8%となっている。

【出張所の機能について(n=364)】



<出張所機能について「もっと充実・改善してもらいたい」と回答した住民の「充実」または「改善」してほしいと思うこと(自由記入)>

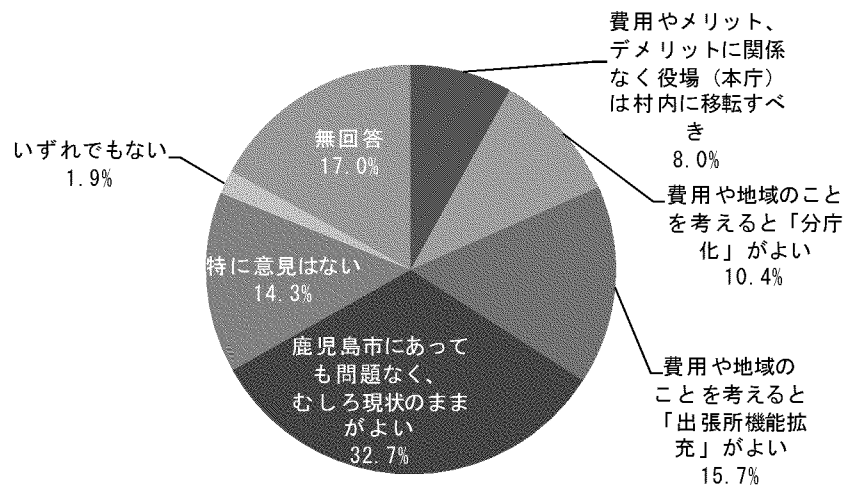
項目	内容
施設状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 部屋が狭い。座るところもない。書類だらけ。事務室、車庫等、整理整頓が全く出来ていない。
役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 役場の職員として正式に採用し、島間交流業務等を行うとよい。 ● 出張所員の業務が多すぎて、今の人員では無理がある。役場からの補佐的配置が必要。また島民と違う視点が必要。 ● 事務の改善合理化（とにかく不便である） ● 行政からの一方通行の伝達事項、事務処理業務だけでなく、住民の悩み相談窓口的な受付業務も今後高齢化が進行する中で必要となってくる。 ● 住民ともっとも近い関係であるので、地域の現状等の把握、報告をしっかりとしてほしい。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員権限を持たせ、全ての行動にスピード感とある種の決裁権、それに伴う責任を持たせて欲しい。 ● いちいち本庁と連絡しなくても、各種手続きが出来るようになると良い。 ● 質問しても解らないことだらけ。配布物も車の中に入れてあり家まで配ってくれない。 ● 窓口の充実、出張員の教育。通常時でも書類提出、切符販売、手続きできるように改善してもらいたい。 ● 出張員に役場の仕事を頼んでもいつまでもやってもらえない。 ● 出張員の日常の言葉遣いが非常に悪い。役場職員、島民、島外者、目上の者に対する言葉遣いが悪い。人との対応の仕方や言葉遣いの講習会でも受けさせたらどうでしょうか。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 窓口の常駐化。留守が多い。出勤時間を守って欲しい。役所と同じ様に勤務して欲しい。住民の間にもっと入って、ホットな窓口であってほしい。
体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 村の顔であると共に、最も重要な各島の顔である。人選又は、人材育成に力を入れるべきである。 ● 出張員は役場の業務に精通した者にすべき。その為には嘱託ではなく、役場の職員を2~3年各島に転勤させ、顔の見える業務を行うべきである。現在の在り方は嘱託員はメッセンジャー的業務で書類の配布と中継的役割で最終的には役場へ電話し確認する事になる。 ● 行政の窓口サービスの最前線であるだけに、出張員の資質向上が必要である（例えば、個人情報等徹底する）。出張所内に入りびたる特定の人がいる。個人情報等の件を出張員に指導した方がよい。 ● 常時、複数名の事務所勤務。正職員の島内勤務を進めてほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民も含め、意識の向上に努められたら、もっと改善できるのではと思う。苦情が多過ぎる。

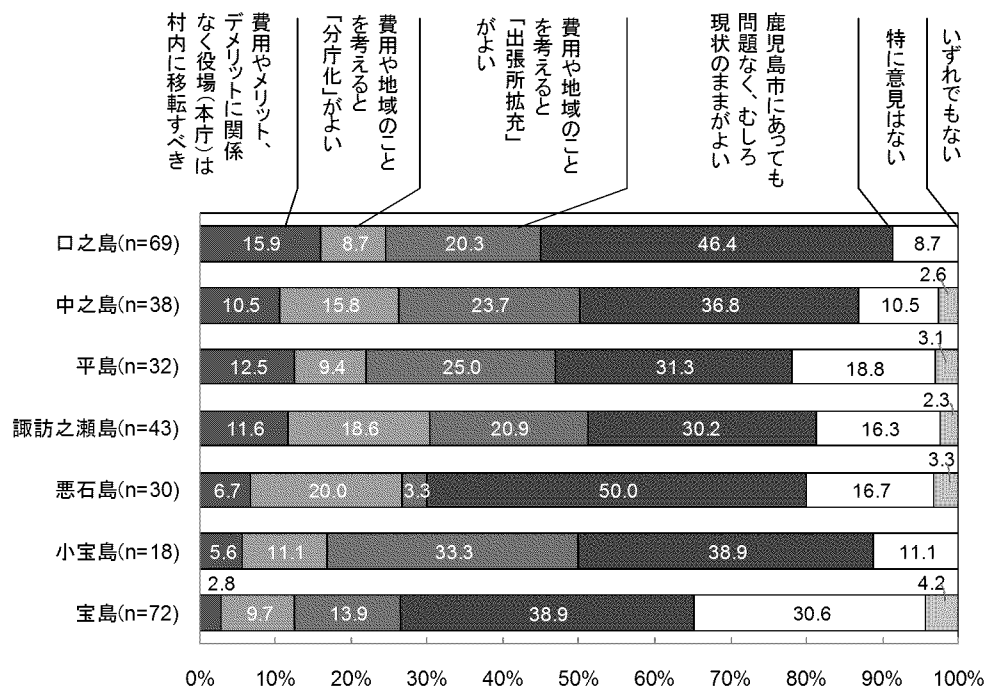
問 36 本庁舎移転をした場合のメリット、デメリットと役場移転
 ～「鹿児島市にあっても問題なく、むしろ現状のままが良い」が 32.7%ながら、「役場機能の改善」
 (本庁移転、分庁化、出張所機能拡充)は 34.1%。

- 役場移転については、「鹿児島市にあっても問題なく、むしろ現状のままが良い」が 32.7%で最も多く、次いで「費用や地域のことを考えると「分庁化」が良い」が 10.4%、「費用やメリット、デメリットに関係なく役場(本庁)は村内に移転すべき」が 8.0%、「特に意見はない」が 14.3%となっている。
- 「役場移転」や「分庁化」「出張所機能の拡充」を合わせた「役場機能の改善」は 34.1%となっている。
- 「役場機能の改善」を島別にみると、口之島が 44.9%、中之島が 50.0%、平島が 46.9%、諏訪之瀬島が 51.1%、悪石島が 30.0%、小宝島が 50.0%、宝島が 26.4%となっている。

【役場移転のメリット、デメリット(n=364)】



【役場移転のメリット、デメリット】

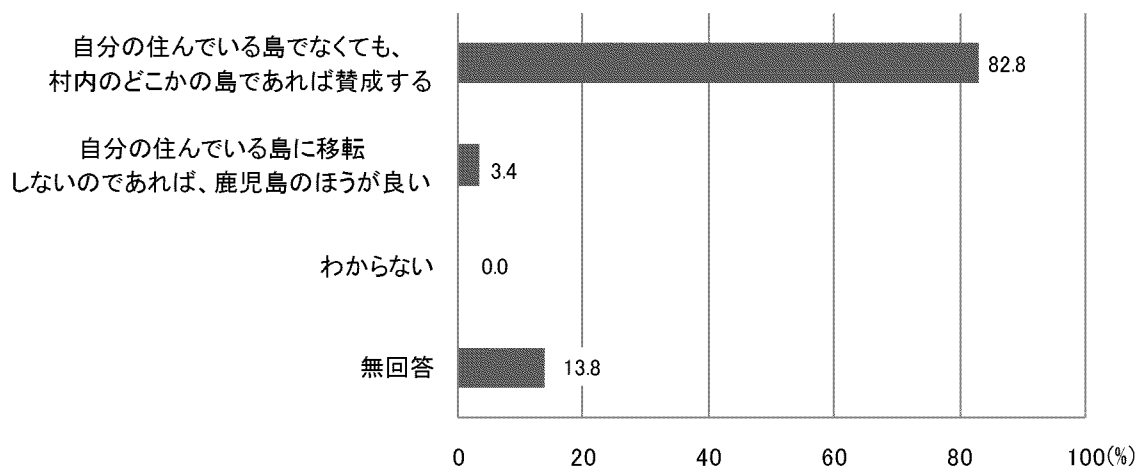


問 36-1 「役場(本庁舎)は村内に移転すべき」と回答した住民の意向

- 回答のあった 29 件についてみると、「自分の住んでいる島でなくても、村内のどこかの島であれば賛成する」が 82.8%、「自分の住んでいる島に移転しないのであれば、鹿児島の方が良い」が 3.4%となっている。
- 役場を移転する場合の島については、「中之島」が 82.8%で最も多く、次いで「口之島」が 17.2%、「宝島」が 13.8%、「平島」が 6.9%、「悪石島」が 3.4%となっている。
- 移転先の島を選んだ理由として、「交通体系からして一番便利と思われるから」が 44.8%、「人口、施設の整備など現在一番中心的な島だから」が 31.0%、「地理的に一番中心の島であるから」が 17.2%となっている。
- 本庁舎の移転後の取り扱いとして、「支所として残す」が 86.2%、「必要ない」6.9%となっている。

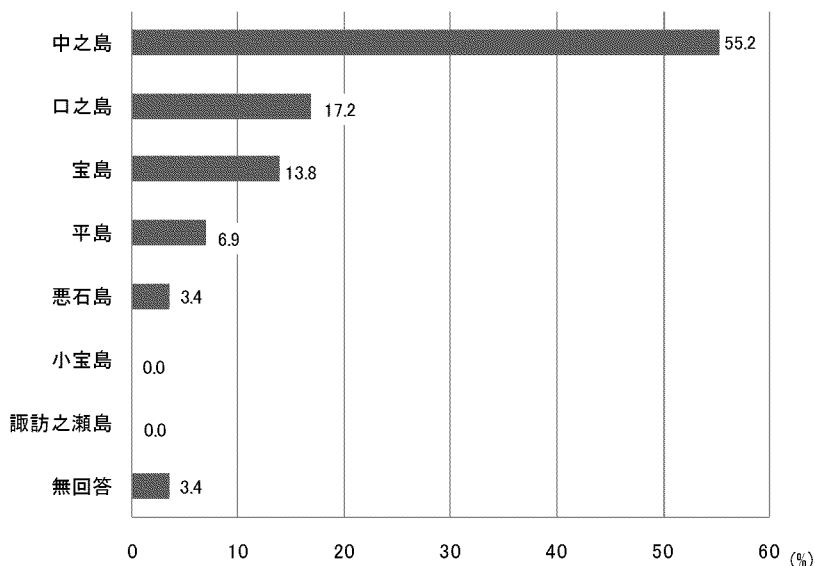
(1) 村内移転の場合の本庁舎の場所について

【村内移転の場合の本庁舎の場所(n=29)】



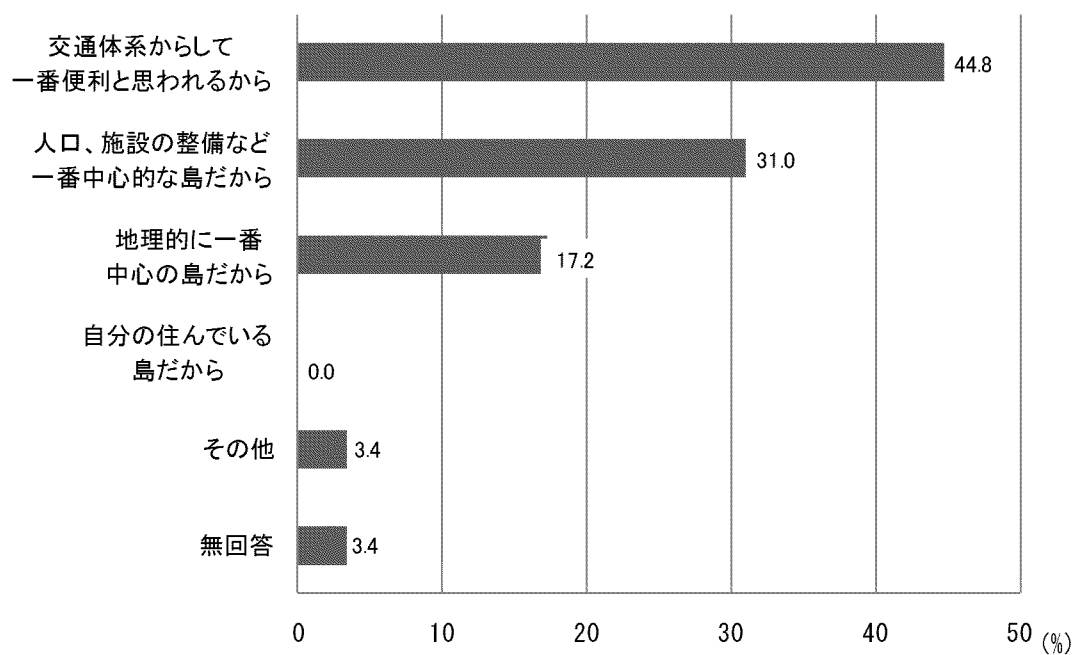
(2) 本庁舎をどこかの島に移転するとなった場合、どの島に移転するのが最も良いと思うか

【村内移転先の島(n=29)】



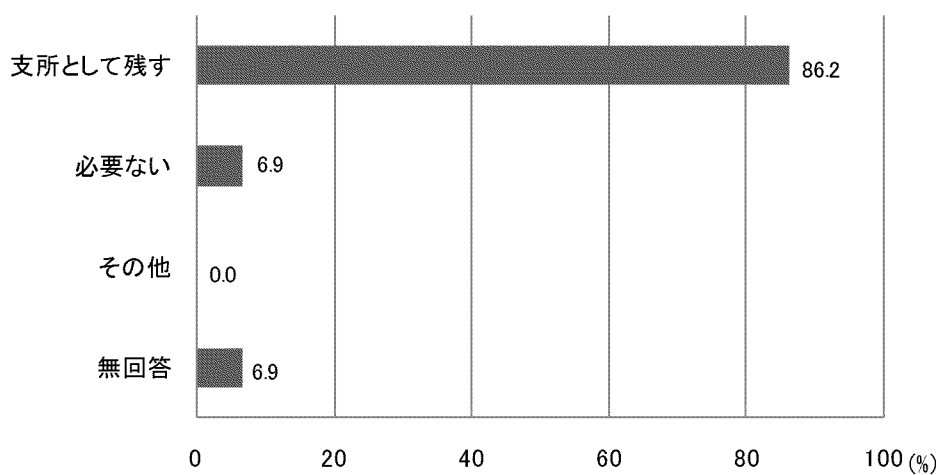
(3) その島を選んだ主な理由

【その島を選んだ理由(n=29)】



(4) 鹿児島にある本庁舎の移転後の取り扱いについて

【鹿児島にある本庁舎の移転後の取り扱い(n=29)】



問36-2 「分庁化」や「出張所機能拡充」「現状維持」等を選んだ理由(自由記入)

①「分庁化」を選んだ理由

- デメリットの面で問題がいろいろあるが、全島に支所はあったほうがいいと思う。全島に支所があれば、島民の声を役場の人聞く機会が増えると思う。
- 職員を1名ずつ配置だけなら、経費増は押えめにできるかと思えます。村民の直の意見を聞くことができる、本庁とのやりとりがスムーズにできるとの点で選びました。
- 7島の中心近くの島に支庁舎があれば便利がいいのではないかと思います。
- 分庁化がより頼りやすいと考えたため。
- 公平感という点において、どの島にも役場の機能を求めたい。
- 役場職員と実際に島で生活している住民との思いに温度差を感じてしまう場面が多い。
- 役場職員と島民との温度差
- 職員が島の実情を直接感じ、行政に生かせる
- 本庁の鹿児島市住民を各島の住民として職務にあたるような工夫をする。
- 島(村)に少しでも納税してほしい。
- 人口の増加と税収の増加。
- 島に住む事で必要な行政支援が分かると思うから。
- 税収の増。島に住むことで島民の気持ちが理解できる。
- 村民の要望を肌身で感じる行政へのシフト、役場職員が居を構える事による人口増加(過疎化、高齢社会化の抑止)
- 村の人口対策の一助として、職員及びその家族が村民になるのが一番手取り早いし、職員も島の生活を通して何が必要かを本当に知ることができる。職員の質の向上にもつながり、島民の若返りと地域振興の起爆剤になると思う。
- ブロードバンドの充実により鹿児島市内と同様に島でも仕事ができる様になったと思う。又、役場の優秀な頭脳を直接、島で役立ててもらいたい。人口、税収の改善にもつながるのでは？
- 費用やデメリットのことを考えて。
- 人口の増大です。島の仕事、生活が自分の事と現実を感じられる。
- 地域住民の少ない生活収入源を奪うような形での、村の定住促進政策に疑問を感じたため。
- 何となくそう感じたから。
- 行政のなすべきことが分からなくなった。役所の支援や補助への依存度が高く、村民も職員も先々のことに責任をもつ気構えがなくなった。過不足、不公平が目立ち、人心は荒れている。

②出張所機能の拡充を選んだ理由

- 現在の出張所でも十分な機能を果たしていると思えるから。
- 今のところ出張所があれば問題ない。
- 出張所だけで足りる。

- 費用
- 質の悪い水道代などが値上げされ、ハード面が充実されると言っても困るので…。
- 費用も安く、便利になりそうだから。
- 時間と費用がかかりすぎる（自分が高齢のため）
- 本庁舎移転、分庁化は経済的に難しい。
- 窓口常駐化と、島民の雇用が増える為
- 事務の改善合理化をやると、今のままで何も不便はない！ただし、出張所職員の質は問題になるので、この事に力を入れてもらいたい。
- 本庁舎移転は移転先が決めにくく、分庁化はもっと役場に行きにくくなると思うから。
- 出張員さんは、ほとんど休みなく対応されていて、本当に大変そうです。住民も専門性もないので、相談のしようもない。住民と本庁職員との間でむずかしい立場です。
- 手続き等考えると、充実している。本庁は他の機関とのつながりを密にすべきで、今のままの方が、スムーズに行くのではないか。出張所は人員を増し、より事務力を充実していただければ、大変な不便はないと思う。
- 宝島又は奄美の出張所機能の拡充を選んだ理由として、交通体系からして便利である。
- 島に住んでみて初めて不便さを感じられるから。
- メリットも多いが、職員の優秀な人材確保に疑問が残る。
- 村内での転勤や定住に不安がある。口之島出身でも役場が別の島…というのはどう働き手に影響が出るだろうか。今ある場所・機能の更なる拡充でデメリットをなくせないだろうか。

③現状維持を選んだ理由

- 今のままでいいと思ったから。
- 現状で問題ないから。
- 不便に感じていない。
- そんなに不便は感じず、面倒なこともないから。
- 不便に感じていない。産業振興のために費用を使った方がいいと思ったので。
- 現状のままでいいと思ったから。
- 現状でいいです。
- 現状で不便無し。
- 大きな不便を感じない。
- 現在の出張所の対応がとても丁寧で満足しているから。ただし、負担が大きくないかと気にしている。
- 手続きがすぐに済む。

- 今のままで十分に機能しているから。
- 色々難しくなりそうだから。（今と変わってしまうと大変になる）
- 村内に移転。人口増にはなるが、移転した島だけで他島には何のメリットもない。むしろ不便である。
- 各島、自治会が機能しており、インターネット、出張所、診療所等を活用する事により、特に不自由は感じない。
- 現状の各島支所等で殆どの必要な事項は実施可能であり、離島である事から不可な用件は今のところなし。移転費用のリスクを負ってまで本庁移転の必要はない。
- ①出張所のTV会議システム利用でも、スカイプでもいいので、本土の役場の対応に似た、本庁職員と対面で話せる仕組みを作りたい。②本庁に電話で問い合わせる時、とても時間が必要。コレクトコールならうれしい。
- 鹿児島には行くことが多いので、ついでに本庁に行けるが、他島に行っても宿泊までする予定がない。
- 交通の便等を考えると、鹿児島市にあった方が便利である。
- 今後Iターンが増えることを考えると、市内には里帰り、他私用で行く際に立ち寄れるので、行政が近く感じられて非常に助かるので。他島に移った場合、役場に出向く事が皆無となるのでは？
- 村内でも鹿児島でもそんなに不便さは感じないので、今のままで良い。
- 本庁舎が鹿児島だからといって、さほど不自由さは感じないし、村内どこかに移転したとしても今までと変わらないと思います。むしろ、今までと同じ出張所の拡充をした方が良いと思います。
- 家族が鹿児島にいるので、鹿児島にあった方が便利が良い。
- 7島をまとめている役場だから、全島を客観視できる島外の鹿児島市でよいと思う。島を出る時に気軽に立ち寄れるからよい。
- 本庁が鹿児島にあると、鹿児島に上がった際に役場に立ち寄ることができ、役場関係の用事ができる。
- 本庁は鹿児島市内にあった方が便利だ。他島に本庁舎があった場合行き来等の交通の便が大変そう。（年に1回程しか本庁舎に行くことがないので。）
- 鹿児島市内で働くと考えて就職した職員の人生を狂わせる。奥さん等が拒否したりして家庭が崩壊したらどうするのか。
- 村内移転した時に職員の確保が難しいのでは。鹿児島市にある事でスムーズに行われている、他の行政、業者、日赤等との連携に支障が出ることも考えられる。
- 形より中身が大切だと思うから。
- 人口対策は違う形で取り組むべきである。
- 島に移転した場合、職員の確保が難しそう。
- 村内に移転しても6島はメリットが少ないと思う。逆に市内にあった方が急患や入院する時など便利だと思う。
- 仕事で一時的に宝島に住んでいるから。
- 住み始めてから1年経っていないため、どちらが良いのか意見することはできない。
- 不便に思う部分を（現状の）鹿児島市に本庁舎を置きながら改善していけばいいと思う。それが出張所の機能拡充なのかはよく分かりませんが、今の体制で不便をどう改善するかだと思う。

問 37 自由意見

<施策について>

- 全体的に男性への雇用場所は多くみられますが、女性の収入源になることはあまりありません。ぜひ、女性への対策を何かお願いいたします。
- 来年度からのインターネット料金を無料化してほしい。（ライフラインのため）
- 広報をキッチリやってほしい。防災無線の島内放送は、船の運航に関するもの以外は迷惑。文書配布、掲示、職員の口頭による案内を綿密にしてほしい。正確な情報なしに島の未来を語り合うことは出来ない。
- 村民の意識（もっと島に観光客が来てほしい。産業を振興させたい。定住者が増えてほしいなどの願い）を高める必要があると思う。関心が薄かったり諦めていたりするように感じる部分がある。
- 農業用水の確保など基盤整備に力を入れてほしい。
- 経済を活性化させずに島の活性はない。
 - ①女性の社会進出を都市部並の条件に（保育等）
 - ②都市部並である必要はないが住宅環境が悪すぎる。高い家賃でもよいのもう少し広く。広い村営住宅は家賃を上げ、不公平感をなくす。
 - ③保育施設がなく、女性の社会進出ができない。夫婦が共に働くことができず、生産活動がしにくく、結果、暮らしにくい。この理由により安定した収入が得にくいいため収入不足により島を離れることはありえると考えている。
 - ④高齢者の住宅事情が悪すぎる。
- ① I ターン者等の定住促進のため支援は必要だと思うが、過度な部分があると思う。（助成金の延長等）在住すべての人に平等な支援を。②島外での保育支援ではなく、島内での保育支援を充実させてほしい。
- 私達の島も最近では I ターン者も増え、子供達も増えて嬉しいかぎり。この現状が過去の事にならないように、みんなで助け合いつつ、何か安定できる事業があれば、なおいっそう人口増になり、ますますにぎやかな十島になるのではと思う。できればもう少し交通の便も良くなってくれればと期待します。
- 防災無線が不具合中
- I・Uターナー者を受け入れる前に住宅を十分準備すべき。住む所が見当たらない、現在の集落内の空き地をうまく利用すべきでは。
- 今は、とても忙しい時間をすごしています。子供もとても楽しく学校に行ってます。充実した日々です。島に住む事については、やっとなんか少しずつ、仲よくみなさんとやっていますがもう少し、設備的なものが必要かなと思います。例）乾燥機（しいたけ）
- 自衛隊や米軍の基地でも誘致しない限り、人口減、産業衰退は必須と考えます。I ターン者なので意見する立場にありませんが、現在の施策では村の維持は難しいでしょう。
- 防災無線を使った村からのインフォメーションについて。公式な放送なので、文章がきちんと読めない人には放送させないで欲しい。内容が伝わらないばかりか、聴き手を不快にさせる。きちんと教育するか、できない人には放送させない。
- FaceTime や Skype の様な万人が活用できるテレビ会議システムを活用し、家庭～役場窓口、家庭～出張所等が常時やりとり出来るコンタクトラインを整備する。
- 住宅の整備は必要であるが、住民も持ち家を造る努力もしてほしい。
- 今後は、道路、港湾、公共施設等のメンテナンスの時代に入るが、危険が伴う物が多くなる。これらの補修についてよく考えてもらいたい。

- ①島に託児システムが欲しいです。2人目を考えた時に核家族での育児が不安です。毎日ではなくても良いので、月に10日間でも保育士の人に来るなど、預けるシステムが出来ればと思います。
- ②もっと南国ムードある島にしたい。
- ③プルメリアやブーゲンビリアなど南国の花を島に増やしたい。
- ④島内、集落内でプラスチックゴミやエアコンを燃やす燃やす人がいて困る。
- ⑤大間港の海への入口を整備して子供でも安全に遊べるようにしてほしい。
- ⑥農業用水を増やしてほしい。雨が降らないので畑の水やりが大変です。

- 現在移住者募集で定住促進補助金が多くの方に支払われています。補助金支払いの期限を迎えた時、全員が島に残って生計をたてていけるのでしょうか。心配です。村おこし・地域おこしのプロフェッショナルに十島村をみてもらうことはできませんか？
- 島民も言うは易し、行うは難し、言い放しは、行政任せはだめだと思えます。島民ひとりひとりができることを見つけて協力していくしかないようです。人口減少は怖いですが、Uターン、Iターン者がどんな方かもこわいです。おだやかにのんびりと暮せる環境づくりをお互いに話し合いながら、共生していけたらと思います。お互いさまでみんなで頑張りましょう！！
 - ①住宅サービスの充実（衣食住のうち、食を助けてあげる体制）
 - ②各種検診等の充実（がん検診、人間ドック等の積極的な呼びかけと受け入れと補助金）
 - ③自然環境の保護（若い世帯にはよく意識づくりされていますが）
 - ④リサイクルや廃棄物処理の推進（島内にはまだまだ多くの重機、廃車、販売機等放置され、ひどい状態。自分らの土地だから・・・誰にも迷惑かけていないから、何も言われないから・・・見えないから・・・等の理由。見まわり指導をお願いしたいです。

<庁舎移転等について>

- 本庁は今の場所以外では大変不便になり困ります。
- 島外から来た人達にとっては、鹿児島市内以外考えられない。
- 本庁が鹿児島市にあることは、対外的業務を迅速に対応できると思う。又、個人的にどうしても役場へ行く用事ができた時は船費も安くなり増便になっているので他の用事（例、買物等外病院）もでき良いと思う。
- 本庁舎移転についてはデメリットの方が多く、考えるべきではない。もし、どこかの島に移したとしてもその島だけ便利になり、他の島は今より不便になる。本庁は市内に置き、職員の皆さんには十島村の住民と同じであるという意識改革をして頂きたい。とにかく人材育成。
- 奄美にも支所が必要
- 行政区内に本庁舎が無い事が問題になるのか？ 職員の納税分と住民増は望めるが、病院への通院や諸事情は鹿児島市内で実施することであり、現状のままでよし。
- 役場が島内になくても、そのために出張所があるのだから構わない。重要な存在である出張所員がもっと誰とでも友好的に頼りになる人でないとよくない。
- 本庁舎は県庁又は市役所の一部へ移転出来ないのか。上部組織にエレベーターで行き来出来、業務がスムーズに出来る。又は、既存のビルを利用すれば大きく費用は削減できる。また、役場職員の意識改革が必要
- 村移転の条件は、職員が村民として納税することが必要。
- 島民が減少していく中ですので、本庁舎を十島村の中においてほしい。
- すべての移転ではなく、分庁方式もよい。住民課、地域振興課の一部など。

- 鹿児島市にある本庁の機能を縮小し、各島の分庁（出張所）の機能拡充、増員を図る。各島を維持・存続させるためには各島の「人口対策」が最も重要であると考え。本庁をある特定の島に移すと、その島が突出し、ほかの島が衰退する恐れがある。
- 国や県の補助金等が受けられるならば、人口増加、税収の増加につながるので移転の方向で進めた方がいい。
- 役場機能移転は、無理に急がず、一島だけでパイロット移転試験等を行って、得失を見極めながら行うべきだが、試験自体は急いで行うべき。
- 庁舎移転にかかるメリットとデメリット（パターン別）の文章はあきらかに現況のままでいいというあなたがたの意見が基本にあると思われる。
- 分庁化する場合中之島が良い。その理由は、行ったことのある島だから。（体育大会等・中学時代）島が大きく、住宅建設の場所が多いと思う。職員が市内に住んでいるとどうしても理解できない生活面の事がある。島民として暮らすと分かってくることもある。島で暮らすには自分自身が本当に島を愛し、幸福感を他の人にアピールできることが一番大切だ。

<役場・職員について>

- 役場本庁内の職員の質は向上している。ただ、島の実態を知らない欠点があり、その点を注意する必要がある。
- 職員の島での研修期間をもっと多く、長くし、島での生活をより深く感じてもらえるといい。
- 現行出張員のままの増員は反対。現出張員の教育は、出張所の程をなしていない。何かを俺がやってやっているとやわんばかり。すべての面で見られ、村長の権限において、いつも替わりはいるぐらいの姿勢を示してほしい。
- 全体的に明るくなってきたとは感じますが、役場に伺った時に、あいさつが少ないように感じます。“やまびこあいさつ”と言われるもので、お客様が入ってこられたら全員があいさつをするのがありますが、とり入れて欲しいものです。①活気づく②苦情等で来られても気持ちがゆるむ③不審者対策など、メリットは多くあると考えます。ぜひ、前向きで活気のあるすばらしい役場であることを願い、一言入れさせていただきました。
- 出張員を3年周期ぐらいで交代制にすると、学校の児童・生徒の増加につながる。また、役場職員の島での生活の把握になると思う。特に、20代～30代の職員には将来のために役に立つと思う。
- 定住者については移住者、住民、地域社会「三方一両得」の型が望ましく、若い労働力の確保、伝統芸能の伝承となると働く場の対策は必須である。
- 出張所に職員を2～3名配置したらどうか。もちろん人口増にもなる。
- 役場の職員は島に住んでみないと分からない（生活していく上で不便なこと）と思うので、島への転勤があっても良いと思う。
- 役場職員も2～3年ぐらいそれぞれの島に勤務したら、島の事情も良く分かり、私達住民の声にも納得できる部分が出てくると思う。
- 役場の職員のあり方に驚く事が多く、庁舎を訪れた各方面の方々からも同意見を伺う事が多い（暗い、二枚舌、対応の悪さ）。有力者や便宜を図る、図らない関係性のあり方、公平性が無くプライバシーの保全も無さすぎる。意識の改革が必要だと強く感じる。

<その他>

■議会について

- 村議会を総代議会に改変
出張員は毎日出張所に出勤して仕事をしている。しかし、同様に給料をもらっている村会議員は出勤の要は無く、多数の議員は牛を飼い、本業としているように見え、議員報酬 20 余万円は貯金出来るような生活ぶりである。なぜ議員ばかり優遇する法を施行しているのか。農業を毎日やって月 20 万収入があるか。ないはずである。「何もしないで議会に出て挙手して 21 万円？」こんなバカバカしい制度はやめましょう。それより、各島の総代を議会に出し、“総代会議”にして報酬も日当制にすべきではないか。4 年 1 期で“1 億円”の無駄金を議員達に与えるおろかな税金使いは廃止しましょう。

■アンケート調査について

- アンケートの質問項目が分かりづらい。
- もう少し村民の立場、島の事を考えたアンケート作りをお願いしたい。
- アンケートの調査票について問題あり。
①各島の現状を充分把握した内容とは思えない。アンケートが多すぎる。
②役場職員（正）が聞き取り調査した方が（高齢者等）本音で答えられると思う。

■その他

- 島民にとって最も大切な価値判断は、今、島に生きていて幸せかどうかということである。この幸福度が高ければ現状を大きく変える必要はない訳である。十島村は、人間性の本質を探る場として、今後十数年後には脚光を浴びることになるだろう。大切なことは現代社会を追うことでは無く、何が本質なのかを追うことである。それが今後の行政の基であり、明日への光源なのである。

Ⅱ. 出身者アンケート調査結果

1. 調査の概要

平成 26 年度から新たにスタートする「第 5 次十島村総合振興計画」の策定に当たり、十島村とゆかりのある出身者の考えや島のイメージ、協力意向等把握し、基本方針や重点施策等の検討に反映させるため、以下の要領でアンケート調査を実施しました。

(1)実施期間

平成 25 年 9 月 12 日～平成 25 年 9 月 30 日

(2)調査対象者

トカラふるさと会および出身者 196 名

(3)調査票の配布・回収の方法及び回収結果

調査票の配布・回収は、郵送にて行いました。その結果、有効回収数は 88 件、有効回収率は 44.89%。

(4)調査項目

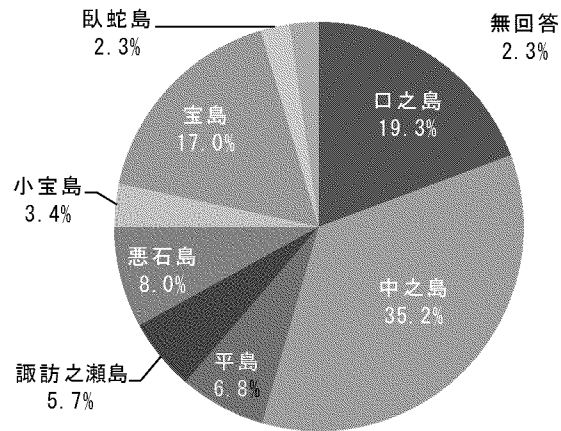
1. 転出の理由
2. 親や兄弟・姉妹の十島村在住の有無
3. 帰省の頻度
4. 十島村への定住意向
5. 十島村に求める情報
6. 郷土出身者会などへの参加状況
7. 郷土出身者会が十島村の振興のために果たす役割
8. 十島村の全体的なイメージ
9. 十島村に期待する将来像
10. 今後の問題点
11. 島のサポーターについて

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

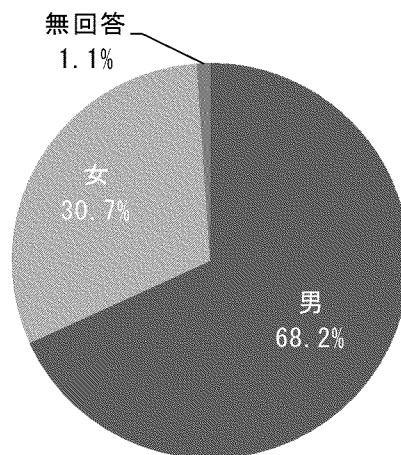
問 1 出身の島

【出身の島(n=88)】

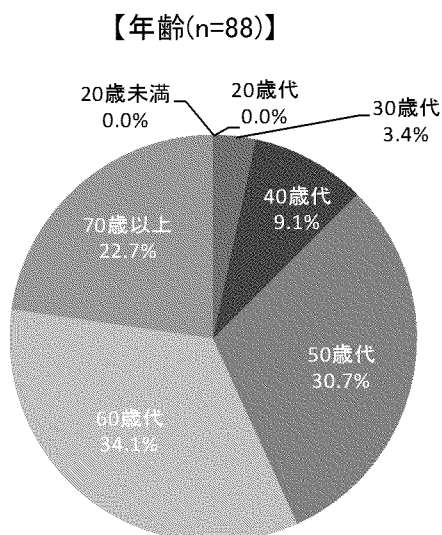


問 2 性別

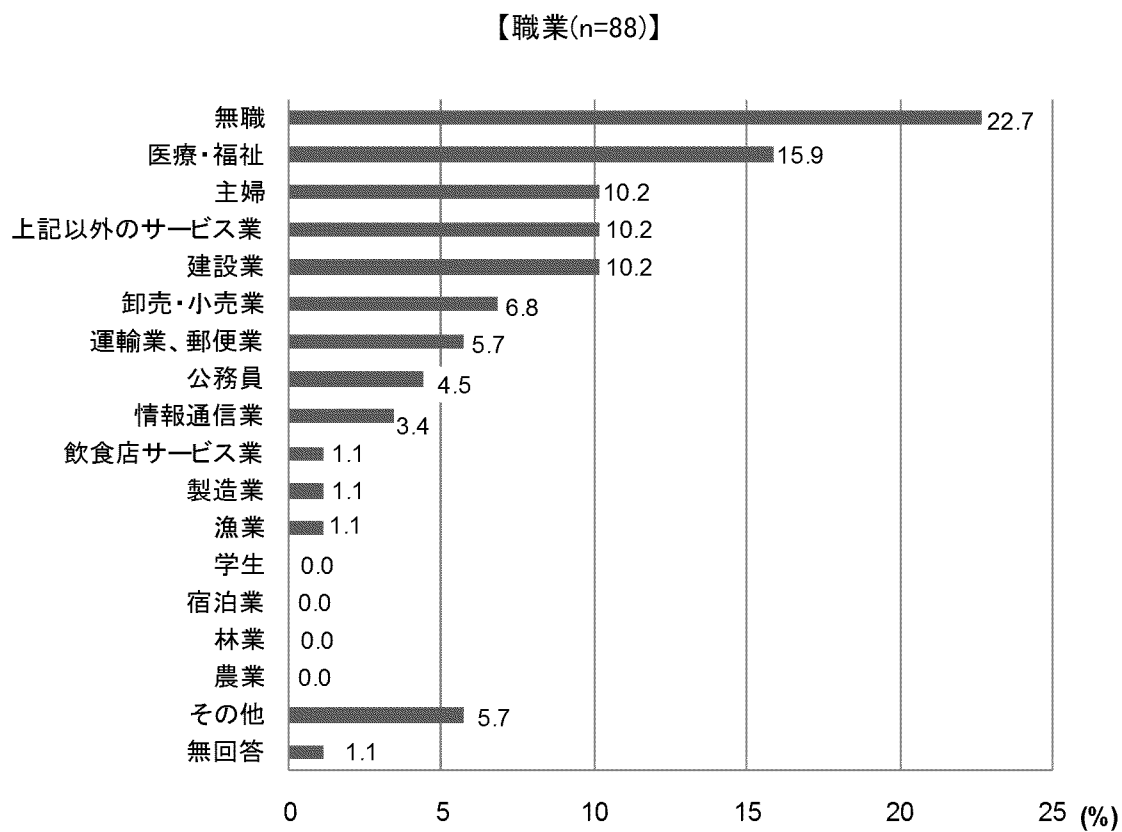
【性別(n=88)】



問 3 年齢

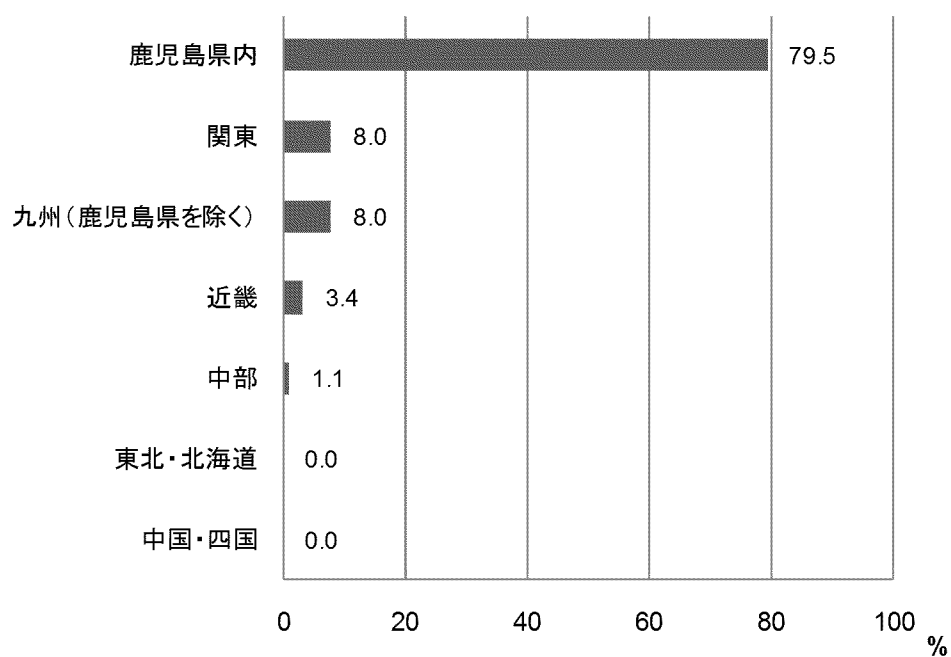


問 4 職業



問 5 現在の居住地

【現在の居住地(n=88)】



(2)個別設問

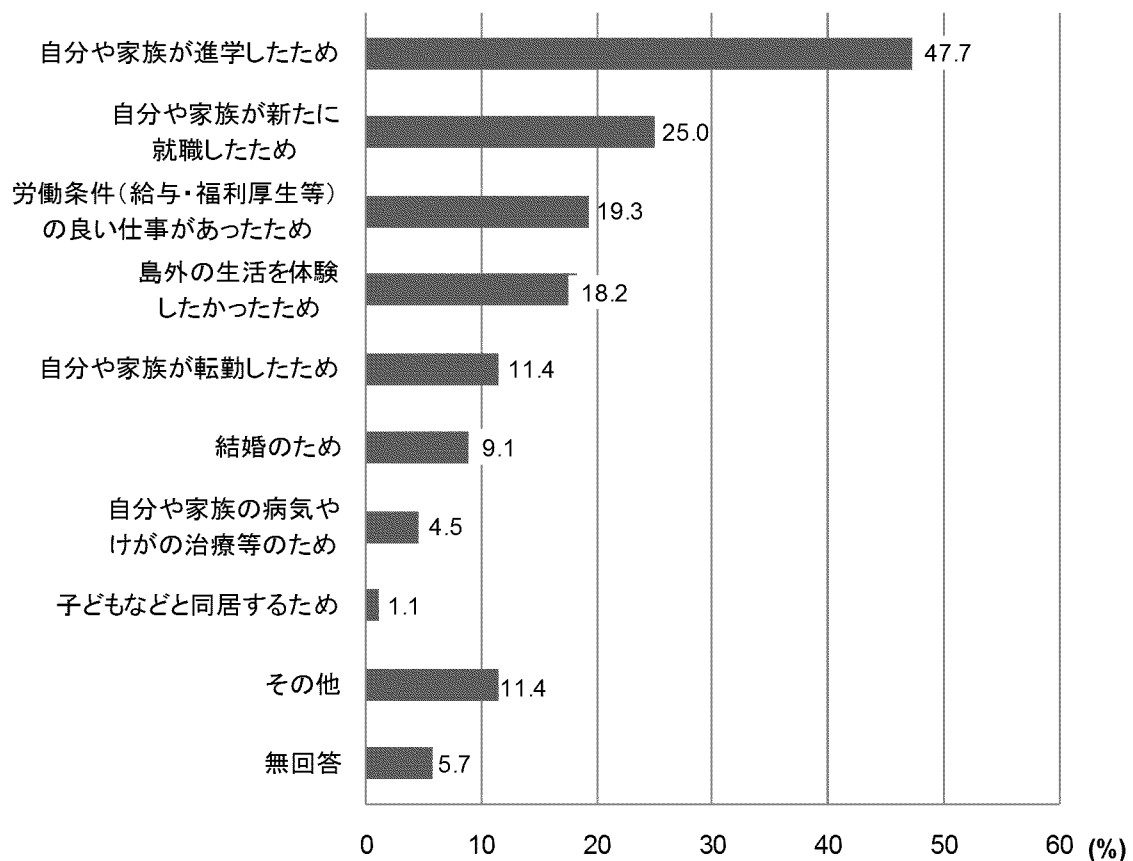
<転出の経緯など>

問6 転出した主な理由(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「自分や家族が進学したため」(47.7%)

- 転出した主な理由として、「自分や家族が進学したため」が47.7%で最も多く、次いで、「自分や家族が新たに就職したため」が25.0%、「労働条件(給与・福利厚生等)の良い仕事があったため」が19.3%、「島外の生活を体験したかったため」が18.2%となっている。

【転出した理由(n=88)】

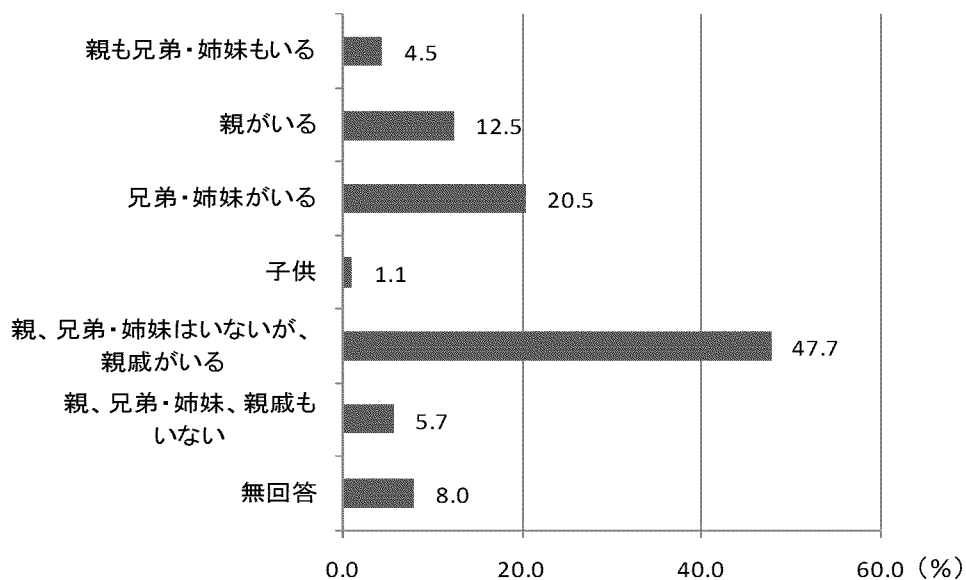


問7 親や兄弟・姉妹が十島村で生活しているか

～ 何らかの血縁関係にある方が島に存在しているのは 86.3%

- 「親も兄弟・姉妹もいる」が 4.5%、「親がいる」が 12.5%、「子供」が 1.1%、「兄弟・姉妹がいる」が 20.5%、「親、兄弟・姉妹はいないが親戚がいる」が 47.7%となり、何らかの血縁関係にある方が島に存在しているのは、これらを合わせた 86.3%。

【親や兄弟、姉妹が十島村で生活しているか(n=88)】

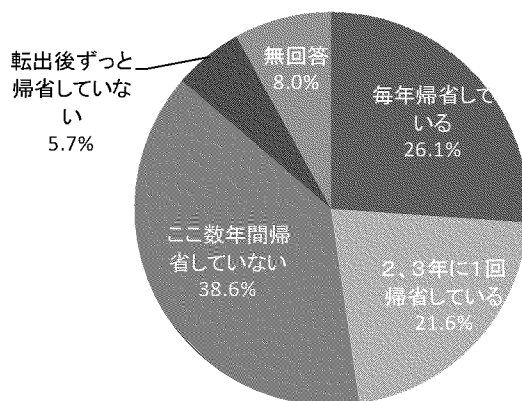


問8 どの程度十島村へ帰省しているか

～ 「毎年帰省している」が 26.1%、

- 帰省については、「毎年帰省している」が 26.1%、「2, 3年に1回帰省している」が 21.6%で定期的に帰省しているのはこれらを合わせた 47.7%。一方、「ここ数年間帰省していない」が 38.6%、「転出後ずっと帰省していない」が 5.7%となり、島と疎遠になっている人は 44.3%。

【どの程度十島村に帰省しているか(n=88)】

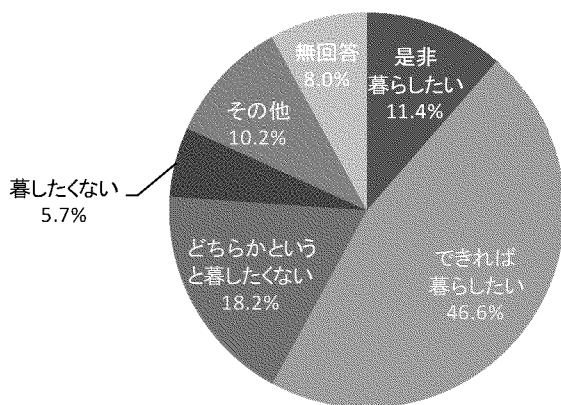


<Uターン意向>

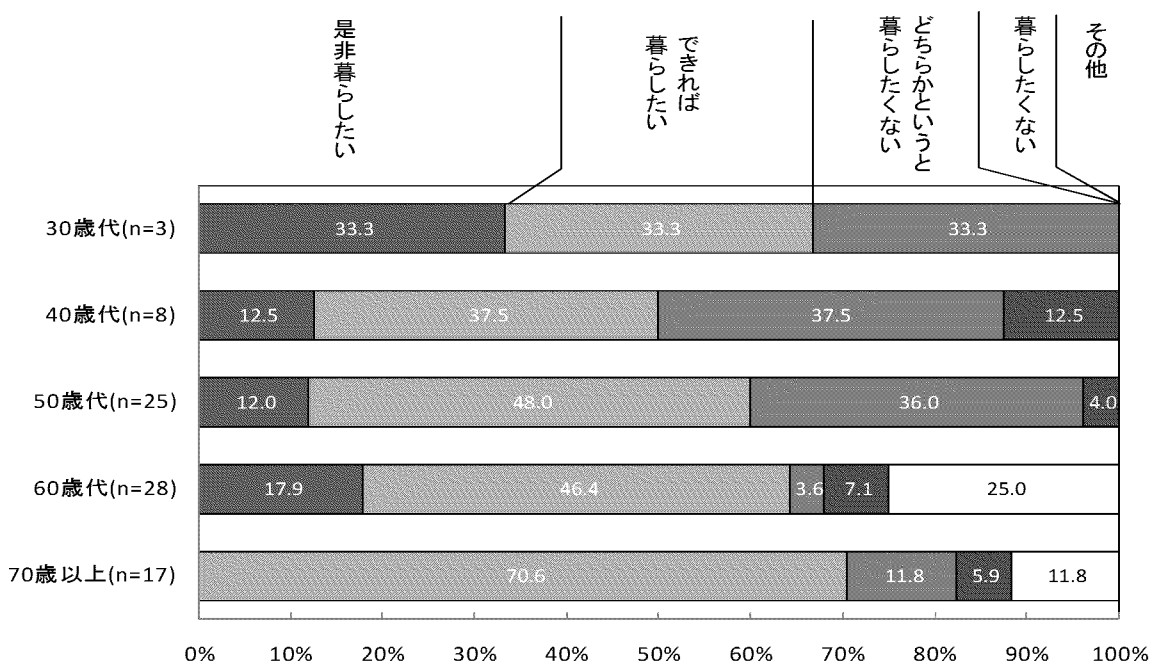
問9 十島村で暮らしたいと思うか
 ~ 「暮らしたい」は 58.0%

- 「是非暮らしたい」が 11.4%、「できれば暮らしたい」が 46.6%で、これらを合わせた「暮らしたい」は 58.0%。一方、「どちらかというとも暮らしたくない」が 18.2%、「暮らしたくない」が 5.7%で、これらを合わせた「暮らしたくない」は 23.9%。
- 年代別にみると、「暮らしたい」は「30歳代」が 66.6%、「40歳代」が 50.0%、「50歳代」が 60.0%、「60歳代」が 64.3%、「70歳代」が 70.6%となっている。

【十島で暮らしたいと思うか(n=88)】



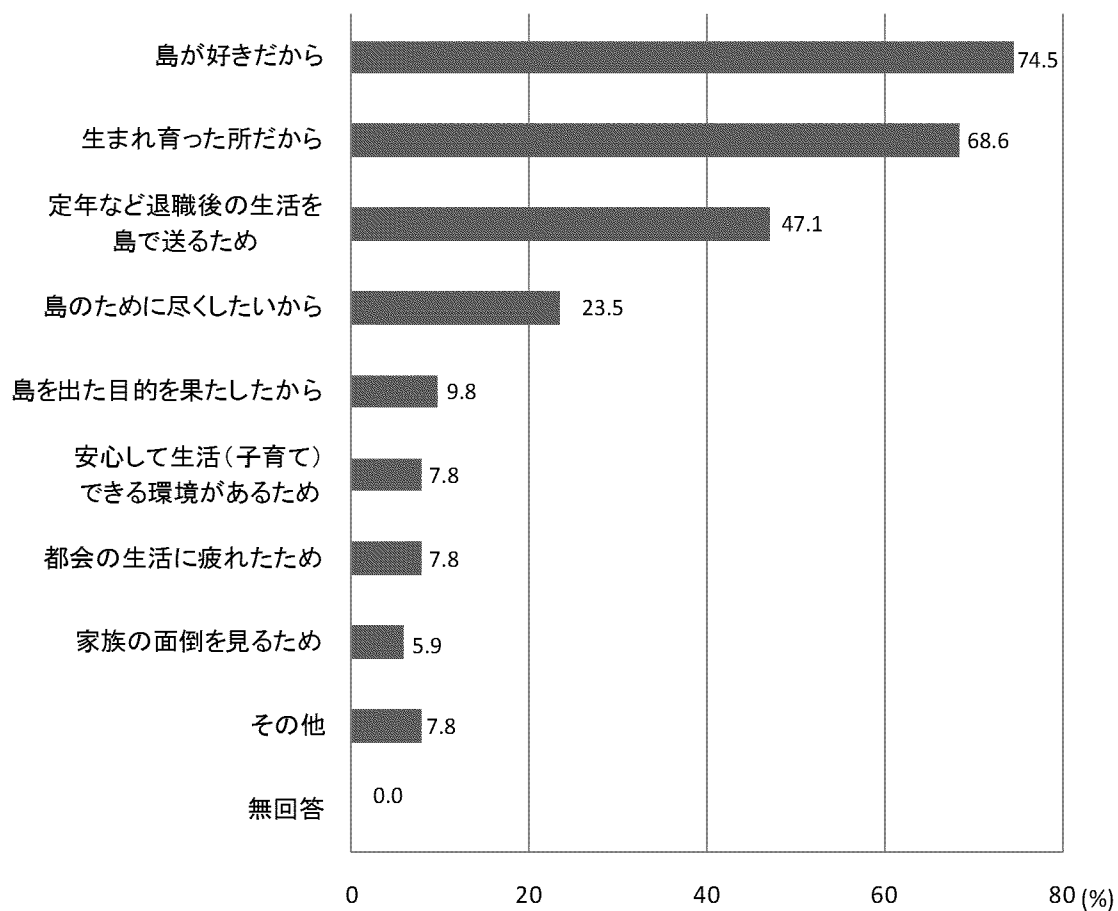
【十島で暮らしたいと思うか】



問 10 十島村で暮らしたいと思う理由(複数回答:3 つまで)
～ 第1位は「島が好きだから」(74.5%)

- 十島村で暮らしたいと思う理由として、「島が好きだから」が 74.5%で最も多く、次いで「生まれ育った所だから」が 68.6%、「定年など退職後の生活を島で送るため」が 47.1%、「島のために尽くしたいから」が 23.5%、「島を出た目的を果たしたから」が 9.8%となっている。

【十島で暮らしたいと思う理由(n=51)】

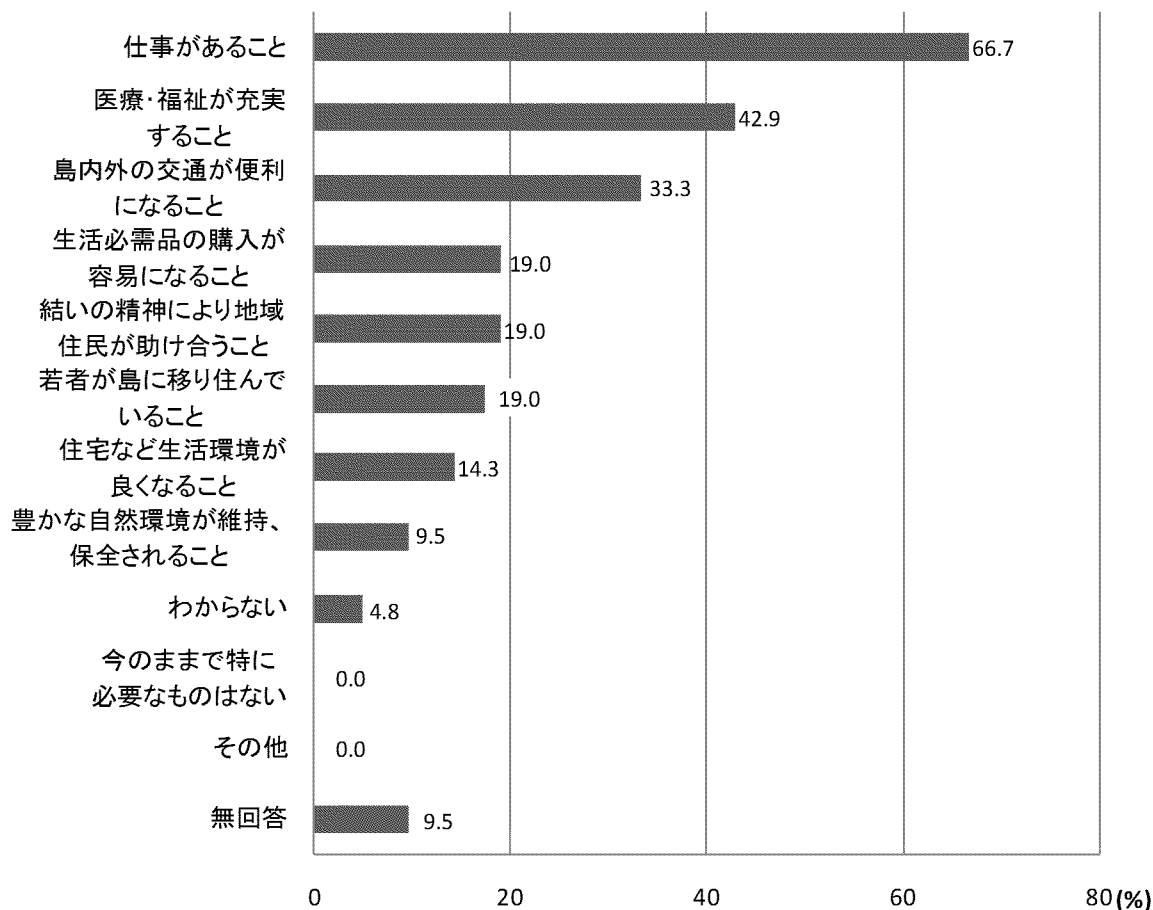


問 11 十島村で暮らすとした場合、何が必要か(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「仕事があること」(66.7%)

- 十島村で暮らすとした場合に必要なこととして、「仕事があること」が 66.7%で最も多く、次いで「医療・福祉が充実すること」が 42.9%、「島内外の交通が便利になること」が 33.3%、「生活必需品の購入が容易になること」が 19.0%、「結いの精神により地域住民が助け合うこと」が 19.0%、「若者が島に移り住んでいること」が 19.0%となっている。

【十島で暮らす場合、何が必要(n=21)】

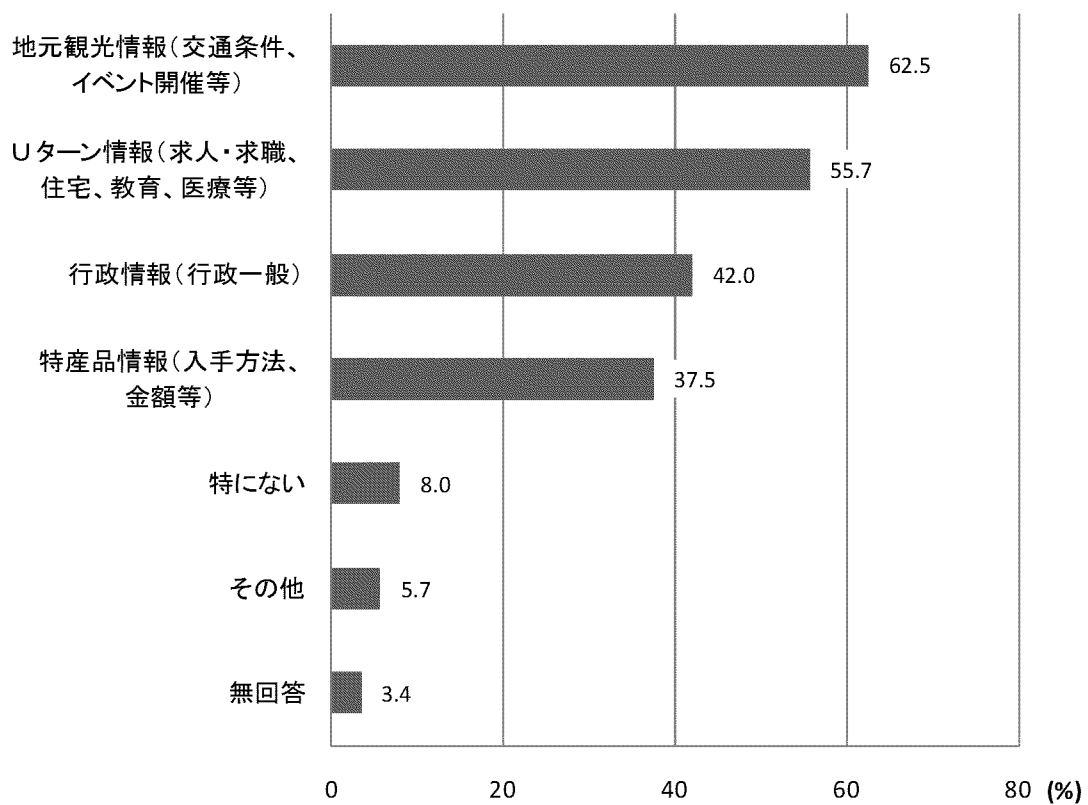


<十島村との関わり>

問 12 日頃、十島村はどのような情報があれば良いと思うか(複数回答:3 つまで)
～ 第1位は「地元観光情報」(62.5%)

- 十島村からの情報として、「地元観光情報」が 62.5%で最も多く、次いで「Uターン情報」が 55.7%、「行政情報」が 42.0%、「特産品情報」が 37.5%となっている。

【十島村のどのような情報があればよいか(n=88)】

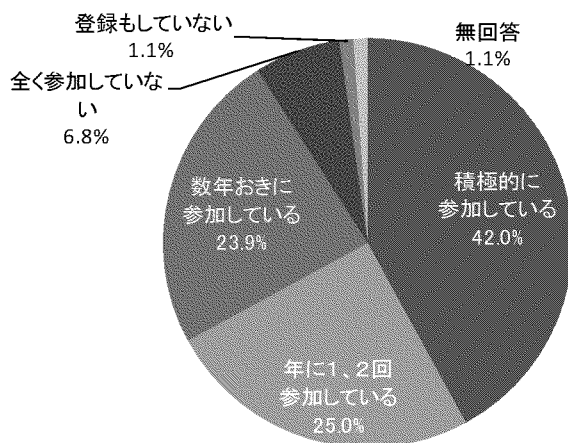


問 13 郷土出身者会などにどの程度参加しているか

～ 「積極的に参加している」は 42.0%

- 郷土出身者会などに「積極的に参加している」が 42.0%、「年に1、2回参加している」が 25.0%、「数年おきに参加している」が 23.9%、「全く参加していない」が 6.8%、「登録もしていない」が 1.1%となっている。

【郷土出身者会などにどの程度参加しているか(n=88)】

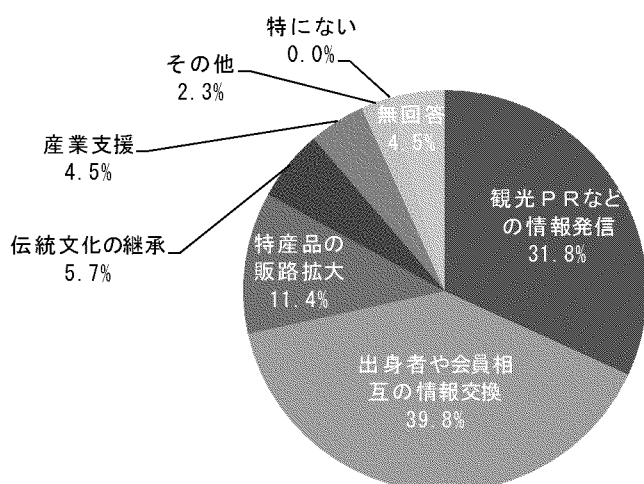


問 14 郷土出身者会などは、十島村の振興のためにどのような役割を果たすべきか

～ 第1位は「出身者会や会員相互の情報交換」(39.8%)

- 郷土出身者会の果たす役割として、「出身者や会員相互の情報交換」が 39.8%で最も多く、次いで「観光PRなどの情報発信」が 31.8%、「特産品の販路拡大」が 11.4%、「伝統文化の継承」が 5.7%、「産業支援」が 4.5%となっている。

【郷土出身者会の果たす役割(n=88)】

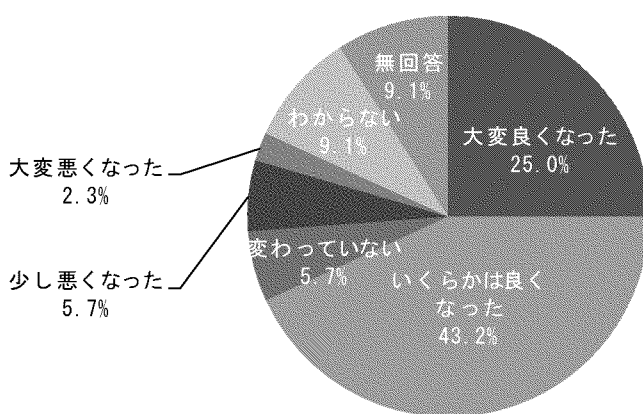


<十島村の現状に対する評価と期待>

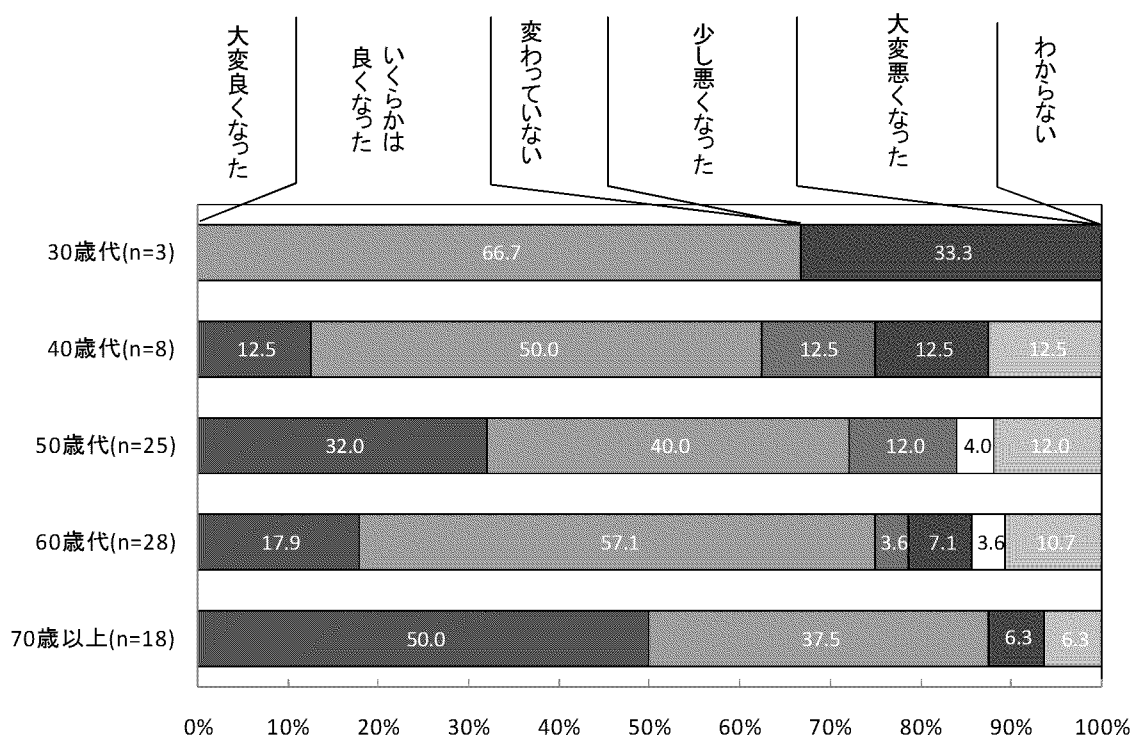
問 15 十島村は全体的なイメージとして 10 年前に比べて良くなったと思うか
 ~ 「良くなった」は 68.2%。50 歳代以上は 7 割を超える。

- 十島村のイメージとして、「大変良くなった」が 25.0%、「いくらかは良くなった」が 43.2%で、これらを合わせた「良くなった」は 68.2%。一方、「少し悪くなった」が 5.7%、「大変悪くなった」は 2.3%で、これらを合わせた「悪くなった」は 8.0%。
- 年代別にみると、「良くなった」は「30 歳代」が 66.7%、「40 歳代」が 62.5%、「50 歳代」が 72.0%、「60 歳代」が 75.0%、「70 歳代」が 87.5%となっている。

【十島村のイメージ(10 年前に比べて)(n=88)】



【十島村のイメージ(10 年前に比べて)】



〈良くなったと感じられる点：自由意見〉

<p>総合的なイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前と比べて、インフラの整備がされて、今なら自信を持って友人、知人に島を紹介できるようになった。明るいイメージ、いやしのイメージにぴったりである（50 歳代）。 ● トカラ列島マラソン、悪石島ボゼツアーなど、イベントなどで島の知名度は上がっていると思う。医療、福祉の充実の向上（60 歳代） ● 住民に対する福祉の充実化、ふる里会、トカラ列島マラソン、ボゼ祭り、各島々の運動会に参加等々、行政の企画実施（50 歳代） ● 観光 PR やメディアによって世間の知名度が上がった。また、各島の特産物が増えて、遠方においても誰でも手に入るようになった（40 歳代）。 ● 以前は特産品としてお土産、特になかったのですが、最近は色々開発されているよううれしく思います（50 歳代）。 ● 皆既日食のイベントがあったお陰で、インフラ面（上水道の設備等）が充実してきたように思う。また全島に看護師を配置する努力をされており、医療面で安心して生活できるようになっている（60 歳代）。 ● イベント等で（皆既日食、マラソン等）ずいぶん知られることになったり、特産品が増えた（フルーツ等）。フェリーになり交通の便でも以前より良くなっていると思います（50 歳代）。 ● I ターンの増加。2009 年のトカラ皆既日食のイベントの成功（PR 活動）（40 歳代） ● 釣り客を含め観光客が、多くなった点と特産品の情報がメディアに多く取り扱われ、十島村の PR になっている。住民の方から良くなったという声が多くなった点です（50 歳代）。 ● 時々マスコミに取り上げられ少しでも島の特産品の宣伝ができています（50 歳代）。 ● 十島丸の運航方法とインターネットの接続、村営住宅での受け入れ、特産品販売等（60 歳代）。
<p>社会インフラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ブロードバンド化、またはそれによる、役場への諸手続きの利便性の向上（30 歳代）。 ● 交通、船が速い連休などの時、船便が多いこと。島全体が一体化して明るい人々になった（50 歳代）。 ● 船の運航日程が良くなった。携帯電話やテレビでの情報が分かりやすくなった（60 歳代）。 ● 交通の便（週に 2 便で鹿児島島が近くなった）（60 歳代） ● 交通の便が良くなり、住民同志（各島）の交流ができています。各島の若い人たちが、村の存続のために、頑張っているのが見受けられます（60 歳代）。 ● 船が大きくなり酔いせず安定した事。着く時間が早くなった事（60 歳代）。 ● 1. 交通、通信ネット 2. トカラ物産品アピール（70 歳以上） ● フェリー十島全便名瀬便となった事（70 歳以上）。 ● 船の停泊時間が短縮されたこと。船の出港、入港時間が定刻通りに近くなった（60 歳代）。 ● 一泊でも来島できること（日によっては）（50 歳代） ● 船便の時間帯が変わり、住民および観光客にも便利になったと感じられます（60 歳代）。 ● 交通通信面。医療面。住民へのサービス面（70 歳以上）。 ● 船便がほぼ計画通り、運行され、航行も快適になった。長時間乗船する島民は特にその思いが強い（60 歳代）。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 10年前の状況はよくわかりませんが、それ以前に比べ、道路事情ははるかに良くなったと思います（60歳代）。 ● 私は諏訪之瀬出身ですが、一番は車両が多いことにびっくり。岸壁に船が横づけになった事（70歳以上）。 ● 道路、フェリーは良くなったが、道路脇の竹などの放置は何とかしてほしい（50歳代）。
個別事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年遊びに行った時、コインランドリーがあつてびっくりした。道路が良くなった（60歳代）。 ● 介護関係やUターン者対策が良くなった（70歳以上）。 ● 島内の方に荷物を送るときに割安になった（50歳代）。 ● Iターン希望者が少しずつ増え、島の特産品が少しずつ増えている（40歳代）。 ● 情報、特産品等の販売（30歳代）。 ● I・Uターン者に対する住宅等の提供及び、農業をはじめとする第一次産業への支援等がすすめられている（60歳代）。 ● 荷物を送るときに料金が下がった事。70歳以上の人の船代がただになった事（40歳代）。 ● 介護の施設等が出来、よかったのでは（60歳代）。 ● Iターン者が増えてきたこと（70歳以上）。 ● 行政が、村民だけでなく、出身者にも目を向けたこと、将来のためにはいいこと（50歳代）。 ● 巡回医療相談。港湾整備。情報システムの充実（70歳以上）。 ● Uターン、Iターンに対する積極的支援等（70歳以上）。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● Iターン、Uターンが増えた。特産品があるようになった（60歳代）。 ● 出身者会費への情報提供（70歳以上）。 ● 昔より食生活が良くなった反面、何もかも「お金の生活で」大変ではないかと思う。私は長いこと帰省してないのでわかりにくい（70歳以上）。

〈悪くなったと感じられる点：自由意見〉

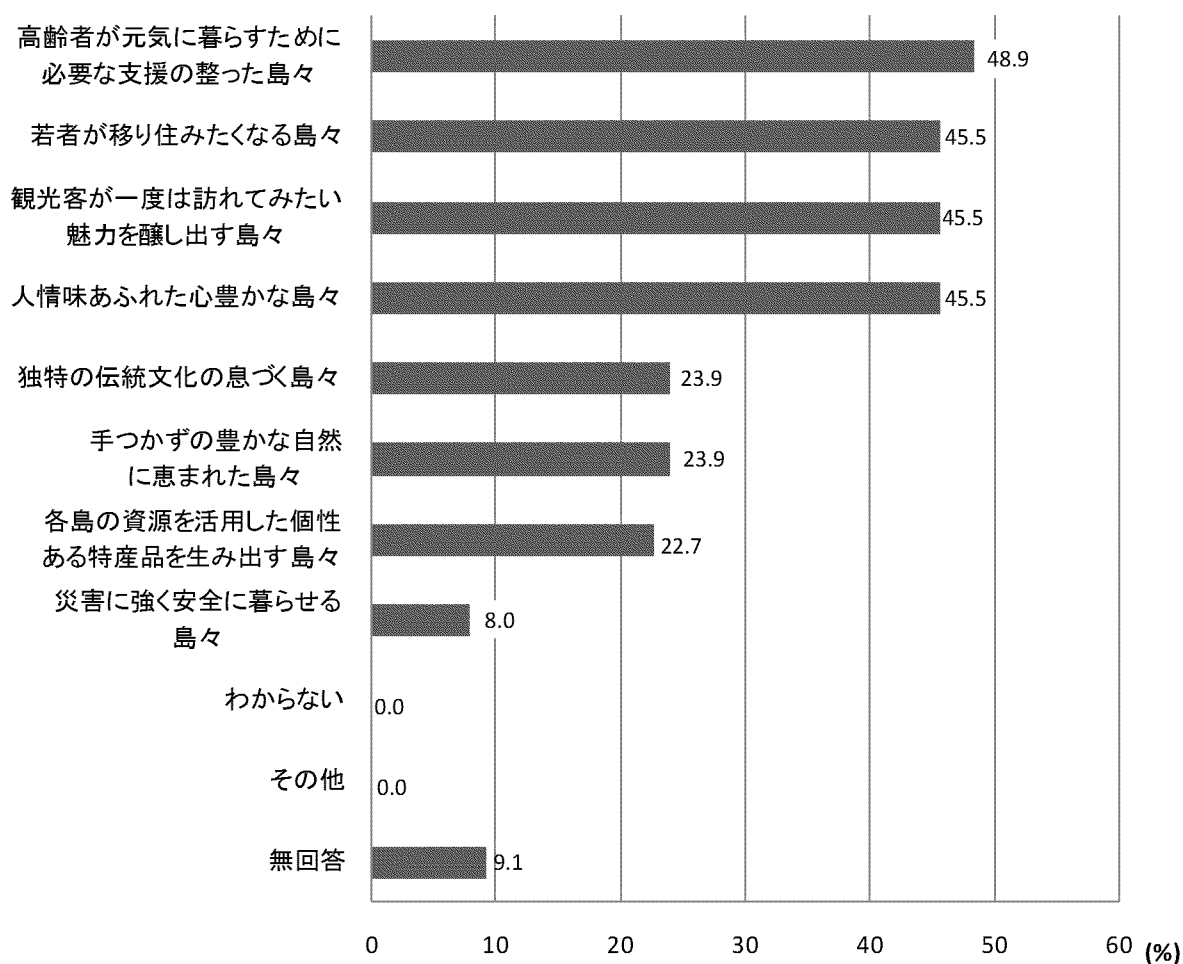
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口がどんどん減り、超高齢化へ一直線なところ（40歳代）。 ● 人口減が進み、将来への展望が厳しい（60歳代）。 ● 高齢化が進んでいて、若い人の負担が重くなっている（50歳代）。 ● 島を訪れるたびに、道路、港などの整備はされているが、島民の暮らしが良くなったとは思わないし、手つかずの自然がトカラの魅力なのではないかと思う。（コンクリートではなく自然のままが生かされていること、30歳代） ● いろいろ情報によると島民同志のまとまりがなく、協力体勢にかけると思う（60歳代）。 ● 島の自給自足を目指してほしい（70歳以上）。 ● 予約のない乗船ができないこと。船で時間調整ができないことが、遠くに住んでいると不便です（60歳代）。
--

問 16 十島村は、将来どのような島になって欲しいか(3 つまで)

～ 第 1 位は「高齢者が元気に暮らすための必要な支援の整った島々」(48.9%)

- 将来の島の姿として、「高齢者が元気に暮らすための必要な支援の整った島々」が 48.9%で最も多く、次いで「人情味あふれた心豊かな島々」と「観光客が一度は訪れてみたい魅力を醸し出す島々」、「若者が移り住みたくなる島々」がいずれも 45.5%となっている。

【将来どのような島になって欲しいか(n=88)】

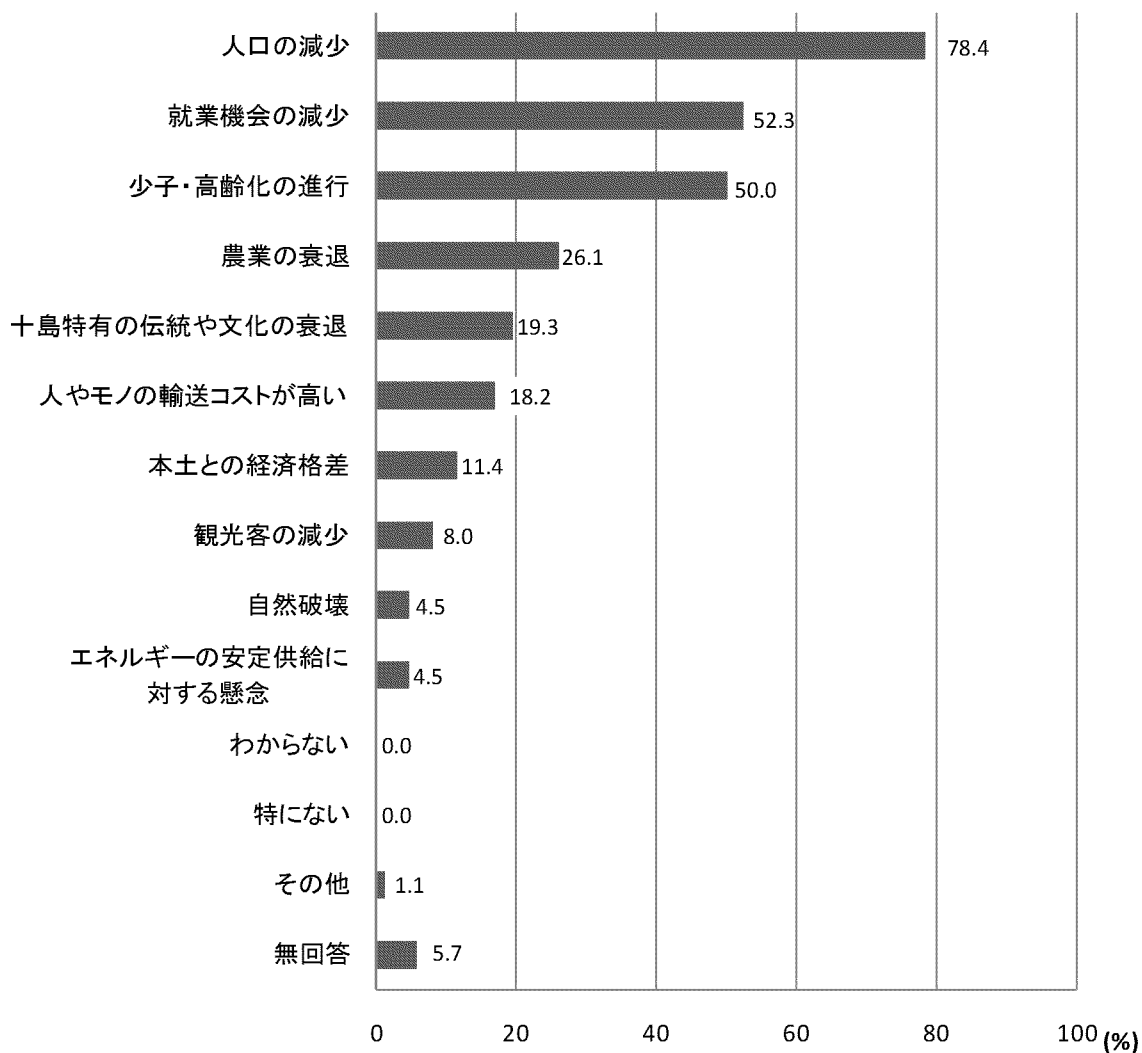


問 17 十島村の今後の問題点(複数回答:3つまで)

～ 第1位は「人口の減少」(78.4%)

- 今後の問題点として、「人口の減少」が 78.4%で最も多く、次いで「就業機会の減少」が 52.3%、「少子高齢化の進行」が 50.0%、「農業の衰退」が 26.1%、「十島特有の伝統や文化の衰退」が 19.3%、「人やモノの輸送コストが高い」が 18.2%となっている。

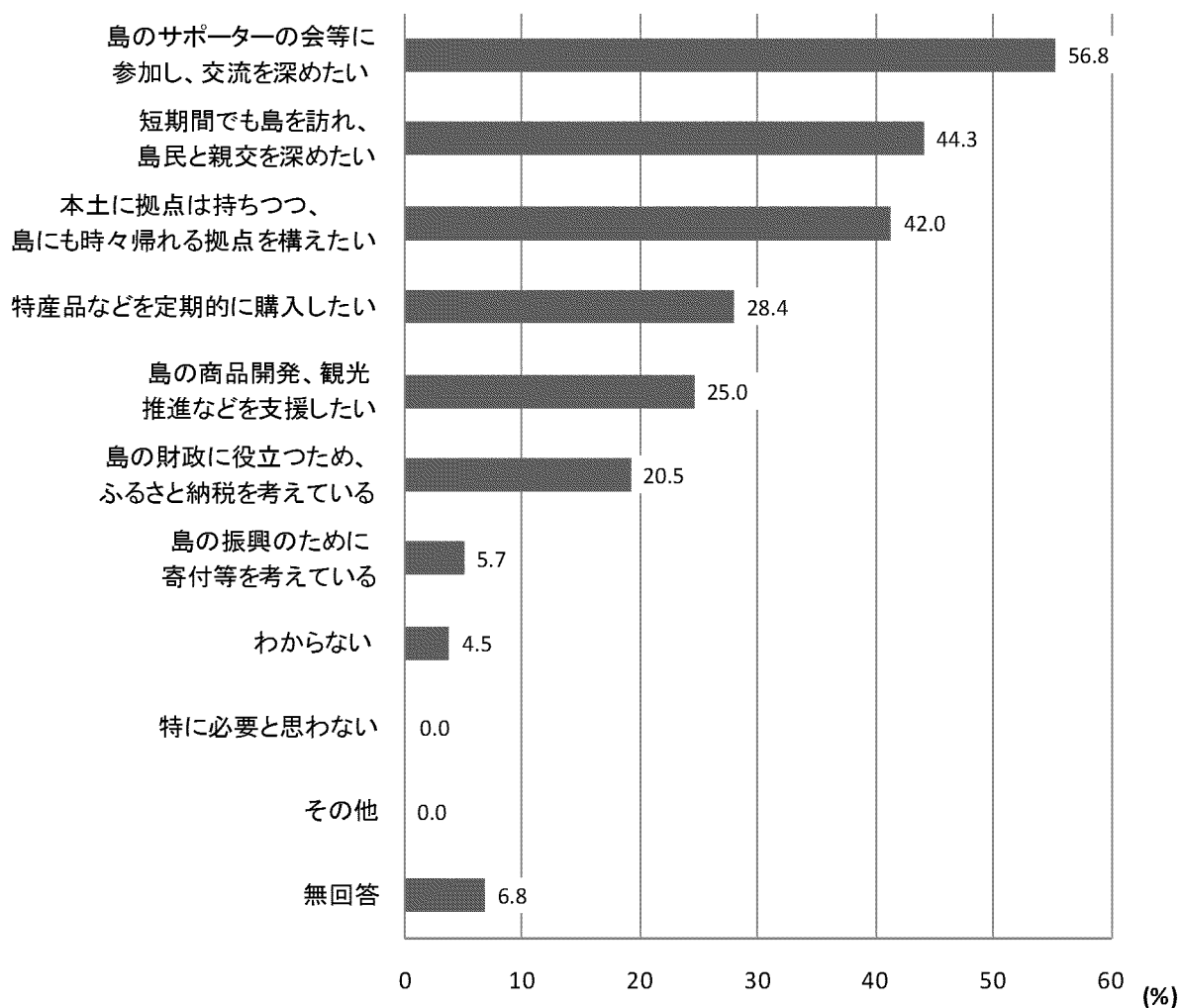
【今後の問題点(n=88)】



問 18 島のサポーターとしての協力・支援について(複数回答:3つまで)
 ~ 第1位は「島のサポーターの会等に参加し、交流を深めたい」(56.8%)

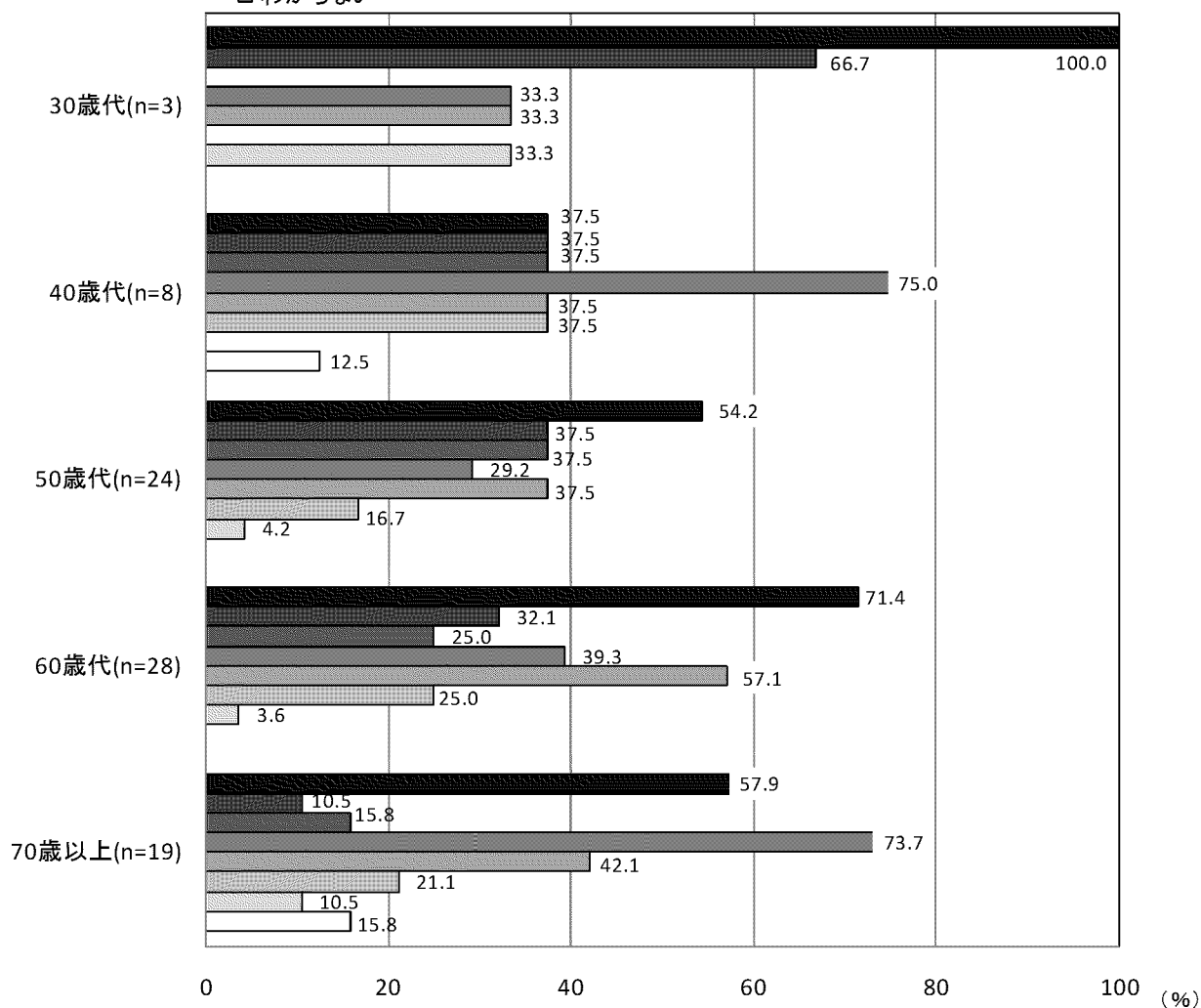
- 島のサポーターの活動意向としては、「島のサポーターの等に参加し、交流を深めたい」が 56.8%で最も多く、次いで「短期間でも島を訪れ、島民との交流を深めたい」が 44.3%、「本土に拠点は持ちつつ、島にも時々帰れる拠点を構えたい」が 42.0%、「特産品等を定期的に購入したい」が 28.4%、「島の商品開発、観光推進などを支援したい」25.0%、「島の財政に役立つため、ふるさと納税を考えている」が 20.5%、「島の振興のため寄付等を考えている」が 5.7%となっている。

【島のサポーターについて(n=88)】



【島のサポーターについて】

- 島のサポーターの会等に参加し、交流を深めたい
- 特産品などを定期的に購入したい
- 島の商品開発、観光推進などを支援したい
- 短期間でも島を訪れ、島民と親交を深めたい
- 本土に拠点は持ちつつ、島にも時々帰れる拠点を構えたい
- 島の財政に役立つため、ふるさと納税を考えている
- 島の振興のために寄付等を考えている
- わからない



〈十島村の振興開発に関する自由意見〉

ゆかりの島	年代	自由意見
口之島	50 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後さらに高齢化が進み、介護の必要な方が増大することが考えられます。十島村の役場が鹿児島島にあるように高齢の方が安心して入居できる高齢施設が鹿児島島にあれば、家族や高齢者も安心だと考えます。介護を必要とする方の家族が施設選びなど、とても苦悩されています。我々もいずれは老いを迎えます。知り合いの方々が遠くの施設に入所したり、家族が施設入所にとっても苦労しているようです。 ● 今は後方支援としての応援しかできないが、自分の故郷でもあり、大事にしています。長い活動（地域活性化）を続けてください。いつか実を結びます。 ● ①フェリーとしまの待合所内に観光客用のパンフレット等が無い。②島内での各種イベントをもっと増やしてほしい。③出身者と島民との話し合いの場が少ない。④島民の方も役場職員の方も十島村発展の為に頑張っていると思いますが、島民同志の不仲を耳にしますと残念ではありません。まず島民の方が仲良く明るい島になることを願っています。 ● Iターン、Uターン支援は良い事だと思いますが、明らかに島に住むとは思えない人が多すぎる。島の竹の子、ツワの製品化、アドバイス支援はどうでしょうか？大名竹など売りたいけどという話は聞きます。お年寄りなど。
	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 島民の振興を深めるための行事等を、島の持ち回りで行ったらどうでしょうか。 ● 特産品等についての販路拡大について工夫されたらどうでしょうか。 ● Iターンの方々が生産される塩やドレッシングが、とてもいいと思います。どこかの郵便局等に置いて注文をとると良いと思う。正月とか、欲しくてもすぐ手には入りません。米の生産者がいなくなったことも淋しいです。一緒に棚田の光景も失われました。改革、改善の名の下に伝統文化が失われていく事は、島が遠くなることにもなります。”結”の心、みんなで、大切にしていって、心やさしい島人でありたいと思います。自治会運営等について、若い方達は研修でもされているのでしょうか。活気ある思いやりのある島、村づくり、若い人が夢を持てる（物質面のみでなく）場所になりますように。※節目の同窓会等、母校でするなどどうでしょうか。 ● 道路、建物等の整備ができていません。草木、竹におおわれた道路、朽ち果てたような建物が見受けられます。道路等の維持補修は、村の人たちに雇用対策用として行う。村の人口対策として、I.Uターンだけでなく、村役場職員も2〜3年各島に家族で転勤し村の人口を増やし、島の実情、島民との交流を計る。十島村だけの動、植物の保護を行い観光用にPRする。 ● 若者が生活できるよう、牛だけでなく何か収入が得られるよう、中期で産業でもおこしてほしい。 ● 10年いや20年前から比較しても大変十島村は発展してきております。しかしながら、村全体からの住民の減少が気になります。今後は産業誘致等を積極的に導入し、雇用を考えていくことが重要かと。そのために道路整備、ただ作るだけでなく竹等道端に出てきているものの整備等、日雇いでできること等があります。 ● 一部の島かもしれませんが、島民が一つにまとまらないと発展しないと思う。肥後村長が若いので、役場職員も村長の手足とって頑張ってもらいたい。島には帰れないが気にしています。 ● 島と本土とのアクセスが、もっと良くなってほしい。船便が多くなることを望んでいます。若者の働く場があればいいと思います。

口之島	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 40 数年ぶりに OB 運動会ツアーで参加しました。終日出港まで感動の連続でした。ふるさと支援の最たることだと思いました。船のスケジュール等、年間で計画してほしいです。もっともっと増加すると思います。①Uターン、Iターンの奨励化、それに伴い、少子高齢化の解消。②定期便の増便 ③医療施設等の拡充 ④定着できる就業先の確保
	40 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業、畜産、漁業等に関係する高校、大学等に進学する子供達に、何か特別に支援する制度ができれば、そういう方向に進み、島に帰ってくる子どもたちも増えるかもしれない。 ● 私たちの心の財産「十島村」の為に日々努力されていらっしゃる役場職員の方々には本当に頭が下がります。しかしながら多くの難題は現場に足を運んで実感してみても、何かが見えてくるのではないのでしょうか。十島村の将来のために皆で頑張りましょう。 ● 十島村が変わっていない理由として、行政と議会の責任が大、柔らかく頭で取り組むべし。せっかくの美味なさつまいもが生産されるのに生のままでは、害虫の関係で、本土に出荷できません。焼きいもにし、冷凍真空パック化し、消費者が電子レンジでチンすれば焼きたての焼きいもになります。(広大な中之島日出地区の土地の有効活用および雇用の創出につながると思います。) ● 車検の時、車を鹿児島まで運ぶのに往復でかなりのお金がかかり、車検代を加えるとかなりの金額になる、との話を聞きました。車検の車は輸送代を安くするなどしたほうがいいのかと思います。
中之島	50 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 島に想いを寄せる人は、自分を含めて多数いると思います。そして十島は、やはり行政主導でないと難しいと思います。そこで今後は、出身者やU、Iターンの方々とは積極的な会合を持って、一緒になって進めることが最善の策と思います。住民も頑張っていると思いますが、出身者等も依頼されたら協力を惜しみません。 ● 自然の恵みがたくさんあるので、マスコミのアピールが多く取り上げてくれるとよい。(例)早朝のアカヒゲの声、姿を目の前で見られる。うぐいすの声、姿も見られる。5月には竹の子、つわを沢山取って持参できる。魚もおいしい、たいもも大好評。魚の油(EPA)。産物はすべて体に優しく、健康維持に欠かせないものばかりです。 ● 中学校まで島で暮らしていましたが、その時は不自由は感じていませんでした。若いころは、都会の便利さに慣れ、島では暮らせないという思いもありましたが、年を重ねた今は、もう一度暮らしてみたいと、思うようになりました。物はないけど心は豊かに暮らせるような気がします。そこで暮らしている人には不便かもしれないかもしれませんが、それが又、島のよさでもあると思います。今より悪くならないようにしていただきたいと思います。 ● 役場庁舎を十島村内に移転し、支所を鹿児島市に置くというような、大胆なことを行うのはどうでしょうか。役場職員も毎日、現地の状況を体感して、本気で十島村の発展について考えるのでは……。インターネット等が発達した現在、役場庁舎を本土に置く必要はないと思いますが。 ● お世話様になります。今後ますますの発展をお祈りいたします。 ● 十島村が少しでも良くなることを望みます。 ● 父の勤務(学校)の関係で小学校から中学校にかけて5年間2つの島で過ごしたものです。アンケート対象者としてはすぐわかないと思いましたが、回答させていただきました。

中之島	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 各方面から意見、提案等があれば村のために役立つと考えられたら、すぐ行動にうつす。共に頑張りましょう。 ● 定年して帰っても仕事があったらいいと思います。年寄りが多いと思います。やはり医療、福祉が大事だと思う。 ● 自然を活用した、各島の観光案内ができる場所を作り、昔の語り部（ボランティアガイド）を要請することも大切だと思います。I.U ターン者、島民の男女問わず、出来るものでいい。少しでも島へ訪れる観光客を目指して下さい。 ● 現在は若者の時代、新しい意見を充分聞き取り入れてもらいたい。インターネットとか活用してもらいたい。
	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 私は仕事の関係で各島（十島村、三島村）を訪問しますが、民宿の食事や寝具の不衛生面が悪いのでは。勿論すばらしい民宿もありますが来てよかったと思い、知人、友人、又は家族を連れていける素晴らしい民宿を指導してください。もう一つ願いは、食事は近海の生のよい魚は加えてください。宿泊費は少し（中ノ島、口ノ島）に合わせても結構ですよ。
平島	50 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 特産品の 6 次産業化（専門者を活用）を進め、インターネットにより全国的に販売するようにする。
	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 1. トカラ島エゴ意識が島の発展の阻害要因。これをどう改善していくかがテーマになると思う。 ● 2. トカラは一つ、島は一つという村民の当事者意識がない。何か運動的スローガンをもって村民の意識変革を起こす必要がある。そのためには島間交流の人材育成の手法も 1 つと考える。 ● 土地、家の登記に関する整理を早急に行うことで島に拠点を持つ者も増えると思います。 ● 各島に高齢者と幼児施設があると、若者も職労場所が増え、よいと思います。
諏訪之瀬島	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 荷物の送り賃を夜の分も安くしてほしいです。
	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 今のままを充実守って行けたらいいなあと思います。一昨年帰島しました折、びっくりしました。離島での作業、工事大変御苦労様です。今後も各島が発展されますことお祈りいたします。ありがとうございます。 ● 少子高齢化は日本全土の動きです。島では特に顕著に現われているようです。島のよさを、いろいろな場、機会をとらえて大いに PR する必要があります。「住まいは提供します」十島村でしばらく生活してみませんか。年齢は問わず！夢をいっぱい広げてくれる所。生きがいを作ってくれる所！これが十島の魅力だと思います。役場の皆さんのこんなアンケートの実施が貴重です。
悪石島	40 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 島は大好きです。しかしながら、今の生活を変えることは難しいのが現実です。かと言って、大切な故郷、いつでも帰ることのできる環境であり続けてほしいと思います。何か出来ることがあれば、ぜひ協力していきたいです。 ● 乗船回数が年 10 回あったら片道の割引などあったら夫婦家族で利用する機会もあるので。運賃の他に民宿代の割引などあったらと思います。 ● 島が高齢化するなか、趣味が生かせたり、陶芸や手芸等、年に数回でも生涯学習講座等が開かれているのでしょうか？ ● 定年退職後移住したいと思うのですが、持病に対する不安もあります。 ● 働く場がないことには生活できない。これからは公共工事に依存するのではなく（今はあまりないと思うが）島の気候、風土を生かした産業興し（観光も含めて）をもっと追究していく必要があるのではないか。 ● 仕事と食生活の不安が一番大きい。

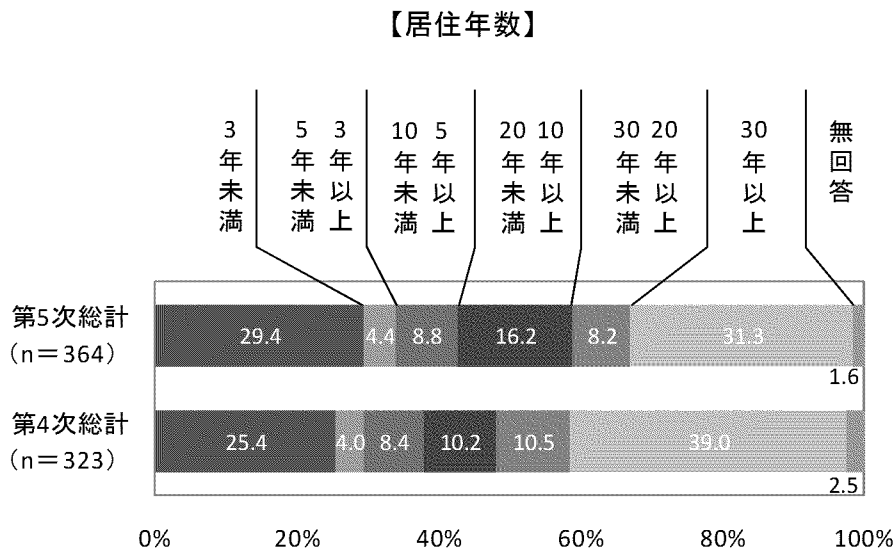
小宝島	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 島に年何回か帰省できればと毎日考えますが、思いがかなわないのが残念です。若い方々に頑張っていただきたい。
	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業、漁業の発展はどうですか。
宝島	50 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● フェリーとしまの乗船切符をネットでも購入できるように検討してほしい。
	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 島民以外の人達でも、住み易い島々になってほしいです。お年寄りでも安心して住める島になるといいと思います。 ● 島を離れ 40 年都会の利便に慣れれば、今更郷里に帰っても、浦島太郎的になっている者には、島で永住する気持には恐らくならない。時折帰島してかつての昔話に面白さが倍増すればと思うが、それでは現在住んで必要に生まれている人に失礼になる。少子高齢化が進んでいて積極的取り組みをしている、他町村についての情報提供していただければ、少しは参考になる提言もできるかと思いますが、いかがでしょうか。
	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 各島出身者が帰省した場合に特産物等の開発について提言を求めるようにしてはいかがでしょうか。 ● 私達の年齢の人は（時代）ちょうど終戦後のドサクサの時期であり、都会に出ていた人がワンサと帰ってきて島では農地が少ない「食べていけない時代」であったため、二男以下の人は皆、都会に出てきて働かざるを得なかった。このため、島の人口は減少し、現在の状態になったのではないかと私は考えます。 ● ①島の若者やＩターン者への温かい支援、指導者等の育成。 ②個々人バラバラでなく集団、組織を生かした、学びあり助け合いの精神をいかに助成するか。 ③投資設備の有効活用、推進。
臥蛇島	60 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 親が臥蛇島出身で自分は宮崎県で育ったので、直接は出生地出ないのですが、何回か十島に行くことがあり島の人たちの明るい性格が出ていて自分も十島で生活してみたいと思っております。 ● 島の人口減少、農業、漁業、畜産業の振興対策を強化し生産者の所得の倍増など十島村各島の独自のやり方で考えていく必要もあるのでは何かと感じています。島の経済活性化の為にも、無人島臥蛇島に自衛隊駐屯基地を作るのも 1 つの案ではないかと思っています。
-	30 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 荷物の輸送費が安くなると良いと思う。
-	40 歳代	<ul style="list-style-type: none"> ● その土地の個性（特産品）を全国に東京のセンスで伝えることが大切では？伝統、風土はそのままでは伝わらないので。

Ⅲ. 第4次総合振興計画策定時に実施したアンケート結果との比較

1. 居住年数

～ 居住年数は「30年以上」が減り、「3年未満」が増加

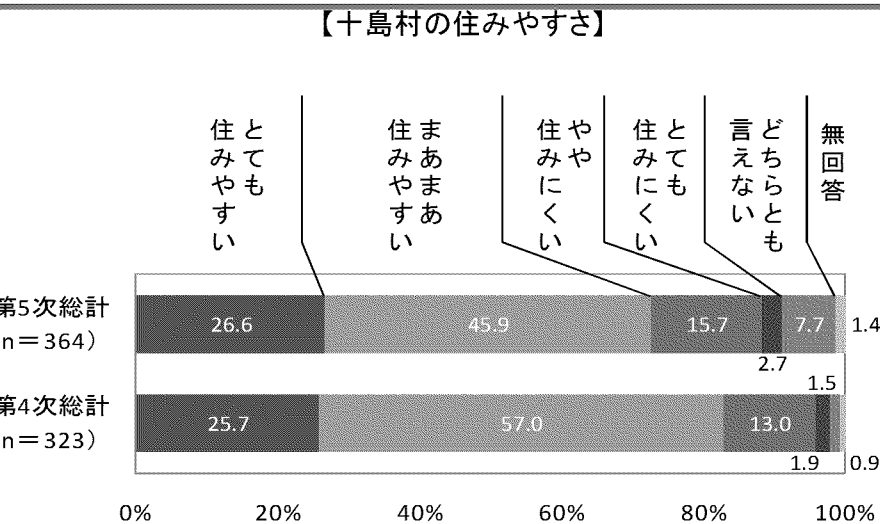
- 居住年数は、前回調査に比べ「3年未満」が4ポイント増、「10年以上20年未満」が6ポイント増となったが、「20年以上30年未満」が2.3ポイント減、「30年以上」が7.7ポイント減となっている。



2. 十島村の住みやすさ

～ 「とても住みやすい」は増えたものの、「やや住みにくい」「とても住みにくい」も増加し、「住みやすさ」の評価が分かれる

- 「とても住みやすい」は0.9ポイント増となったが、「まあまあ住みやすい」が11.1ポイント減となり、「やや住みにくい」が2.7ポイント増、「とても住みにくい」が1.2ポイント増となっている。

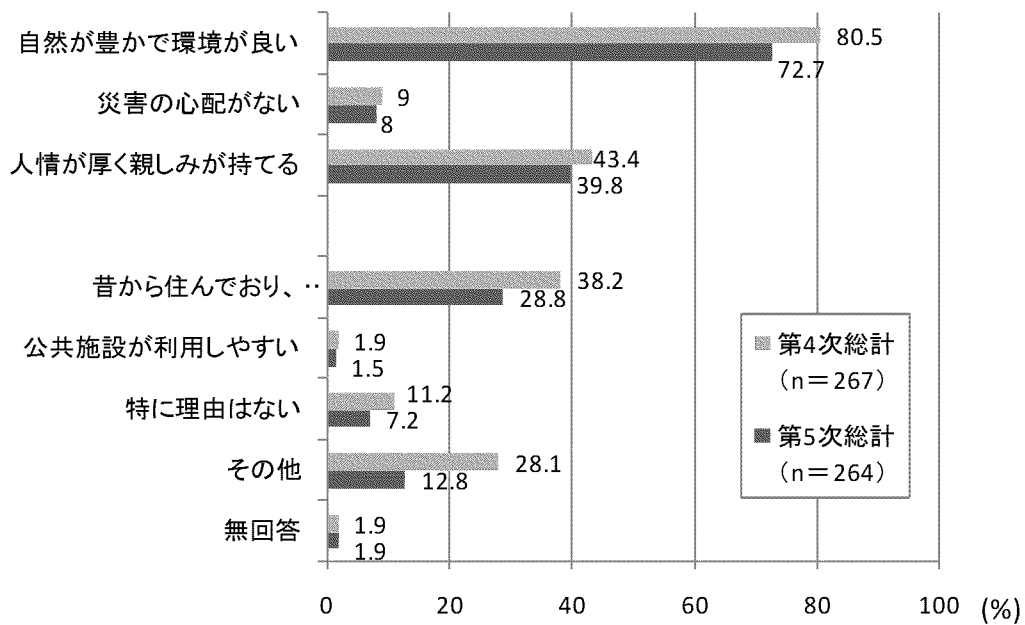


3. 住みやすいと思う理由

～ 「住みやすいと思う理由」の各項目の割合が低下

- 住みやすいと思う理由として、前回調査と同様に「自然が豊かで環境が良い」等の上位3項目をあげているが、その割合はいずれも低下している。

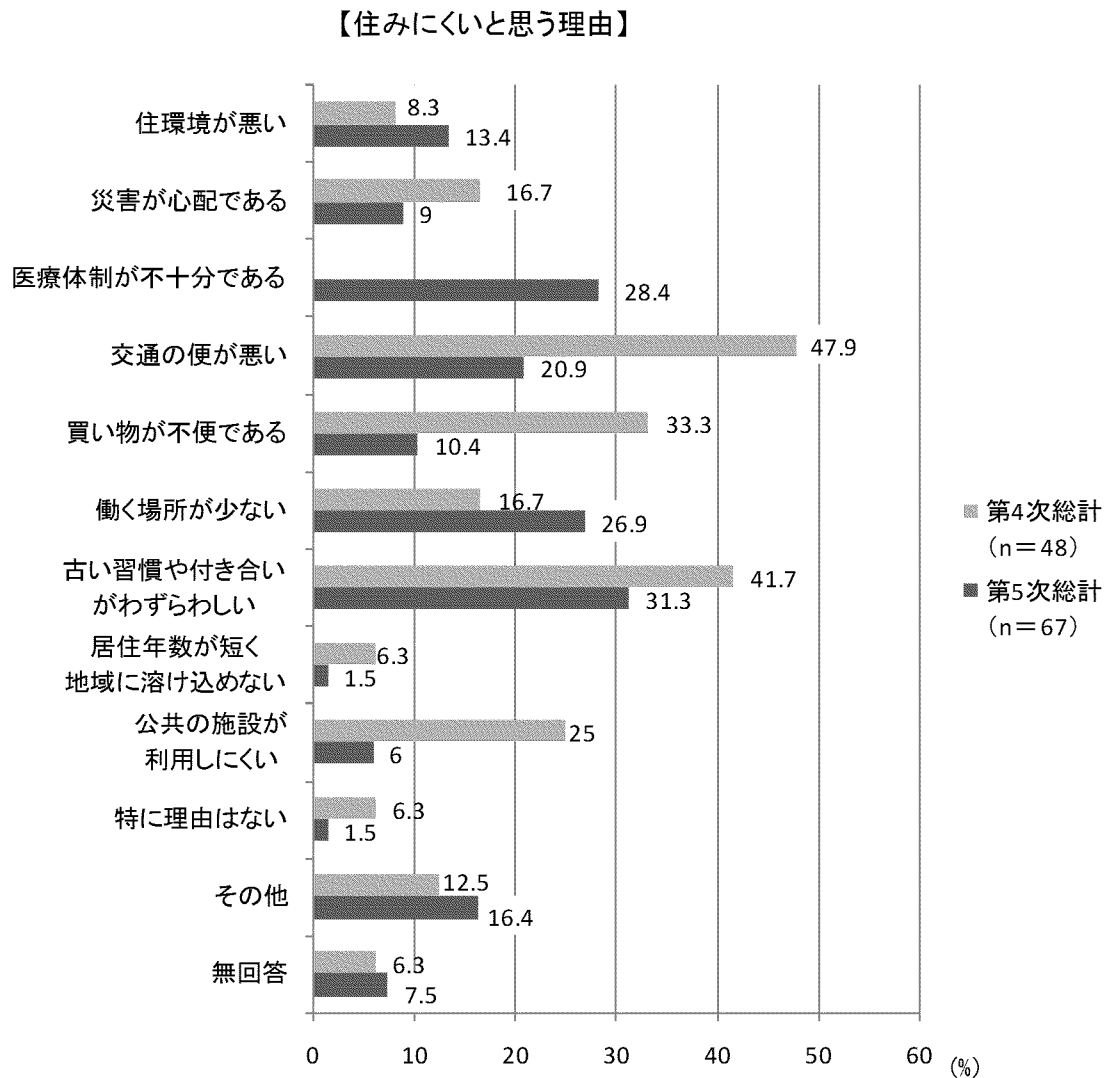
【住みやすいと思う理由】



4. 住みにくいと思う理由

～ 「医療体制が不十分である」「働く場所が少ない」「住環境が悪い」が前回調査に比べ増加

- 前回調査に比べ、「交通の便が悪い」「買い物が不便である」「古い習慣や付き合いがわずらわしい」「公共の施設が利用しにくい」は減少しているが、「医療体制が不十分である」「働く場所が少ない」「住環境が悪い」は増加している。

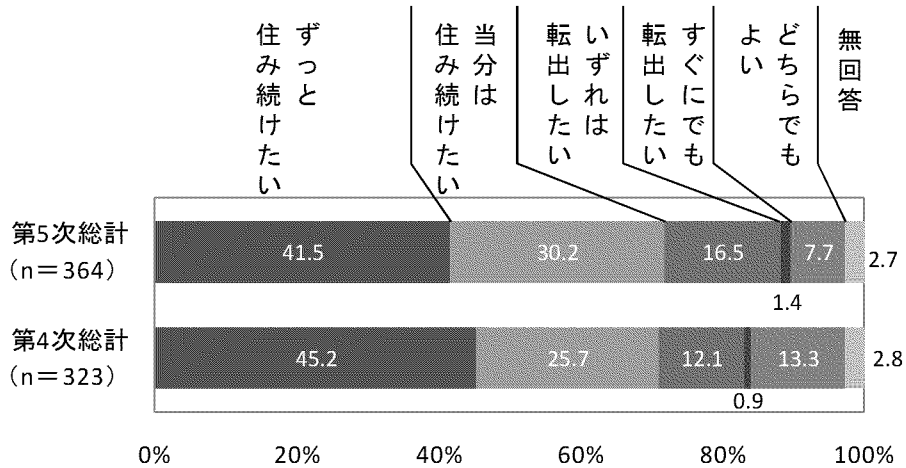


5. 定住意向

～ 「いずれは転出したい」が増加

- 「当分は住み続けたい」は4.5ポイント増となったが、「ずっと住み続けたい」が3.7ポイント減となり、「いずれは転出したい」も4.4ポイント増となっている。

【今後も住み続けたいか】

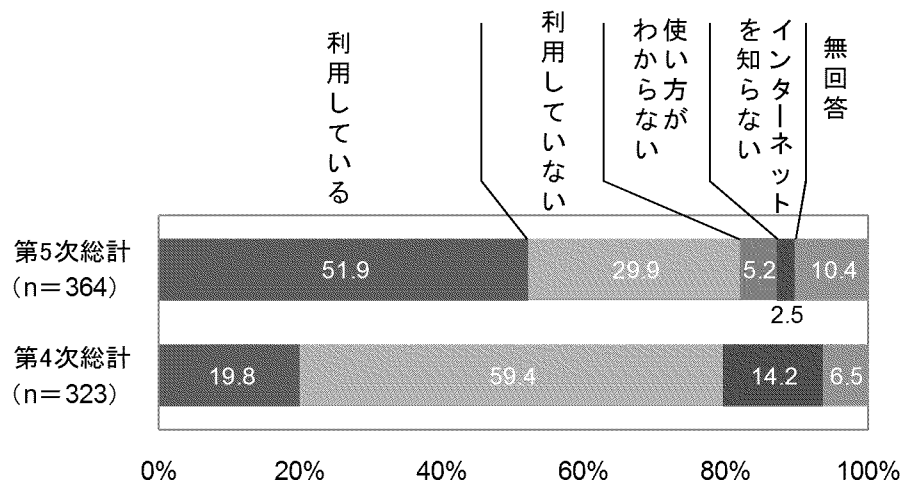


6. インターネットについて

～ 「利用している」は51.9%

- インターネットを「利用している」は前回調査に比べ32.1ポイント増加し、51.9%となっている。「インターネットを知らない」も11.7ポイント減少している。なお、「使い方がわからない」が5.2%となっている。

【インターネットについて】

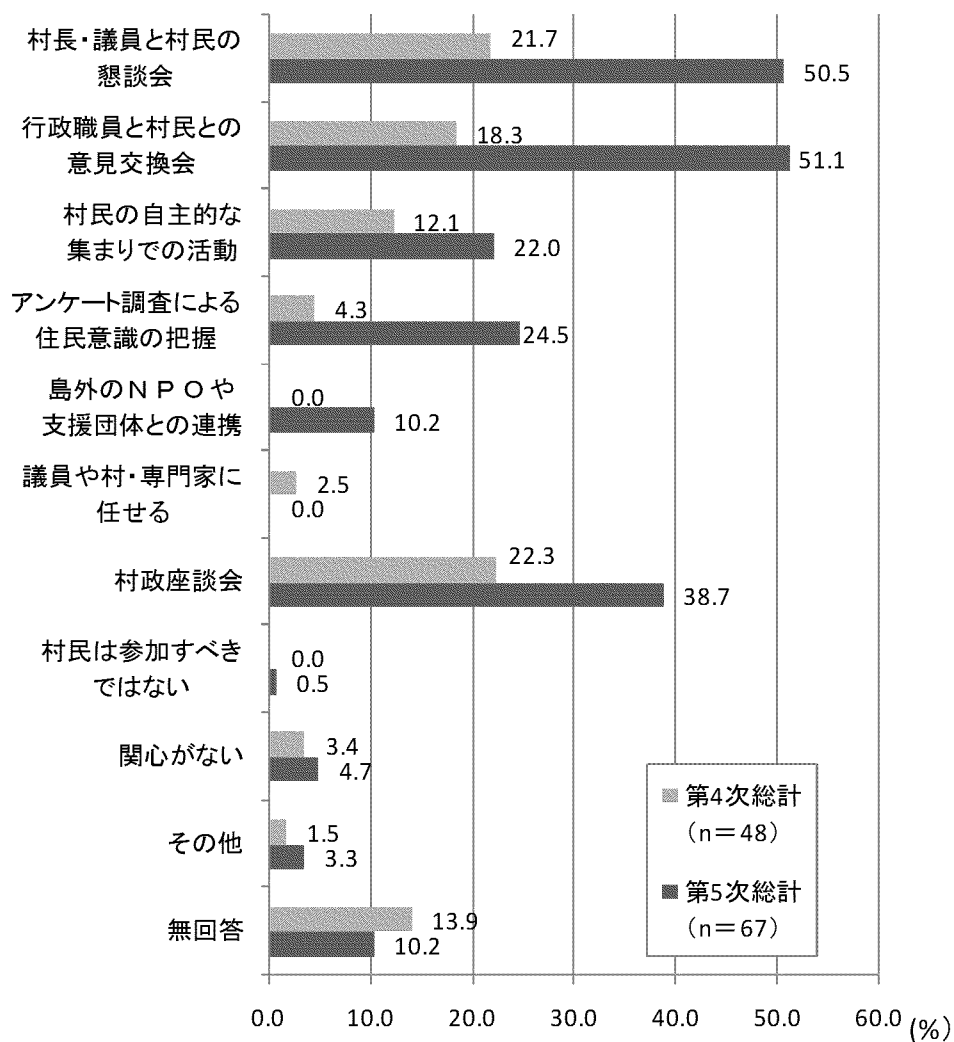


7. 行政への村民参加

～ 村長や議員、行政職員と村民の座談会や意見交換への関心は高い

- 「村長・議員と村民の懇談会」や「行政職員と村民との意見交換会」は前回調査に比べ大幅に増加し、5割を越えている。また、「村政座談会」「アンケート調査による住民意識の把握」「村民の自主的な集まりでの活動」もいずれも増加し、行政への村民参加の意向が高まっている。

【行政への村民参加】



各島検討会意見一覧 (各島検討委員会項目別話し合い結果)

健康・福祉

保健衛生

口之島

- 急患発生等の事態対処の為のヘルパーの育成

中之島

- 特になし

平島

- 健康づくりのための方策や意識の高揚が必要
- 住民検診の受診率を上げることと、内容を更に充実させる（検査項目など）
- 精神衛生面や社会教育で啓蒙していく
- 自主防災組織と同様に見回りを充実させていく
- 1人暮らしの家に旗を掲げるシステムの導入
- いきいき教室の復活

諏訪之瀬島

- 子育てしやすい環境の整備
 - ・子ども診療について、現状1回/月の回数を2回に増やし、定期船の欠航により中止になった場合の代替日を設定する等の取り組みを図る
 - ・島内にいる時、外出する際も常に子どものことを考えながら行動しなければならない。一時的でも預けられる場所があれば安心して用事を済ませることができするため、託児所を設置して欲しい

悪石島

- 特になし

小宝島

- 住民健診とは別に、腹部エコーをとれる時間を作って欲しい。エコー機械はあるのだから検診という形で受診を勧める（検診内容の充実）
- ピロリ菌検査もある
- いきいき教室の継続
- 見回り、声かけ活動の充実

宝島

- TV医療システムを健康相談や栄養指導など予防事業に活用してほしい
- 介護予防の活動を充実するため、高齢者や住民が集える場所の創設、見守り支

援員等の人材育成を進めてほしい

- 保育士等の定期的な派遣や保育の地域サポート制度など、未就学児の子育て支援を充実してほしい
- 地域ネットワークを組織化し、高齢者への声掛け、見守りを計画的、継続的に実施し、日常生活支援を行える体制を構築します

医療

口之島

- はりきゅうマッサージ師派遣の検討

中之島

- 特になし

平島

- 医師の全島配置

諏訪之瀬島

- 住民の救急に関するスキルアップの機会確保
 - ・山が多く平地が少ない、また海に囲まれた島が故、関連した場所での事故や患者の発生確率が高い。特に海の事故が多い。I・Uターン者も多く、知識習得・定着には時間を要するため、年1～2回は実施できるような体制づくりを図る。

悪石島

- 採血検査による最新の検査方法の取り入れについて（医療）
- ドクターヘリの運航範囲について、鹿児島への搬送が可能となるよう住民の生活に則した対応が実施されることを地域は望んでいる
- 常駐医の確保について、実現に向けた取り組みを行うことが望まれている
- 巡回診療について、現在の巡回診療は検査項目が同じ内容で、形式化されているような感じが受け取られるため、巡回診療の診察項目については詳しい診察が可能となるよう取り組むべき
- 看護師の複数勤務について、2人態勢での勤務を取り、地域医療の充実を図ることが望まれている

小宝島

- 毎月1回は確実に巡回診療があるといい（現状では、天候不良で予定がつぶれる）
- 毎便、名瀬航海になり、平日も奄美に行ける（病院等）のでいい
- 巡回診療が無理な時は、島外の病院に行くが、船運賃助成があると助かる
- 奄美の小児科病院を知らせて欲しい
- 村の規模が小さいので、「福祉・教育・医療」を独自でできないと考える。他市町村と連携してほしい。

- 巡回診療も形骸化している
- 看護師1名で島民全員の健康管理は無理。常駐医師に全患者情報を集約できる形がいいと思う
- ヘリ搬送体制を充実すべき。わからない（判断に迷う）場合はヘリを飛ばすべき

宝島

- 常駐医師を確保し、医療の充実を図ってほしい
- 常駐医師の確保が困難ならば、看護師を増員（2名体制に）してほしい
- 診療所を建て替える際は、集落の中心に建ててほしい
- 看取りの在り方を整理してほしい

国民健康保険

口之島

- 意見なし

中之島

- 特になし

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- 税金が高すぎる

宝島

- 特になし

障害者福祉

口之島

- 特になし

中之島

- 特になし

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- 特になし

宝島

- 特になし

高齢者福祉・介護保険

口之島

- 老人給食の復活

中之島

- 介護施設を中之島にも設置し、利用者のため医師の常駐を

平島

- 小規模多機能施設の全島へ（平島→診療所横）
- ヘルパー、介護師の増員
- 訪問ヘルパーの充実（保険料と矛盾する）
- 介護施設マンパワーの問題点の改善
- ヘアハウスの充実

諏訪之瀬島

- 現在宝島に整備されている小規模多機能型居宅介護施設の他の島への展開は検討されているのか
- 在宅介護の充実や時間単位で身の回りの世話をお願いできるようなヘルパー事業の拡充を図る

悪石島

- 介護施設の整備について、宝島にあるような小規模多機能施設が各島に設けられることが、望ましいのではないか。短期間でも介護してもらえる施設整備をすることにより、安心して終末期を迎えることが出来るのではないか。また、介護する側にとって精神的負担の軽減に繋がる

小宝島

- 小規模多機能施設の全島へ
- 高齢になり、また島民の中でも亡くなった方が増え、今いる高齢者も寂しさを強く感じているようである

- 旗のようにわざわざ外に出て掲げなくても、家の中から操作して、屋外に表示されるシステムがいい。(安否確認)
- 高齢者専用的高级マンション建設(都会からの富裕層の高齢者を受け入れ)リゾート感覚のマンションを建設、そこに従事者として働ける(雇用促進)
- 県が作る施設を村内に誘致する
- ヘルパー、介護師の増員
- 訪問ヘルパーの充実(保険料と矛盾する)
- 介護施設マンパワーの問題点の改善
- ケアハウスの充実
- 平成22年に実施した「高齢者の介護視察研修」は霧島にもみんなで行けて、とても好評だった。あのような企画を組んで欲しい

宝島

- 高齢者の人材派遣制度(住環境の美化軽作業など)をつくってほしい

消防防災・生活環境

消防防災

口之島

- 携帯電話の非常用のエリア拡大
- 避難所の開設、避難広場の開設(学校は危険。今はコミセンだけ)
- ドクターヘリ対応範囲の拡大(給油所を整備し、7島全島回れるようにする)
- ヘリポート周辺の整備
- 防災→ポンプ車庫敷地の確保
- 女性防災士の育成(2~3人)

中之島

- ドクターヘリの運航体制を見直すべき
(要請から搬送までの時間をできるだけ短縮するために、要請は日赤ドクターの判断ではなく、消防の判断で良いのではないか、また、平島以南の島でも利用できるようにした方がいい)
- 鹿児島以上に島では早期発見が必要。医療費の抑制からも予防のための検診に力を入れてほしい
- 街灯を増やしてほしい

平島

- 消防団員の確保(女性を含む)
- 少人数で操作可能なポンプの設置(最新のものを)
- 防災時に村の優先を使えるように整備

諏訪之瀬島

- 急患搬送については、現状時間がかかりすぎている。時間の短縮ができるような工夫が必要

○ドクターヘリは現在中之島までしか飛べない。平島以南の島もドクターヘリ対象地域になるような取り組みが必要

悪石島

- 緊急時の飲料水等の確保手段として、各家庭に貯水タンクを整備し非常時に備え、住民生活の安全確保を図る必要がある
- 避難施設への貯水タンク等の整備について、現在の防災計画では、避難場所として小中学校が予定されているが、タンク等の施設が無いため、断水が生じた場合に貯水タンクを整備し緊急時に備えることが望まれている
- 避難施設への貯水タンク等の整備について、プールを整備し緊急時の貯水タンクとしての利用の検討

小宝島

- 初期消火用に林野火災用の消火設備を導入して欲しい
- 消防団員の確保（女性を含む）
- 少人数で操作可能なポンプの設置（最新のものを）

宝島

- ヘリ搬送の迅速化を図るため、早期にドクターヘリを実現してほしい
- 駐在所をつくり、警察官を配置してほしい
- 自主防災組織の自主訓練を計画的に実施し、災害への意識向上を図ります

交通安全

口之島

- 特になし

中之島

- 村道整備 → 経年劣化補修、草払いに予算増額
- 専門の管理事務所を設置し、年間を通じて村道管理に従事する人材を配置

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 道路標識、ミラーやガードレールの整備を図る。

悪石島

- 特になし

小宝島

- 交通教育を充実して欲しい
- 3m道路を4mへ拡幅して欲しい

宝島

- カーブなど危険個所の定期的な伐採をしてほしい
- ガードレールを増設して、危険個所を解消してほしい

交通体系

口之島

- 航路の順路見直し
- 種子島、屋久島との航路の検討
- ななしま船籍港の見直し（村の中間辺りの島の方が良いのではないかと？）
- 定期船の高速化
- 物流にかかる運賃の軽減策

中之島

- 特になし

平島

- 東之浜港の道路整備
- 林道、農道の整備
- 老人のためのシャトルバスの運行
- フェリーのスピード化、バリアフリー化
- 国道58号線を十島村に通してほしい

諏訪之瀬島

- 歯科や耳鼻科にかかる時のフェリーの運賃助成制度を整備して欲しい
- 週3便、全便名瀬便を目標
- 航路順路を、現在の「中之島→平島→諏訪之瀬島」という順序から、「中之島→諏訪之瀬島→平島」に変更されることにより効率的な運航ができるのではないかと

悪石島

- 新船計画について、目的地までの移動の間に快適な時間が過ごせるよう、娯楽施設の充実を図ることも必要と思われる。また、定期船に、ATMを設置することにより郵便局等の金融機関が無い島に置いても利便性が向上され、住民サービスの向上に繋がる
- 島内からの移動時間の短縮について、航路順路変更を含め、住民生活の利便性向上が図られる対策が望まれている

小宝島

- ななしま2がフリーの時に、島から名瀬まで運行してもらえると用事をすませられる
- 毎便、名瀬航海になり、平日も奄美に行ける（病院等）のでいい。

- フェリーが1時間早くなったのには、慣れた
- 高速船を導入して欲しい
- 東防波堤の整備を1日も早くして欲しい
- フェリーのスピード化、バリアフリー化
- 3月（異動時期）盆、正月は週三便にして欲しい
- 林道、農道の整備

宝島

- 道路の経年劣化による危険箇所が増加傾向にあるため、早期補修に取り組んでほしい
- 航路の一日一便体制を望みます
- 航路の順路や接岸港を見直し、運航時間の短縮を図ってほしい
- 代替船建造時は、2等客室にも簡易な仕切りを設けるなどプライバシー対策をしてほしい（参考：フェリー波之上2等客室）
- 代替船の速度の向上を図ってほしい。
（鹿児島ー宝島：10時間、鹿児島ー口之島：5時間）
- 代替船建造時は、娯楽施設を設置してほしい。

水道

口之島

- 貯水タンクの増設
- 農業用水の確保

中之島

- 特になし

平島

- タンクの老朽化（25年使用）
- 配水管の全面改修

諏訪之瀬島

- 将来に備えて新たな水源を確保する。
- ヤマハ跡地にあるΦ13mmの配水管を農業用水として転用したい
- 現状敷設されているΦ13mmの配水管では流量が少なく、農業用水として活用するには不十分。付近にはハウス団地やトヨタ財団事業で整備した農地もあり、農業用水の確保は農業振興を図るために必要。Φ50mmへ本管を切石港までの延長を図ることによって安定的な流量が確保され、農業振興に寄与すると考える

悪石島

- 飲料水の安定供給について、長期間の少雨に伴い水源地水量が減少し濁水となることが度々発生しているため、早急に地下水源の確保等を行い、飲料水の安定供

給に向けた施設整備を取り組む必要があると判断される

- 定住を促進し、人口減少を食い止めるために飲料水の必要量確保が重要な問題であると思われる。生活環境の充実に繋がることが見込まれることから、住民生活に必要な飲料水の量確保に努めることが望まれている

小宝島

- タンクにメーターがついているといい。水不足の時に原因が分かる
- 淡水化施設からタンクへの送水量メーター、貯水タンクからの給水メーター早急に付けて欲しい
- 淡水化施設のバックアップとして、既存の井戸水を使えるようにして欲しい

宝島

- 水道の混濁、水不足を解消するため、必要な設備を整備してほしい。

情報通信

口之島

- システムの改善化 → 畜産、農業、水産価格の情報

中之島

- 島民側からの情報発信が必要だが、やり方がわからない
- 高齢者がインターネットに参加できていない
- タブレット端末の貸出・導入
(他地域では高齢者がタブレット端末を使いこなしている事例がある)
- 健康管理や安否確認にも活用できるツールである
- IT関係の整備はとにかくスピードが大事、もたもたしているとせっかく導入したものが古くて使い物にならなくなる恐れがある
- 携帯電話の不感区域の解消を図ってほしい
- TV会議システムの利用しやすい環境づくり

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- 島内の場所によっては、通信速度が遅く途切れる。無線ランを飛ばしているところはいいが駄目な所もある
- イントラ整備（インターネット導入）の時に、役場から斡旋されたパソコンを購入したが粗悪品だった。もっと業者を吟味して選定してもらわないと困る
- 携帯電話の通信サービスを提供している会社を3社入れて欲しい
- 携帯電話の不感区域の解消を図ってほしい

宝島

- 特になし

住環境

口之島

- 村営住宅の整備（住宅用地及び住宅の整備）
- 駆除対策の強化（がじゃぶ、ぶよ）
- 合併浄化槽排水の再浄化
(排水集中時の浄化不足による悪臭対策として、各家庭の排水を1箇所を集め、再浄化する)

中之島

- ブト駆除に力を入れて欲しい

平島

- 人口増のためにも村営住宅が必要
- 敷地造成を行ってほしい
- 浄化槽の老朽化に伴う改修費の補助
- 焼却炉の設置
- 各島に焼却炉を設置する。または大型焼却炉を一島に配置する
- 廃油処理施設等の対策

諏訪之瀬島

- ガジャブに対しスミチオンなどの薬剤散布など定期的な対策をお願いしたい

悪石島

- 廃屋の管理について、近年は、空き家となった住宅が朽果ててきており、ネズミや蚊やシロアリの発生場所となり、衛生的に好ましくない。また、台風等の強風により、屋根材や壁材の一部が飛来し、危険な状況である。更に、空き家敷地内の雑草や樹木の管理が行われていないため、取壊し等を含め、所有者又は管理者と協議の場を設け、適切な管理を行えるようなシステムづくりを促進してほしい

小宝島

- 村営住宅には、外付けで物置またはミニ倉庫を作ってくれれば生活しやすい。家が狭いので、自然ゴミや自転車などを置いておく場所に困る
- 体育館前から校舎までの区間に街灯が欲しい。
- 焼却炉の設置
- 街灯を増やしてほしい
- ハブ駆除の補助金はこれからも継続してほしい
- 蚊駆除剤の支給をこれからも継続してほしい
- 自然を活かしたエネルギー開発の取り組みをしたらどうか（新エネルギー開発）
潮力発電、地熱発電、風力発電、太陽発電、牛糞によるバイオエネルギーなど

宝島

- 村営集合住宅を建設してほしい
- 再利用の見込めない民家等を処分してほしい
- 新規施設の整備等に必要な電力が確保できるよう働きかけてほしい。

自然保護

口之島

- 希少植物の保護対策の強化（タモトユリ、なごらん）

中之島

- 宮川の整備（岸に森がかぶっている）
- 外来種駆除（イタチ、ネコ、西洋ヤギ）

平島

- 神山としての奥山の保護
- ウオツキ山の植林が必要（生態系を変えないように）
- 海岸の砂浜の保全・復活

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- 島の自然を活かした「観光」づくりをして欲しい

宝島

- 月1回のリサイクル活動では不足しているため、リサイクル施設を整備し、リサイクル率の向上を図ってほしい
- 海岸漂着ゴミの解消を支援してほしい
- 自然水流（真ノの川・寺川等のウナギ・テナガエビ）を保護してほしい

産業振興

農業

口之島

- 農業・畜産業・水産業の共通課題 → 具体的な施策を伴う後継者の育成
- 奨励品目決定までの詳細な調査研究
- 販路拡大への具体的な施策の立案
- 村外での成功例の作物でなく、地域に根付いている作物の研究
- 出荷までの保存対策の強化（島内の冷蔵庫整備）
- 生産団体の組織化
(2～3人1組の生産グループを組織することにより、安定した規格品作物供給)
- 既存住民によるI・Uターン者へのノウハウ伝達

中之島

- 奨励品目が少なすぎる
(チャレンジの価値のあるものを総合評価し、期間を区切って助成してほしい)
- 農地開発の方法に疑問（天地返しの方法など）
- 指導員、村担当者の農業知識・技術の充実

平島

- 農地整備及び農業用水の確保
- 遊休地を活用するために区画整理
- 農道沿いの竹林の活用（休耕地）

諏訪之瀬島

- 農業用水は大量の水を使用するため、水道料金が高騰する。農家の負担軽減と簡易水道への影響を低減するため、農業用水として活用できるため池の整備を図る
- 販路の確保・拡大を図る
- 輸送コストの改善策として、現在、住民が使用しているヤマト、ゆうパックなどの宅配業者との連携強化を図ってもらいたい。お金をかけなくても業者との話し合いの中で改善が図れないか

悪石島

- 特になし

小宝島

- 遊休農地の整備を行って欲しい（IU ターンの呼び込みにもなる）
- 土地がなく、塩害が多い
- 農地整備のように一周道路山手側も整備し利用価値を高める
- 住民、地主にやる気がない。意識改革が必要

宝島

- 灌水不足を補うため、農業用パイプラインやミニダムを整備してほしい
- 農業ボランティア受け入れのための制度を整備してほしい。

畜産業

口之島

- 畜産振興計画に準じたスピーディな事業の実施

中之島

- 若い層の従事者開拓
- 個人の初期投資（牛舎、牧草地、農業機械）が少なくて済む受入体制の充実により、畜産に興味がある人材への周知（島外アピール）

平島

- 牧場の拡大（増牛のため）

諏訪之瀬島

- 村の基幹産業である畜産を活用した定住対策を検討してもらいたい
- 村営牧場など公営牧場の設置について検討できないか。公営牧場の設置によって考えられる利点は、(1)賃金による安定的な収入と経験の蓄積、(2)雇用促進並びに人材育成、(3)公営牧場の母牛貸付による初期投資の抑制、(4)労働力の確保などが挙げられる。一定期間の安定的な収入とノウハウが取得できる環境があれば、移住希望者も安心して移住を検討できる状況になるのではないかと

悪石島

- 人工授精施設の整備について、種牛による自然交配から、人工授精に殆ど以降しつつある状況である。人工授精を行うに当たり、集落の近隣に施設を整備することにより、母牛の発情時期等の管理を適切に出来ることに繋がる
- 放牧場の開発について、集落付近に以前放牧場として使用していた野草地（長迫）があるが、放牧牛の事故が相次ぐ危険箇所があり閉鎖した経緯がある。しかし、集落に近いという貴重な場所であることから、再度野草地開発を行うことで、集落から離れた牧区で母牛管理を行う必要が無くなり、濃密な母牛管理と島全体での増頭が可能となり、繁殖率が向上し収入の増加に繋がることが予想される。また、大峰牧場の外周道路を整備することにより、効率の良い放牧牛管理が可能と

なる。第一・第二牧区は道路を新設し、第三・第四牧区は以前あった道路を補修、整備することにより一周道路が完成し、放牧牛の管理だけでなく観光にも利用することが出来る

- 使用されていない施設の有効利用し、将来は、定住者を含めた新規参入者が容易に利用できるよう施設の整備充実を検討することが必要と思われる
- 母牛管理を適切に行うことが可能になることにより、母牛増頭が可能となることや、未経験者の新規参入の負担軽減に繋がることから、例えば発情発見器等の導入を積極的に進めるなど、機械化を行うことが畜産業の促進に繋がると見込まれるため、取り組みを促進するべきではないか

小宝島

- 島全体で規模を大きくして、会社組織にできれば。(給与制)
- 小宝島は土地の広さがない
- 小宝島は土地が狭い。牛飼いと自然環境維持では、共生ができないと思う牛のえさのために(牧場開発)、環境破壊が進んでいる
- 竹の山への産業道路が整備されると山の上に牧場 2ha が確保できる

宝島

- 港付近に出荷待機舎を整備してほしい
- 新規参入者を支援してほしい。

林業

口之島

- 特になし

中之島

- 木材利用のため工芸職人を呼ぶ
- 日本の業者を通じて高値の付く材を中国に売る

平島

- 牧場内に魚付山のための植林
- タケノコ山の整備
- 竹を使用した民芸品の開発

諏訪之瀬島

- 竹を粉砕して畜産の飼料にできないか。春先の竹の葉には栄養があると聞いている。春に飼料を作って、ラップして保管するのも一つの方法としてある。島内の粉砕機も活用できないか。自家飼料が確保できるような工夫が必要

悪石島

- 特になし

小宝島

- 特になし

宝島

- 特になし

水産業

口之島

- 荒天時における安全な係留施設の整備
(台風等による突風被害による漁船への被害対策: 県の港湾区域の一部埋め立て)
- 水産加工施設の整備
- 製氷所の新設と設置位置の変更
(現製氷所の製氷能力が規格の半分以下に低下している)
- 避難港としての外来船向けのトイレ・シャワー設備の整備
(周辺農地等に野グソ等の被害あり)
※港周辺区域に、加工施設・製氷施設・トイレ、シャワー施設を一か所にまとめる整備ができるのではないか?
- 観光漁業の模索 (漁法、漁場を見せる観光)
- 水産物の資源確保 (「うおつき林」の整備によるプランクトン等の資源確保)

中之島

- 漁獲量を増やす → 大規模な浮魚礁の設置 (沖 500~600m)

平島

- 小型定置網の導入
- 浮魚礁の設置
- 水産物の加工後の販売先の確保

諏訪之瀬島

- 船溜りの整備
- 販路の確保・拡大を図る必要がある
- 輸送コストの改善策として、現在、住民が使用しているヤマト、ゆうパックなどの宅配業者との連携強化を図ってもらいたい。お金をかけなくても業者との話し合いの中で改善が図れないか

悪石島

- 漁業者の育成について、施設の利用者が増えることにより、運転収入の増加に繋がって関係者の負担軽減に繋がることになることはもちろんであるが、修繕等については行政側も負担軽減になることが見込まれるため、積極的に漁業者を育成することを促進することが望まれている

- 水産加工施設の整備について、水産加工施設を整備することにより、獲るだけの漁業から加工販売する手段が増え、様々な収入源が増えることに繋がる。地元施設整備を行うことにより、鮮度を保った状態で加工が出来ることにより、販売価格の安定化が図られると見込まれる。また、市場出荷が困難な少量の物に対しても、加工することにより販売可能となることから、収入源の向上となることが見込まれる
- 水産加工施設の整備について、水産加工施設を整備することにより、施設で働く人の雇用が生まれ雇用の安定が図られる
- 水産加工施設の整備について、過去には、加工機器は導入したが、販売ルートまでの検討が図られず、商品化が継続しない事例もあったと伺っている。製品化する加工物は、販売先まで検討し末永く続くような体制づくりを検討してほしい
- 温泉を利用した養殖業の整備について、現在の水産業は、獲る漁業から育てる漁業へ移行しつつある。この中で、悪石島の温泉（地下熱）資源を有効活用し水産業の育成が図られないか検討を進めてほしい

小宝島

- 漁業もやる気のある人がいない。あまり漁をしていない様子だ
- 若い担い手確保の活動を行って欲しい
- 二次加工の仕方を教わる場を設けて欲しい
- 漁港の改良が必要。干潮時の階段整備 2 か所では少ない。ちょっとした荒天でも港に係留できない
- 船揚場の整備が必要

宝島

- 新規参入者を支援してほしい
- 加工施設の整備を支援してほしい

商工業

口之島

- 特になし

中之島

- 企業誘致 → 税制優遇により企業誘致を図る（コールセンターなど）
- 島外の商工会議所村内の起業希望者との橋渡し

平島

- 国民金融公庫の融資を可能に

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 移動マーケットがあることによって、利便性が向上される。地産地消を行うことも想定し、島で出来たものを買入れすることにより、産業が育成され、島内で販売することにより輸送費が軽減され、安く買入れできるよう、行政が出来る部分と民間が出来る部分でお互いに協力し、運営出来る方法の検討を進めてほしい
- 販売店の整備について、宝島のような販売店があることにより、食生活の負担が軽減されることや、集いの場となることが予想され、住民間のコミュニケーションの場所も設けられることに繋がるのが予想される

小宝島

- トコラインターフェースは役割を果たしてほしい（各島よい材料は揃っているが販売能力が乏しいのでは）

- 鹿児島本港南埠頭のフェリーターミナルに販売スペースを設けて欲しい

宝島

- 特になし

観光

口之島

- 案内板の統一化
- 観光スポットの確立
- 観光産業の育成
- 観光ガイドの育成
- おみやげ品の開発、受入体制の充実
- 観光客の島ごとの来島数の把握（観光で生計をたてるのが可能かの調査）

中之島

- 島一周道路の整備（海が見えるように）
- 宮川整備（沢登り、バードウォッチング）
- ヤルセ（大ガジュマル周辺からやじがうら）をアウトドアスポットとして整備 → やじがうらまでの観光道路（釣り）
- ガジュマル周辺を自然公園に
（高齢者、観光客、児童遠足などが利用しやすい環境づくり）
- スポーツトレーニングに最適な土地柄のため、各団体合宿の誘致

平島

- 遊歩道の整備（大浦）
- 土産品の開発
- 高倉の復活

諏訪之瀬島

- ななしま2を観光分野で活用することにより、島が企画・実施するツアー等ができ、低料金で利用できると観光客が増える。現在の利用料金体系について住民も十分理解していないところがある
- 自然保護とのバランスや環境との調和を図りながら整備を進めてもらいたい
- 作地温泉は秘湯と言われているが、船しかアクセス方法がない。作地温泉まで全行路の道路整備は難しいと思うが、ある程度近くまで車で行けるような道路の整備を検討して欲しい
- アカズミ方面へも陸路で行ける道路の整備を検討して欲しい

悪石島

- ボゼにかかる資料館の整備について、ボゼは、今後も継承していきたい無形文化の一つで、十島村を代表する文化の一つでもある。今後、高齢化が進み、継承者の不測が見込まれることから、資料館の整備により、ボゼに関する資料の貸し出し等、行政側からの要請についても容易に行いやすい体制作りが可能となる。また、ボゼツアー等の観光対策の一つとなることが見込まれる
- 湯泊海中温泉の有効利用について、海中温泉を観光施設の一つとして取り上げるのであれば、施設整備を行う必要があると思われる。施設整備を行い、利用者が容易に使用できる施設が整備されることが、観光客を呼び込む大きな手段と思われる
- 温泉施設の整備について、湯泊温泉は景色が良く、定期船が接岸する場所も一望できることから、観光対策を含め、子供たちも利用できるプールの整備を行えないか
- 温泉を利用した観光開発が有力な手段であると思われるため、来島者が自由な時間を過ごせる施設を整備し、来島者がリアルタイムで情報発信のため、宿泊所内にインターネット回線を整備することも重要と思われる
- 観光箇所の開発について、島内に現在ある観光施設は限られている。景観を生かした資源開発を図ってほしい
- 灯台の付近について、一部未舗装区間が200m程度ある。観光客等が安心して車両の運転等が出来ることが、負担の軽減に繋がると思われるため、舗装を行うことも、有力な観光開発に繋がると思われる
- 観光資源の開発と同時に、ガイドのプロの育成を図る必要があると思われる。観光客を含めた来島者が、気軽にガイドを依頼出来るシステムをつくることにより、観光招致活動に繋がることになるのではないか
- 観光PRのために、プロモーションビデオ等を作成し、広報することにより、広く周知が出来るのではないか。また、ボゼの記録を残すことも重要な事ではないか。観光PRの有効な手段となることが見込まれる他、無形文化財の記録保存にも繋がる
- 島内には、ビロウ樹などが多数あり、景観に適した天然資源が入手でき易いため、これを道路横の街路樹として有効利用し、観光資源として活用するべきではないか

小宝島

- フェリーの抜港があると、民宿予約がキャンセルになる。裏港がないと困る
- 自然や地元野菜などを活かした民宿などが適していると思う
- 環境破壊では、観光が成り立たない。どこまでが破壊か？自然のまま手を付けなければ客は集まるのか？
- 温泉を利用して湯治客を集める（宿泊は空き村営住宅を利用）
- 長期の客を安く泊めるようなシステムを作る
- 竹の山への道路を整備し、頂上に 360° 見渡せる展望台を整備する

宝島

- 砂丘地の復活を支援してほしい
- 観光案内人（ガイド）を育成してほしい
- 観光地の登録制度を創設し、新規発掘観光地の追加をしてほしい

土地利用

口之島

- 農地の流動化対策の促進
- 村有地の有効利用
- 農地農村整備事業の補助整備
- 海辺の景観保全

中之島

- 特になし

平島

- 農地整備 地籍調査のスピードアップ

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 無人島となっている臥蛇島について、離島を守るためにも有効活用できないか検討を進める必要があると思われる

小宝島

- 地主の意識改革（村への土地貸し出し等）

宝島

- 特になし

定住促進

定住促進

口之島

- 特になし

中之島

- 家族連れの移住者を求めているのに、次に建設される村営住宅が単身用であるのはおかしい
- 村営住宅の建設費や維持費を個人の住宅建設の補助金に充ててはどうか。
自分で家を作ろうと思える環境を作る。持ち家であれば定着率も上がるのではないかな
- 地域ボランティア、部落清掃に賃金従事者を総合的に活用する取り組み
- 「人口対策」と「産業（稼げる場所）」は一体である
(まずは第1次産業の強化 → 軌道に乗ってから次の産業形態(6次産業)へのステップアップを図る)

平島

- 10年後に人口100人程度を目標に、あらゆる課題について考えていく

諏訪之瀬島

- 現在住民が住宅を取得する際に交付されている住宅取得助成金について、単身世帯と2人以上の世帯で助成額が同額というのはおかしい。また、住宅に対しては各個人の考え方があり、それぞれ建築する住宅の規模や仕様は異なってくる。
整備する住宅の大きさ等の条件で支給額を変えるべきではないか

悪石島

- 特になし

小宝島

- 10年後に人口50～60人程度と現状を維持する事を目標にする
- 村営住宅の家間に目隠し用塀ブロックを設置して欲しい
- 敷地造成を行ってほしい

宝島

- 特になし

教育・文化

教育

口之島

- 寮母制度の導入の検討
- 親子留学の推進、親への助成金の検討
- 山海留学制度の制度強化

中之島

- クーラーが必要（保健室・給食室・教室・職員室など）
- 子どもたちの郊外活動に力を入れるべき
- スポーツの専門家による指導（子どもたち・地域の指導リーダー）
一流のアスリートと触れ合うことで、子どもたちの自信に繋がる
継続して指導できる人材の育成を（担当教員の任期が終了してしまうと活動が収束してしまう）
- 備品等の設備は各学校に格差が内容に配慮してほしい
- 学校職員が少なく、環境整備が困難 → 定期的に従事する補助員の配置

平島

- 山海留学（受入、利用）、村の理想を維持しながら

諏訪之瀬島

- 学校設備の早期補修をして欲しい
- インターネットの学校教育への活用
- 海外ホームステイ事業の継続
- 村でも何か一つ強化スポーツを定めて取り組むような形があってもよいのではないか
- 現在は鹿児島市内の小学校と交流学习を実施しているが、村内の島を拠点として交流学习を実施してもよいのではないかと。小中学生にとっても、自分の島以外で生活する機会はそう多くはない。諏訪之瀬島であればキャンプなどが考えられる
- 充実した教育をするためにも、新規採用教職員から経験豊富な教職員まで様々な方を配置されるような取り組みを図ってほしい
- 八月踊りの継承

悪石島

- 学校存続と地域活性化の一体となった取り組みについて、山海留学生の受け入れを行い、学校存続を続けることも必要と思われるが、今後については、山海留学制度にプラスして「子どもどし、孫もどし」というような、地元根付くUターン者対策について、効果の見込まれる対策が施されることが望ましいのではないかと。昔の島を知っている方たちが帰ってくるのが、島内にとっても良いのでは

- 島間交流の積極的開催について、他島の方たちと情報交換が出来る場所は、定期船の移動時のみである。同じ行政区域に生活しており、類似した生活内容の部分も多くある。産業や、福祉等様々な情報交換を積極的に行い、地域連携を含めることが出来るような機会、または場所の提供を行政側に積極的に進めてほしい。また、以前あったような、島民挙げての文化祭等の開催を行うことにより、地域連携が進むのではないかな

小宝島

- 島間（学校間）交流がもっとあるといい。ななしま2がもっと運航できるように。（計画していても予定が崩れると、次の代替え予定が立たない）
予備日の設定など
- 運動場が狭いので、思いっきり走らせたい。定期的にもっと体育の授業など宝島本校との合同授業を組んで欲しい。（回数を増やす）
- 極少数規模の学校だからこそ、臨時採用職ではなく、経験のある教諭派遣を希望する

宝島

- 留学生寮の整備や親子留学を充実し、山海留学生の獲得を拡充してほしい

生涯学習・交流

口之島

- 村民文化祭・体育祭の復活と交流

中之島

- 7つの有人島に繋がりを
十島村の最大の特徴である「7つの島」が繋がることで外から見ても暮らしていても魅力的になる
- 一つの島にいても互いの島が見える状態を作る
- 村内交流（他島との交流①大規模な交流、②3、4人からの小規模な交流）
- 村内間運賃を見直し、行きやすくする環境整備をする
- 他の島との共通の話題を作る
- 他の島での特産品販売
- TVコマーシャル作り
- クラブ活動

平島

- しめ縄づくり
- てご作り
- パソコン教室
- 神祭事の継承

- 社会学級で行う
- 島唄の継承
- 地元の伝統芸能の継承、全員参加
- 村内での体育祭の復活、大人の交流の復活
- 村内での交流イベントの復活

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- TV 会議システムを使ってでも、外部講師の講演などの機会があるといい
- ボランティア講師など、外部からでも来てもらえないか
- 県内外との交流事業が欲しい
- トカラ観音集や島子おほらを宝島・小宝島の古くからの民謡を伝承させる
- 村内合同の体育祭を復活して欲しい
- 村内合同のイベント（バレーボール大会など）を開催し他島との交流の場を設けて欲しい
- 県内外との交流事業が欲しい。

宝島

- 月1回の社会体育活動を、昔の農休日のような全島民が集まる交流の日に発展させたい
- 宝島の夏祭りや冬祭りの再現、島唄の伝承を支援してほしい

自治・行財政運営

情報公開

口之島

- ホームページの中身の充実

中之島

- 役場のHPは情報発信が一方通行
- 十島村ホームページのこまめな更新を（工事中が多い）
- 小中学校ホームページの宣伝

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

○特になし

悪石島

○特になし

小宝島

○ホームページには不要な物（終わったイベントの案内等）は削除し、こまめな更新をして欲しい

宝島

○特になし

自治・コミュニティ・地域づくり

口之島

○特になし

中之島

○特になし

平島

○自治会は機能している
○伝統行事の伝承

諏訪之瀬島

○特になし

悪石島

○特になし

小宝島

○特になし

宝島

○特になし

行政改革

口之島

○特になし

中之島

- 役場内組織がわかりにくい、案件の担当者を見つけやすくしてほしい
- 職員の不在が多い

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 特になし

悪石島

- 特になし

小宝島

- 役場の入り口が暗い
- 役場内組織がわかりにくい。誰に声をかけていいかわからない
あまり職員を知らないなので、声をかけにくい
- 総合案内係がいるといい（腕章などでわかるように）
- 職員配置図に押しボタンがあって、職員を呼び出せるシステムなど
- 職員が島のことを知らない
(2～3ヶ月は島で居住してみるといい。わかるようになる)
- 階段のところに手すりが欲しい
- 職員によっては対応のスピードなどに違いがあるので、職員教育を充実してほしい

宝島

- 特になし

庁舎移転

口之島

- 出張所の支所化 → 行政の分散
(各出張所への職員の2～3名の常勤化)
(教育問題との関連：職員の出張所常勤化による学校少子化問題の改善)

中之島

- 十島村で生活した経験のない新規採用職員は在職中に1年程じっくりと腰を据えて生活をするべきである。村に税金を納めることにもなる

平島

- 特になし

諏訪之瀬島

- 人口問題を考えたとき、庁舎移転については分庁化も含めて前向きに検討すべきじゃないか。人口対策として確かにメリットがあるのは事実である
- 移転でも分庁化でもいいからとにかく庁舎を移して職員を島に居住させること。そうすることによって、役場の職員もいろいろなことを考えてくれるのではないか。また、役場職員が庁舎移転によるメリット・デメリットをどう考えるか意見を聞きたい。地域の問題をどのように自分のこととしてとらえるか
- 「分庁化されてあちこちに作られると面倒だ」、「分庁化より村内のどこかの島に本庁舎を造るべき」という意見もある。庁舎移転によって、鹿児島市内などの業者が打ち合わせ等のために島内に行く必要が生じるなど、これまでと違った負担も出てくる
- 人口対策のために庁舎移転を行うというが、人口対策は他のことで考えてもらいたい

悪石島

- 庁舎移転について、各島に平均化し分庁又は、1課1島とする場合は検討課題として取り上げられるが、一つの地域に偏った庁舎移転は望んでいない。また、子や親族も、多くが鹿児島本土に居住しており、自身が住んでいる島以外の生活圏は、鹿児島本土か奄美大島が殆どで、他の島への用事が殆ど無い状態である。このため、役場についても現在の状態が好ましい状態と思われる

小宝島

- I ターン、公務員が来てくれるといい（村に税金を納めることにもなる）
- 庁舎移転は無理だろう。鹿児島にある方が便利（他の用事もあるから）
- 税収が入らないので職員の所得を何割か村の税収にできるような形にする
- 役場機能の部分的な分散を（一部島に）
- 職員の子供を山海留学に

宝島

- 特になし

第5次十島村総合振興計画策定に対する提言

十島村 村長

肥後 正司 様

前略、NPO トカラインターフェイスを設立する際、日高さん、牧口さんと行動を共にしていた田畑和文（中之島出身）です。

まずは、村長ご就任おめでとうございます。（色々大変でしょうが期待致しております。）

先日、弟の元に、“ふるさと会”のアンケートが来ておりました。

（私は、ふるさと会の会員ではありませんが回答は、私が書かせていただきました。）

・・・勿論無記名です。

さて、十島村の再建案の一助になればアイデアが2件ほどありますので、ご検討ください。

- (1) サツマイモは害虫の関係で生で出荷できないことは承知しておりますが、二次加工すれば大丈夫だと聞いています。

今は、経営者が変わりましたが、10年位前、七ツ島に「薩摩城」という物産展がありました。（私が経営分析を3ヶ月ほど担当したところでした。）

現在は、日置市日吉町にある小政酒造から焼酎に使えない、クズイモをタダ同然で買い取り焼き芋にして、それを冷凍真空パックに入れて販売した所、女性客の購買がすごかった事を思い出します。食べる時は電子レンジでチンすれば季節を問わず食べたい時に簡単に食べられるわけです。

中之島日之出地区のサツマイモは最高に味がいいと昔から評判が良かったです、採用されれば雇用が生まれ人口が増え、小北海道と言われた広大な畑も復活すると思います。

- (2) 最近、有機農業がブームになっております。（消費者の嗜好が変化しているのも一因だと思います。）

キーポイントは、“ミミズ”のようです。（資料を添付いたします。）

土の改良を格段に良くするようです。日之出分校のプール跡地を使って飼育実験をしたら、いかがでしょうか？（実際に商売している企業もあるようです。）

まず、サツマイモで試験をして上手くいったら、今度は増産化を図り“ミミズ肥料”として全国に販売したらいかがでしょうか？（高齢者でもできる仕事だと思います。）

これも又、雇用と人口増加に結びつくと思います。

草々

(追記)

総務課長時代から一生懸命に紳士的な仕事ぶりは、忘れておりません。

今回は、つまらないアイデアでしたが何かありましたらまた、進言させていただきます。

平成25年9月24日

田畑 和文

第5次十島村総合振興計画策定（案）への意見

団体名 トカラふるさと会 林英昭

ご意見・ご要望など、考えられるものなどをご記入ください。

1-1-2. 医療について

1. 医師の確保等については、日本国憲法で保障されている基本的人権の尊重や、国民健康保険制度を尊重
 - ①各島へ医師の常駐を実施する。（本土の勤務医等の定年退職者の嘱託活用）
 - ②本土よりも健康の度合いを上げて安心して暮らせる村づくりを行う。
2. 介護サービスの確保等について
 - ①各島で、介護が必要な高齢者が安心して生活出来るように介護施設の拡充とその雇用促進

1-2-3 交通体系、2-2-2 観光について

1. 港湾の整備について（各島の情報の発信基地としての位置付けを行い、船の停泊中及び前後の活用を図る）
 - ①港湾の待合所を充実し、トイレ、売店、観光案内所を設ける。
 - ②待合所の案内に必要な人材の育成を行う。
 - ③各島のオリジナルの商品開発を行う。（1島1品運動）
2. 島内交通網の整備について
観光客等が利用できる、レンタカー、バイク、自転車等の配置整備を行い、狭い道路の改修等を行う

1-2-4 情報通信について

1. 情報通信網の整備は、非常に重要である。島に生活するハンディを克服できる重要な情報源であり、又世界中の情報を同時に得ることで、島にいても今までにできなかった仕事が可能である。

1-2-7 定住促進、3-1-1 農業、3-1-2 畜産業、3-1-4 水産業について

1. 定住促進については、生活の基盤の確立の為、雇用創設の確保が重要である。
島に住んでも意外とお金がかかる現状を考え、積極的な雇用創出の場を提供することが重要である。具体的には、3年～5年以内に生活の安定が可能になるように集中的に支援を行う。
 - ①農業、畜産、水産業等を組織化（企業化）して行う。（個人としての経営は、資金的にもノウハウ的にも限界がある。）企業誘致ならびに、法人化への支援を積極的に行う。
 - ②組織（企業）であれば、長期休暇の取得や、経営のリスクの分散が図れて安心して働ける環境ができる。

- ③農水産物の安定的なルート販売先の確立（アンテナショップの拡充、レストラン、居酒屋等への営業を拡充して、新商品の開発、長期保存、安定確保）に努める
- ④安納芋のような甘くておいしい高級なサツマイモ（島にある黄色い芋）および焼耐用の原料の出荷体制の確立。（冷凍出荷で、持ち出し禁止の廃止？）
- ⑤高齢者の交通手段等の確保（港への移動、診療所への送迎、食事の提供など）
- ⑥一人暮らしの定期的な個別訪問の実施。

1-4-1 教育

1.教育及び文化の振興について

- ①山海留学の充実を図る（いじめや、ひきこもりの児童生徒の受け入れを行う）
- ②里親の専門業の育成（里親の高齢化によるリスクの軽減や、地域への活動への参加）

2-2-2 観光について

- 1. 観光事業は、経済効果としても交流人口増としても大きな期待ができるので、各島のそれぞれの特徴を持つ十島村は、魅力がある。しかし観光ガイドが不足しているので、その育成を図る（島の歴史語り部の育成）
- 2. 年数回の各島2時間程度の観光ツアーを企画する（出身者等へのツアー参加呼びかけ）
- 3. 60歳以上の健康な年金生活者の観光就業を促進することで、安定的な収入（年金）を確保でき、又、人生経験も豊富なことから、余裕分を地域のボランティア活動等に生かせる。
- 4. 本村のPRのための「ゆるキャラ」及び観光大使（トカラ大使）の任命。

4-1-2 自治・コミュニティー・地域づくり

- ①島民と、友好島民、ふるさと会との積極的な情報交換と交流を図る。
- ②ふるさと会の事務局職員の常駐化（有給？）と、情報収集のための費用の交付（通信、交通費等支給）
- ③政策等への積極的な提言を行う。

宝島からの提案

1-1-1 保健衛生

- 行政でやってほしいこと
 - ・ TV 医療システムを健康相談や栄養指導など予防事業に活用してほしい。
 - ・ 介護予防の活動を充実するため、高齢者や住民が集える場所の創設、見守り支援員等の人材育成を進めてほしい。
 - ・ 保育士等の定期的な派遣や保育の地域サポート制度など、未就学児の子育て支援を充実してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 地域ネットワークを組織化し、高齢者への声掛け、見守りを計画的、継続的に実施し、日常生活支援を行える体制を構築します。
 - ・ 介護事業所を拠点として、個々に密着した見守り活動を展開します。

1-1-2 医療

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 常駐医師を確保し、医療の充実を図ってほしい。
 - ・ ヘリ搬送の迅速化を図るため、早期に Dr ヘリを実現してほしい。
 - ・ 常駐医師の確保が困難ならば、看護師を増員（2名体制に）してほしい。
 - ・ 診療所を建て替える際は、集落の中心に建ててほしい。
 - ・ 看取りの在り方を整理してほしい。

1-2-1 消防防災

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 駐在所をつくり、警察官を配置してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 自主防災組織の自主訓練を計画的に実施し、災害への意識向上を図ります。

1-2-2 交通安全

- 行政でやってほしいこと
 - ・ カーブなど危険個所の定期的な伐採をしてほしい。
 - ・ ガードレールを増設して、危険個所を解消してほしい。

1-2-3 交通体系

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 道路の経年劣化による危険個所が増加傾向にあるため、早期補修に取り組んで

ほしい。

- ・ 航路の一日一便体制を望みます。
- ・ 航路の順路や接岸港を見直し、運航時間の短縮を図ってほしい。
- ・ 代替船建造時は、2等客室にも簡易な仕切りを設けるなどプライバシー対策を施してほしい。(参考：フェリー波之上2等客室)
- ・ 代替船の速度の向上を図ってほしい。(鹿児島ー宝島：10時間、鹿児島ー口之島：5時間)
- ・ 代替船建造時は、娯楽施設を設置してほしい。

1-2-5 水道

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 水道の混濁、水不足を解消するため、必要な設備を整備してほしい。

1-2-6 住環境

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 村営集合住宅を建設してほしい
 - ・ 再利用の見込めない民家等を処分してほしい。

1-3-2 高齢者福祉・介護保険

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 高齢者の人材派遣制度（住環境の美化軽作業など）をつくってほしい。
 - ・ 他島の高齢者との交流が図れるよう支援してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 高齢者組織の体制強化を図ります。
 - ・ 介護事業所を拠点として、地域活動への参加等を通じた生きがい・交流対策に努めます。

1-4-1 教育

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 留学生寮の整備や親子留学を充実し、山海留学生の獲得を拡充してほしい。
 - ・ 夏休みを利用するなど、山海留学や里親を体験できる事業を創設してほしい。
 - ・ 役場職員の子や孫を山海留学生として派遣してほしい。
 - ・ 親子留学ができることをもっとアピールしてほしい。
 - ・ 山海留学受け入れ施設を整備してほしい。
 - ・ 学校給食のさらなる地産地消を進めてほしい。

1-4-2 生涯学習

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 定期的な保育士の派遣や子ども預かりサービスなど、未就学児のサポート体制を整備してほしい。
 - ・ 児童公園の遊具やアスレチックの増設、遊歩道やサイクリングロードの整備など、小さな子どもから大人までが集まれる空間を整備拡充してほしい。
 - ・ 放課後や休日を利用したカルチャースクールを実施してほしい。(文化や伝統の継承、スポーツや習い事など)
- 地域での目標
 - ・ 月1回の社会体育活動を、昔の農休日のような全島民が集まる交流の日に発展させたい。
 - ・ 学校も巻き込み、宝島の夏祭りや冬祭りの再現、島唄の伝承を支援してほしい。

1-4-3 交流

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 農畜産、漁業、民泊など実体験をする定住体験ツアーを構築してほしい。
 - ・ 気軽に島間を移動できるバリアフリー船を配置してほしい。
 - ・ 十島村体育(スポーツ)大会を復活させてほしい。
 - ・ フェリーとしまの船内に各島の情報発信や児童生徒の作品を展示できるスペースを設けてほしい。
 - ・ ふるさと会等を巻き込み、里帰りツアーを企画してほしい。

2-1-2 環境衛生

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 月1回のリサイクル活動では不足しているため、リサイクル施設を整備し、リサイクル率の向上を図ってほしい。
 - ・ 海岸漂着ゴミの解消を支援してほしい。
 - ・ 自然水流(真んの川・寺川等のウナギ・テナガエビ)を保護してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 海岸漂着ゴミについては、長期的な視点でゴミ問題として取り組みます。

2-2-2 観光

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 砂丘地の復活を支援してほしい。
 - ・ 観光案内人(ガイド)を育成してほしい。
 - ・ 観光案内人(ガイド)の登録制度を創設してほしい。

- ・ 観光地の登録制度を創設し、新規発掘観光地の追加をしてほしい。
- ・ 観光者ひとりひとりの要望や相談に応じる観光コンシェルジュを設置するなど、十島村観光のオリジナリティをつくってほしい。
- ・ ITに強い人材を派遣してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 可能などころから砂丘地の再生を行います。
 - ・ 宝島のホームページをつくります。
 - ・ 島の観光資源の発掘調査や研究をします。

3-1-1 農業

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 灌水不足を補うため、農業用パイプラインやミニダムを整備してほしい。
 - ・ 農業ボランティア受け入れのための制度を整備してほしい。
 - ・ フェリーとしまで無人販売をするなど島間の食品流通を支援してほしい。
 - ・ 村全体で6次産業化できるような仕組みを構築してほしい。
 - ・ 堆肥生産流通体制の確立への支援をしてほしい。
 - ・ 集落営農による共同作業体制を構築するための支援をしてほしい。
 - ・ 先進地研修への支援をしてほしい。
 - ・ ボランティアの受け入れを支援してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 学校給食等において、更なる地産地消を進めます。
 - ・ 農業ボランティア受け入れの拡大を図ります。
 - ・ 昔ながらの農村を見直し、宝島の資源を使った宝島でしかできない農業をした

3-1-2 畜産業

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 港付近に出荷待機舎を整備してほしい
 - ・ 新規参入者を支援してほしい。
- 地域での目標
 - ・ 新規参入者を育成します。

3-1-4 水産

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 新規参入者を支援してほしい。
 - ・ 加工施設の整備を支援してほしい。

- 地域での目標
 - ・ 新規参入者を育成します。
 - ・ 加工まで一貫して取り組みます。

4-2-2 庁舎移転問題

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 村内移転を目指して努力してほしい。

その他

- 行政でやってほしいこと
 - ・ 新規施設の整備等に必要な電力が確保できるよう働きかけてほしい。
 - ・ 介護事業所を雇用対策の拠点として活用してほしい。

十島村総合振興計画審議会 審議委員

委員区分		地区名	氏名	会長 副会長	
1号	各島地域代表	口之島	永田 勇		
		中之島	平泉 二太		
		平島	日高 利成		
		諏訪之瀬島	山木 廣美	会長	
		悪石島	西 茂久		
		小宝島	岩下 光則		
		宝島	平田 浩一		
2号	村議会議員	該当者なし		—	
3号	村教育委員会委員	悪石島	坂元 勇		
4号	村農業委員会委員	中之島	安藤 澄也		
5号	各種団体役員及び職員	高齢者代表	口之島	山之上 満	
		社会教育委員	平島	用澤 満男	
		荷役組合	諏訪之瀬島	秋庭 ナラ	
		女性の会	悪石島	有川 暢代	
		子ども会育成会	小宝島	清水 三郎	
		花運動推進委員	宝島	坂井 勇貴	
6号	学識経験者	(株)浪漫	鹿児島島	黒岩 尚文	
		前村長	鹿児島島	敷根 忠昭	副会長
		ふるさと会	鹿児島島	林 英昭	
	オブザーバー	NPO	日高 重成		
		漁協	岩下 浩二		

十島村総合振興計画

作業部会委員名簿

連番	所属課	人員	職	氏名
1	総務課	6	課長	福澤 章二
2			室長	村山 勝洋
3			主査	有川 孝志
4			主事	國生 康弘
5			主事	安庭 智美
6			主事	藏町 拓郎
7	住民課	2	室長	安藤 巧
8			室長	伊瀬知 智子
9	土木交通課	2	室長	上村 晋一
10			室長	肥後 勇喜
11	地域振興課	2	室長	肥後 亘
12			主査	隈元 仁志
13	出納室	1	会計管理者	日高 尚子
14	教育委員会	1	主事	平田 直巳